

326

318

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20

始



大正八年四月

長崎商業會議所創立二十五周年紀念

第八册

長崎港最近二十五年概觀

長崎商業會議所調查部

326-3/8



長崎港最近二十五年概觀

寄贈本

大正
8. 5. 16
寄贈

長崎港最近二十五年概觀

目次

第一章 總說	一—三
第二章 貿易	四—九七
第一節 自明治二十六年至明治三十五年貿易狀況	四
第二節 自明治三十六年至明治四十五年貿易狀況	七
第三節 自大正二年至大正七年貿易狀況	四六
第三章 產業	九八—一九
第四章 商工機關	二〇—三八
第一節 銀行	二〇
第二節 倉庫	二三—三五
第五章 金融	三九—七九

正誤表

頁	行	誤	正
四五	九	輸出に於て	裕
七七	八	壓倒	壓倒
一一二	一三	百圓以下	百圓以上
一五六	八	前末	前月末
一八七	一四	株式主時總會	株式臨時總會

第六章 運輸交通……………一八〇—二三三

第一節 陸 運……………一八〇

第二節 海 運……………二〇一

第七章 港 灣……………二三四—二八〇

第一節 浚渫及築港……………二三四

第二節 港 灣 現 況……………二五〇

第三節 海陸聯絡施設……………二六七

插入圖表索引

自明治二十六年至明治三十五年長崎港外國貿易價額表……………五

自明治二十六年至明治三十五年長崎港外國貿易主要國別價額表……………六

自明治三十六年至明治四十五年(大正元年)長崎港外國貿易價額表……………八

自明治三十六年至明治四十五年(大正元年)長崎港輸出貿易主要國別價額表……………六

自明治三十六年至明治四十五年(大正元年)長崎港輸入貿易主要國別價額表……………六

最近五ヶ年間本邦外國貿易價額表……………四七

最近五ヶ年間長崎港貿易價額表……………四七

長崎港外國貿易消長比較表……………四八

大正五年長崎港外國貿易洲別比較表……………五四

大正六年長崎港外國貿易洲別比較表……………五六

最近五ヶ年間長崎港外國貿易消長比較表……………五七

最近五ヶ年間長崎港外國貿易主要國別價額表……………五八

最近五ヶ年間長崎港外國貿易主要品別價額表……………五八

最近五ヶ年間長崎港對關東州輸入貿易主要品別價額表……………六〇

最近五ヶ年間長崎港對香港輸出貿易主要品別價額表……………六一

最近五ヶ年間長崎港對英領印度輸入貿易主要品別價額表……………六二

最近五ヶ年間長崎港對比律賓輸出貿易主要品別價額表……………六四

最近五ヶ年間長崎港外米輸入高表……………六五

最近五ヶ年間長崎港對英國輸入貿易主要品別價額表……………六六

最近五ヶ年間長崎港對米國輸入貿易主要品別價額表……………六八

最近五ヶ年間長崎港特別貿易價額表……………七〇

四

最近五ヶ年間長崎港船用品特別輸出價額表……………七一

最近五ヶ年間長崎港水産漁獲物特別輸入地方別表……………七二

最近五ヶ年間長崎港特別輸入水産漁獲物主要品別價額表……………七二

最近五ヶ年間長崎港外國仲繼貿易價額表……………七四

最近五ヶ年間長崎港外國仲繼貿易主要品別價額表……………七五

最近八ヶ年間長崎港對朝鮮貿易價額表……………七六

最近五ヶ年間長崎港對朝鮮主要移出品別價額表……………七七

最近五ヶ年間長崎港對朝鮮主要移入品別價額表……………七九

最近五ヶ年間長崎港對朝鮮仲繼貿易價額表……………七九

最近十ヶ年間長崎市内各銀行金融表……………一二〇

最近五ヶ年間市内六倉庫貨物出入表……………一三四

最近十ヶ年間長崎驛旅客及貨物發着表……………一九六

最近十ヶ年間長崎港内外艦船發着表……………二〇五

最近十ヶ年間長崎港内外船客發着表……………二〇六

長崎港最近二十五年概觀

長崎商業會議所調査部

本山桂川編著

第一章 總說



元龜元年葡萄牙商船始めて來りて我が長崎に互市を請へるより大正八年の現在に迫るに三百五十年。若し夫れ唐宋以前の對支貿易を數へんか、更に一百五十年を遡るべし。本港に於ける外國貿易の淵源、其由來する所斯の如く古し。これが史的記述に關しては優に浩瀚數萬頁を費さるべからずと雖も、別篇長崎對支貿易の沿革を叙するに當り、纔かに之を併記するにとどめ茲に説述を省略せり。請ふ、長崎對支貿易最近二十五年紀要「附長崎對支貿易沿革」第一頁乃至第一百二頁を參看せられむことを。

本縣長崎市元標は東經約百二十九度五十二分、北緯約卅二度四十五分に位し、市街東西一里十七町十四間、南北一里二十二町三十一間、周圍六里二十二町三十三間、陸地總面積一・〇七二餘方里、約四百七十四萬五千八百三十坪なり。四圍總て長崎縣西彼杵郡にして東は上長崎村

長崎港概觀

西は小櫛村、北は浦上山里村と境を接し、西南の一方長崎港灣を擁して外海に開く。港灣碇泊所廣袤東西三百三十間乃至七百間、南北六千間、滿潮時三十四尺五寸乃至四十三尺三寸、干潮時二十一尺乃至三十尺なり。

市街町別現在二百二十八ヶ町、大正六年末日調査戸數二萬七千二百九戸、同現住人口十八萬八千六人と算せらる。尙其正確なる計數は大正九年全國國勢調査完成の結果に俟つべきものと雖も、然かも現在既に人口二十萬と見るも虞らくは過當ならざるべし。

顧みるに明治二十二年四月始めて市制を實施せられ、從來總町九十町に加ふるに同年上長崎村の内船津、岩原、西山、片淵、夫婦川、櫻馬場、伊良林各郷の一部を以てし、更に明治三十一年三月更に上長崎村の内船津、西山、中川、岩原、櫻馬場、伊良林各郷の一部と、下長崎村高野平、小島、十善寺各郷の全部、戸町村の内大浦、浪ノ平、下郷の各郷全部、浦上山里村の内馬込、里の兩郷、浦上淵村の全部及び小櫛、木鉢の一部とを市部に編入し、大正二年四月これらの郷名を廢し代ふるに町名五十六を以てせり。又明治三十七年港灣改良工事竣工し埋築地成るに當り、別に町名を附すること五十餘ヶ町爾後益擴張して以て今日に及べり。

之を人口の膨脹より見れば明治二十二年市制實施當時僅かに五萬四千五百を算したりしもの明治廿五年には六萬二千となり、同卅年には七萬四千、同卅五年には十四萬九千、同四十年に

は十七萬三千を數へたり。後戶籍原簿の整理あり、聊か統計表上の減少を見たれども大正五年末には十八萬二千六百九十五人(二萬六千四百八十四戸)を算し、遂に現在の二十萬に到達せんとせり。明治二十五年の六萬二千を取つて二十五年後大正六年の十八萬八千に比するも、正に三倍強に當る。況んや其實數の更に甚しき膨脹あるを推測せらるゝものあるに於てをや。

之を市の財政上より見んか明治廿五年長崎市經常及臨時費豫算總額僅かに六萬七千圓なりしもの大正六年には經常費、臨時費を合して五十二萬四千圓を計上せられ、二十五年度のそれに比較すれば實に八倍の多きに及ぶ。三度之を外國貿易統計に徴せんか、明治二十六年輸出入合計六百七十五萬圓なりしもの、大正六年には三千二百十六萬七千餘圓に躍進し、此兩端を取つて對比すれば約五倍の膨脹を示す。

我が長崎港の過去四半世紀、元より時に盛衰あり、一進一退の消長を免れ難しとは雖も、概ね叙上の如き發展と進運との道程にあり、且其間の経過と經驗とは又以て將來當面の施設に逸すべからざる好參考資料たり。以下篇を重ねて其記録を残す。

第二章 貿易

幕府時代三百年間の久しきに亘る長崎港對外貿易の狀況に關しては今茲に言はず。下つて明治の初年如何なりしやと云ふに之を本邦外國貿易年表に徴すれば、明治六年輸出二百四萬九千餘圓、輸入百九十七萬四千餘圓、合計四百二萬三千餘圓にして、明治九年二百六十九萬餘圓に減じたるも爾後次第に増加し明治十七年には五百萬圓臺に上り、明治十九年には六百六十餘萬圓、明治二十年には七百七十餘萬圓、翌二十二年には九百萬圓を突破し、後兩三年稍不振なりしと雖も日清戰役後即ち明治二十八年には一千萬圓に激増せり。以下明治二十六年より大正七年に至る最近二十五ヶ年間の當港貿易狀態に就き節を別ちて其經過の跡を見ん。

第一節 自明治二十六年至明治三十五年貿易狀況

是より先明治二十三年八月門司、口ノ津、唐津の諸港が特別輸出港として開港せらるゝや、輸出漸く減退し明治初年來常に輸出超過の狀態にありし當港外國貿易は、明治二十六年に至り茲に局面一變して二十九萬八千餘圓の入超を示し爾來最近に至る迄輸入港たるの狀勢を繼續せ

り、即ち左の如し。

○自明治二十六年至明治三十五年長崎港外國貿易價額表

年次	輸出額	輸入額	輸入超過額	輸出入合計	全國貿易ニ對スル割合
明治二十六年	三、三六〇、〇三三	三、五三四、一九九	一九八、一六七	六、七〇四、二三二	〇・三五九
明治二十七年	三、五五七、七一一	五、四三三、七四八	一、八五五、〇三七	八、九七、四五九	〇・三九九
明治二十八年	四、一四四、一九八	六、七〇〇、六八九	二、五五六、四九二	一〇、八四四、八八七	〇・四〇〇
明治二十九年	四、九八八、〇三九	一〇、〇〇四、三八三	五、〇一六、三四四	一四、九七三、四二二	〇・五二七
明治三十年	五、五三三、〇三三	一三、〇六一、三三四	八、〇九九、三三二	一八、五四四、三六五	〇・五六一
明治三十一年	六、五八七、七二六	一九、六九八、六四五	一三、一一一、三六九	二六、二九九、〇九二	〇・五五三
明治三十二年	六、一〇七、七七一	一一、四七五、一一〇	四、九六九、七九	一七、五八三、八八二	〇・三九九
明治三十三年	六、九三九、一一〇	一五、四七七、三三八	八、四八八、二二八	二二、四二六、四三八	〇・五二六
明治三十四年	四、八五五、六六六	一三、七三三、五〇〇	八、九六六、七三四	一八、六八八、一六六	〇・三三〇
明治三十五年	四、四四一、八四四	九、三三三、三三三	四、八五二、四八七	一三、八〇〇、〇一五	〇・三五四

明治二十七年八月日清戰爭の開始あり翌二十八年に涉り内外艦船の出入頻繁を加へ、此間輸入貿易は一大進歩を示し、同年輸出入總額始めて一千萬圓を算し、戰後經濟界の膨脹と共に漸く活氣を呈し、越えて卅一年の米西戰爭は案外なる福利を當港に與へ、加之同年は九州鐵道の豫定線並に豊州鐵道の延長線に供する機關車客車を始めとし其他製鐵、造船用材等の一時的輸

入多額に上りたる爲め輸出に六百五十八萬餘圓、輸入に一千九百六十九萬餘圓、合計實に二千六百廿八萬餘圓てふ新記録を作りたり。蓋し之關稅改正に先立つ一年、各種の見越輸入多かりし事及び三十年に於ける米穀凶作を補はんとする外國米の輸入増加に在りたるものにして未だ適當の膨脹にあらざりき。果せるかな翌三十二年は總額に於て約一千萬圓を減じたりしが、明治三十三年に至り北清事變の騷亂あり列國軍隊及本邦軍隊の軍需品は本港の貿易を振興せしめ遂に二千萬圓臺を突破するに至れり。然るに明治三十四年に入るや日清戰役後不自然なる膨脹をなしたる全國經濟界は甚しき悲運に陥り事業の破綻、金融の逼迫等相次で一般消極に傾き、前年に比し輸出入共に二百萬圓内外を減じ、總額に於て三百七十餘萬圓の減退を告ぐ、只其減額が當時の經濟狀態より見て寧ろ甚だしからざりしは同年十月砂糖消費稅法の實施あり砂糖の輸入二百二十三萬圓の多額に上りたるを、英炭及汽船の如き價額の昂上すべき貨物の輸入ありたるを、且つ輸出に於て支那關稅改正の爲め同國向貨物の輸出を促進したるとに因る。若し夫れ明治三十五年に至りては銀塊相場暴落し對支爲替相場の暴騰を生じ大に輸出貿易に障礙を與へたるものあり、輸入にありては三菱造船所の不振、英炭の輸入減少、前年來砂糖の持越等幾多の原因は經濟界の悲運と相俟ちて輸出四百四十餘萬圓、輸入九百三十萬圓、合計三百八十萬圓てふ日清戰後曾て見ざるの不成績を現はせり。

(輸出)

國別	明治三十五年
支那	2,115,159
香港	1,042,377
英領印度	2,717
朝鮮	257,914
露領亞細亞	500,292
比律賓諸島	10,579
露領西亞	243,384
英領吉利	63,532
佛領西	4,847
獨逸	5,713
北美合衆國	10,326

(輸入)

國別	明治三十五年
支那	2,118,579
香港	231,603
英領印度	108,227
朝鮮	239,282
露領亞細亞	505,307
比律賓諸島	71,824
佛領印度	9,908
暹羅	164,251
露領西亞	63,355
英領吉利	2,621,715
佛領西	90,741
獨逸	198,036
北美合衆國	2,148,411

長崎港外國貿易主要國別價額表

自明治二十六年至明治三十五年

(輸出)

國別	明治三十五年	明治三十四年	明治三十三年	明治三十二年	明治三十一年	明治三十年	明治二十九年	明治二十八年	明治二十七年	明治二十六年
支那	2,115,159	2,331,796	2,556,779	1,967,200	1,890,215	1,636,797	1,535,942	1,216,868	1,104,482	1,117,150
香港	1,042,377	1,129,105	893,667	1,044,229	1,062,555	907,134	716,010	711,466	581,554	807,201
英領印度	2,717	129,456	118,013	11,619	35,354	6,244	19,375	20,682	37,767	77,133
朝鮮	257,914	398,696	346,518	302,057	445,930	458,374	266,791	395,966	365,755	154,310
露領亞細亞	500,292	583,312	737,497	667,855	875,442	850,335	979,229	641,546	600,265	—
比律賓諸島	10,579	2,671	586	656	—	7,582	570	1,872	189	2,446
露西亞	243,384	143,137	93,229	125,447	21,736	24,135	31,104	4,017	9,177	422,502
英吉利	63,532	57,757	66,044	63,925	53,474	57,542	76,617	151,088	42,600	24,415
佛蘭西	4,847	215	4,347	8,008	3,769	600	408	672	769	1,063
獨逸	5,713	13,836	6,020	5,341	9,976	113,050	5,134	12,140	556	1,785
北米合衆國	10,326	3,569	12,578	77,256	44,320	52,336	73,587	1,839	8,222	65,413

(輸入)

國別	明治三十五年	明治三十四年	明治三十三年	明治三十二年	明治三十一年	明治三十年	明治二十九年	明治二十八年	明治二十七年	明治二十六年
支那	2,118,579	1,982,465	1,583,392	1,567,831	3,061,460	2,870,932	2,202,594	1,965,142	1,515,787	1,304,795
香港	231,603	1,708,231	1,706,129	1,360,810	3,701,147	1,703,395	1,306,995	848,469	737,100	708,037
英領印度	108,227	79,256	100,680	1,040,349	990,930	1,100,740	753,055	355,052	292,164	195,168
朝鮮	239,282	370,225	349,087	231,318	297,091	348,578	27,936	120,417	147,503	62,841
露領亞細亞	505,307	547,905	290,538	128,791	119,113	131,628	71,556	61,597	64,646	—
比律賓諸島	71,824	250,304	168,675	173,386	422,608	249,269	132,232	67,578	66,820	769
佛領印度	9,908	292,968	59,135	60,625	1,288,167	678,982	105,930	160,348	868,024	—
暹羅	164,251	109,594	104,101	18,659	628,988	9,153	—	12,087	18,615	—
露西亞	63,355	73,217	277,712	39,571	83,354	33,413	90,155	34,143	4,063	50,597
英吉利	2,621,715	4,822,640	6,582,257	4,349,701	5,399,188	4,355,849	3,706,249	1,987,148	1,106,640	475,187
佛蘭西	90,741	168,942	74,010	533,558	189,743	85,225	81,321	69,224	28,963	17,297
獨逸	198,036	206,560	211,323	131,408	773,833	192,268	12,470	12,573	62,191	10,913
北米合衆國	2,148,411	2,392,382	3,610,307	1,410,171	2,524,948	1,647,094	1,153,133	634,794	471,541	295,646

輸入二百二十三萬圓の多額に上りたるも、英炭及汽船の如き價額の昂上すべき貨物の輸入ありたるも、且つ輸出に於て支那關稅改正の爲め同國向貨物の輸出を促進したるとに因る。若し夫れ明治三十五年に至りては銀塊相場暴落し對支爲替相場の暴騰を生じ大に輸出貿易に障礙を與へたるものあり、輸入にありては三菱造船所の不振、英炭の輸入減少、前年來砂糖の持越等幾多の原因は經濟界の悲運と相俟ちて輸出四百四十餘萬圓、輸入九百三十萬圓、合計三百八十萬圓てふ日清戰後會て見ざるの不成績を現はせり。

長崎港外國輸出貿易主要國別價額表

自明治三十六年 至明治四十五年(大正元年)

國 別	明治四十五年 (大正元年)	明治四十四年	明治四十三年	明治四十二年	明治四十一年	明治四十年	明治三十九年	明治三十八年	明治三十七年	明治三十六年
亞 細 亞 洲										
支 那	1,564,688	1,409,048	1,420,583	1,527,276	1,579,232	1,640,692	2,369,780	1,890,939	1,952,646	2,734,649
關 東 州	130,199	278,190	351,263	445,394	426,951	444,595	—	—	—	—
香 港	1,266,011	912,429	806,807	866,155	587,525	1,287,302	1,062,194	1,052,554	1,412,472	1,165,199
朝 鮮	—	—	171,273	202,399	308,312	390,084	429,686	541,404	705,050	287,602
英 領 印 度	85,916	5,003	4,466	5,081	11,579	11,379	7,760	3,250	2,064	4,533
同 海 峽 殖 民 地	88,910	111,270	23,977	15,837	20,239	31,941	29,375	17,453	54,791	76,027
蘭 領 印 度	1,082	882	381	3,855	2,795	374	—	94	—	—
佛 領 印 度	5,426	5,139	6,930	10,843	8,330	6,880	5,464	62	231	347
露 領 亞 細 亞	182,876	162,740	90,841	149,203	302,909	411,806	1,146,641	499,454	6,524	277,087
比 律 賓 諸 島	87,494	117,869	107,732	141,001	143,768	107,196	118,342	65,818	39,564	57,688
暹 羅	403	131	70	1,257	657	1,095	452	8	—	1,632
通 計	3,413,005	3,002,671	2,984,287	3,368,301	3,382,297	4,333,344	5,169,694	4,071,635	4,173,765	4,604,764
歐 羅 巴 洲										
英 吉 利	104,177	82,658	74,648	55,034	75,667	58,607	78,117	46,820	5,7923	74,144
佛 蘭 西	2,569	2,578	168	1,099	282	507	100	15,457	22	5,972
獨 逸	60,205	32,376	13,013	16,994	25,775	15,472	76,506	110,177	33,438	2,798
白 耳 義	14,033	409	3,747	62,113	169,714	122,627	103,916	48,050	20,171	1,475
露 西 亞	32,750	16,818	7,676	1,124	5,657	34,700	35,104	500	—	199,038
其 他	12,666	14,822	74,726	59,151	20,808	17,778	24,143	8,317	8,084	6,464
通 計	226,400	149,661	173,978	195,515	298,363	249,991	317,886	229,321	120,638	289,891
亞 米 利 加 洲										
北 米 合 衆 國	293,698	239,796	137,624	12,814	25,367	34,224	22,240	5,047	5,355	24,037
英 領 亞 米 利 加	316	2	50	600	8,008	32,058	30	20	30	5,620
其 他	25	12	77	49	43	107	4	—	—	—
通 計	294,039	239,810	137,751	13,463	33,418	66,389	22,274	5,067	5,385	29,657
其 他 諸 洲										
濠 太 刺 利	4,830	3,098	2,662	1,769	1,230	3,848	2,549	—	183	3,598
布 哇	14,831	2,411	2,599	2,140	1,898	1,311	1,107	521	2,841	35
其 他	399	7,532	2,682	496	223	58	234	6	733	100
通 計	19,960	13,041	7,943	4,405	3,351	5,220	3,890	527	3,757	3,733

國 別	明治四十五年 (大正元年)	明治四十四年	明治四十三年	明治四十二年	明治四十一年	明治四十年	明治三十九年	明治三十八年	明治三十七年	明治三十六年
亞 細 亞 洲										
支 那	1,564,688	1,409,048	1,420,583	1,527,276	1,579,232	1,640,692	2,369,780	1,890,939	1,952,646	2,734,649
關 東 州	130,199	278,190	351,263	445,394	426,951	444,595	—	—	—	—
香 港	1,266,011	912,429	806,807	866,155	587,525	1,287,302	1,062,194	1,052,554	1,412,472	1,165,199
朝 鮮	—	—	171,273	202,399	308,312	390,084	429,686	541,404	705,050	287,602
英 領 印 度	85,916	5,003	4,466	5,081	11,579	11,379	7,760	3,250	2,064	4,533
同 海 峽 殖 民 地	88,910	111,270	23,977	15,837	20,239	31,941	29,375	17,453	54,791	76,027
蘭 領 印 度	1,082	882	381	3,855	2,795	374	—	94	—	—
佛 領 印 度	5,426	5,139	6,930	10,843	8,330	6,880	5,464	62	231	347
露 領 亞 細 亞	182,876	162,740	90,841	149,203	302,909	411,806	1,146,641	499,454	6,524	277,087
比 律 賓 諸 島	87,494	117,869	107,732	141,001	143,768	107,196	118,342	65,818	39,564	57,688
暹 羅	403	131	70	1,257	657	1,095	452	8	—	1,632
通 計	3,413,005	3,002,671	2,984,287	3,368,301	3,382,297	4,333,344	5,169,694	4,071,635	4,173,765	4,604,764
歐 羅 巴 洲										
英 吉 利	104,177	82,658	74,648	55,034	75,667	58,607	78,117	46,820	5,7923	74,144
佛 蘭 西	2,569	2,578	168	1,099	282	507	100	15,457	22	5,972
獨 逸	60,205	32,376	13,013	16,994	25,775	15,472	76,506	110,177	33,438	2,798
白 耳 義	14,033	409	3,747	62,113	169,714	122,627	103,916	48,050	20,171	1,475
露 西 亞	32,750	16,818	7,676	1,124	5,657	34,700	35,104	500	—	199,038
其 他	12,666	14,822	74,726	59,151	20,808	17,778	24,143	8,317	8,084	6,464
通 計	226,400	149,661	173,978	195,515	298,363	249,991	317,886	229,321	120,638	289,891
亞 米 利 加 洲										
北 米 合 衆 國	293,698	239,796	137,624	12,814	25,367	34,224	22,240	5,047	5,355	24,037
英 領 亞 米 利 加	316	2	50	600	8,008	32,058	30	20	30	5,620
其 他	25	12	77	49	43	107	4	—	—	—
通 計	294,039	239,810	137,751	13,463	33,418	66,389	22,274	5,067	5,385	29,657
其 他 諸 洲										
濠 太 刺 利	4,830	3,098	2,662	1,769	1,230	3,848	2,549	—	183	3,598
布 哇	14,831	2,411	2,599	2,140	1,898	1,311	1,107	521	2,841	35
其 他	399	7,532	2,682	496	223	58	234	6	733	100
通 計	20,060	13,041	7,943	4,405	3,351	5,220	3,890	527	3,757	3,733
全 計	3,953,504	4,305,183	3,303,959	3,581,684	3,717,429	4,654,944	5,513,744	4,305,950	4,303,545	4,956,980

備 考 自明治三十六年至明治三十九年關東州貿易ハ支那貿易中ニ合算。明治四十四年以降朝鮮貿易ハ外國貿易價額中ヨリ控除ス

長崎港輸入貿易主要國別價額表

自明治三十六年 至明治四十五年(大正元年)

國 別	明治四十五年 (大正元年)	明治四十四年	明治四十三年	明治四十二年	明治四十一年	明治四十年	明治三十九年	明治三十八年	明治三十七年	明治三十六年
亞細亞洲										
支那	2,173,134	2,279,813	2,261,652	3,210,513	3,503,177	3,006,878	3,091,174	2,679,397	2,272,571	3,575,283
關東州	771,257	634,689	594,070	870,631	526,125	272,552	—	—	—	—
香港	19,580	41,968	140,616	269,731	384,170	474,938	213,450	46,351	178,515	218,627
朝鮮	—	—	33,588	39,722	95,905	13,233	75,446	106,020	132,361	311,239
英領印度	151,029	6,439	20,106	22,259	169,924	174,029	53,499	90,046	319,490	574,214
同海峽殖民地	48,211	33,038	24,580	23,381	2,675	21,635	3,287	7,523	7093	7,317
蘭領印度	7,730	22,789	5	366,021	371,906	376,467	29,296	684,812	1,142,951	—
佛領印度	1,062,492	661,886	190,166	265,776	342,909	477,470	200,681	675,999	739,674	700,232
露領亞細亞	19,162	32,428	23,864	22,152	18,435	67,305	20,780	548,484	196,067	908,929
比律賓諸島	14,754	585	131	215	14,014	10,541	448	3,009	54,374	39,614
暹羅	239,211	181,243	264,697	14,7697	344,617	411,368	513,314	672,398	608,713	145,623
通 計	4,506,560	3,894,878	3,553,475	5,228,098	5,773,857	5,306,416	4,464,370	5,514,039	5,651,809	6,481,078
歐羅巴洲										
英吉利	4,088,448	3,277,845	3,226,295	2,081,424	5,473,174	7,188,275	5,624,740	10,788,819	11,821,080	3,591,001
佛蘭西	13,454	24,450	13,886	23,290	24,106	67,163	65,258	124,822	25,544	45,321
獨逸	454,933	639,975	437,662	612,532	485,164	464,456	274,982	147,312	141,164	192,060
露西亞	5,223	50,957	2,069	2,366	11,340	15,113	9,615	310	2,678	73,763
其他	457,686	454,794	393,146	383,436	600,384	747,266	663,232	827,981	400,559	246,651
通 計	5,019,744	4,448,023	4,073,028	3,103,048	6,594,168	8,482,272	6,637,827	11,889,244	12,391,025	4,148,796
亞米利加洲										
北美合衆國	3,126,198	2,079,225	1,284,335	956,809	2,172,863	2,391,769	2,413,754	3,052,021	2,793,343	2,103,748
英領亞米利加	159	239	41	19,058	41,076	8,411	12,255	544	7,364	48,825
其他	—	—	7	—	—	—	2	—	—	—
通 計	3,126,357	2,079,464	1,284,383	975,867	2,213,939	2,400,178	2,426,011	2,052,565	2,800,707	2,152,573
其他諸洲										
濠太刺利	9,491	6,588	3,504	1,908	42,269	26,614	28,549	78,136	4,381	4,730
布哇	3,009	731	639	16	—	11	827	118	14	506
其他	87	406	60	32	37	54	1,300	1,211	751	102
通 計	12,587	7,725	4,203	1,956	42,306	26,679	30,676	79,465	5,146	5,338
不詳	90,485	9,680	3,818	3,710	9,308	14,956	73,942	16,073	7,732	79,595

支那	2,173,134	2,279,813	2,261,652	3,210,513	3,503,177	3,006,878	3,091,174	2,679,397	2,272,571	3,575,283
關東州	771,257	634,689	594,070	870,631	526,125	272,552	—	—	—	—
香港	19,580	41,968	140,616	269,731	384,170	474,938	213,450	46,351	178,515	218,627
朝鮮	—	—	33,588	39,722	95,905	13,233	75,446	106,020	132,361	311,239
英領印度	151,029	6,439	20,106	22,259	169,924	174,029	53,499	90,046	319,490	574,214
同海峽殖民地	48,211	33,038	24,580	23,381	2,675	21,635	3,287	7,523	7093	7,317
蘭領印度	7,730	22,789	5	366,021	371,906	376,467	29,296	684,812	1,142,951	—
佛領印度	1,062,492	661,886	190,166	265,776	342,909	477,470	200,681	675,999	739,674	700,232
露領亞細亞	19,162	32,428	23,864	22,152	18,435	67,305	20,780	548,484	196,067	908,929
比律賓諸島	14,754	585	131	215	14,014	10,541	448	3,009	54,374	39,614
暹羅	239,211	181,243	264,697	14,7697	344,617	411,368	513,314	672,398	608,713	145,623
通計	4,506,560	3,894,878	3,553,475	5,228,098	5,773,857	5,306,416	4,464,370	5,514,039	5,651,809	6,481,078
歐羅巴洲										
英吉利	4,088,448	3,277,845	3,226,295	2,081,424	5,473,174	7,188,275	5,624,740	10,788,819	11,821,080	3,591,001
佛蘭西	13,454	24,450	13,896	23,290	24,106	67,163	65,258	124,822	25,544	45,321
獨逸	454,933	639,975	437,662	612,532	485,164	464,456	274,982	147,312	141,164	192,060
露西亞	5,223	50,957	2,069	2,366	11,340	15,113	9,615	310	2,678	73,763
其他	457,686	454,794	393,146	383,436	600,384	747,266	663,232	827,981	400,559	246,651
通計	5,019,744	4,448,023	4,073,028	3,103,048	6,594,168	8,482,272	6,637,827	11,889,244	12,391,025	4,148,796
亞米利加洲										
北美合衆國	3,126,198	2,079,225	1,284,335	956,809	2,172,863	2,391,769	2,413,754	3,052,021	2,793,343	2,103,748
英領亞米利加	159	239	41	19,058	41,076	8,411	12,255	544	7,364	48,825
其他	—	—	7	—	—	—	2	—	—	—
通計	3,126,357	2,079,464	1,284,383	975,867	2,213,939	2,400,178	2,426,011	2,052,565	2,800,707	2,152,573
其他諸洲										
濠太刺利	9,491	6,588	3,504	1,908	42,269	26,614	28,549	78,136	4,381	4,730
布哇	3,009	731	639	16	—	11	827	118	14	506
其他	87	406	60	32	37	54	1,300	1,211	751	102
通計	12,587	7,725	4,203	1,956	42,306	26,679	30,676	79,465	5,146	5,338
不詳	20,465	2,680	3,818	3,716	9,308	14,956	73,942	16,073	7,732	79,595
全計	12,685,713	10,432,770	8,918,907	9,312,685	14,633,578	16,230,501	13,632,826	19,551,286	20,856,419	12,867,380

備考 自明治三十六年至明治三十九年關東州貿易ハ支那貿易中ニ合算。 明治四十四年以降朝鮮貿易ハ外國貿易價額中ヨリ控除ス

第二節 自明治三十六年至明治四十五年貿易狀況

明治三十六年に至り經濟界漸く常態に復し、其面目を整へ來れるに方り日露の國交益危急なるものあり、同年貿易額は一千七百二十八萬餘圓を示し、開戦と共に一時危懼せられたる當港の貿易は却て活躍し、三十七年輸出に於て六十五萬餘圓の減退を見たれども輸入に於て殆ど前年に比し七百九十九萬圓の激増となり貿易總額二千五百十六萬圓てふ成績を擧げ明治三十一年の盛況に亞げり。

明治三十八年には稍々減少して二千三百八十五萬圓となりたれども、戦時軍用としての英國カーヂン炭の大輸入あり、前年と同じく輸出入の均衡を失し三十七年の入超一千六百五十五萬圓、三十八年の入超一千五百二十四萬圓てふ不自然に偏倚せる膨脹は寧ろ當港對外貿易上に何等の福音を與へざりしものと云ふべく、不景氣の聲港内に滿ちたり。明治三十九年日露國交既に舊に復せりと雖も戦前全盛を極めたる對露貿易は、戦後再び之を見る能はず、同年全國の貿易は未曾有の大膨脹を來し、出超四億萬圓を突破したるに不均、僅かに一千九百萬圓を示し明治三十年のそれと殆ど同計數を現はすに過ぎざりき。最も同年は輸出に於て前年に比し約百二十萬圓の増加をなしたれども、翌四十年に至り敦賀、浦鹽間の連絡開始せらるゝあり、漸く恢

復せんとせる對露貿易も再び茲に一頓挫を來し、不況著しく、殊に爾後明治四十一年を経て四十四年に至る四五五年間は、衰微の絶頂に達し就中明治四十三年の如き貿易總額僅々一千二百萬圓臺に下り明治二十九年の成績にすら劣ること二百七十萬圓てふ悲運に陥り、只對支貿易によりて聊か其面目を保持するを得たり、其經過左の如し。

自明治三十六年至明治四十五年(大正元年)長崎港外國貿易價額表

年次	輸出額	輸入額	輸入超過額	輸出入合計
明治三十六年	四、九八、九八〇	二二、八七、三六〇	七、九〇、四〇〇	一七、八四、三六〇
明治三十七年	四、〇三、五四五	二〇、八六、四一九	一六、五五、八四四	三三、二九、六四四
明治三十八年	四、〇三、九五〇	一九、五五、二六六	一五、二四、三三六	三三、八五七、三三六
明治三十九年	五、五三、七四四	二三、六三、八六六	八、二九、〇〇二	一九、一四、七五〇
明治四十年	四、六四、九四四	二六、三〇、五〇一	二、五七、五五七	二〇、八四、四四四
明治四十一年	三、七二、四二九	二四、三三、五七六	二〇、九六、一四九	一八、三三、〇〇七
明治四十二年	三、五八、六八四	九、三三、六八五	五、七三、〇〇一	二二、八四、三九九
明治四十三年	三、〇三、九五九	八、九八、九〇七	五、六四、九四八	二二、三三、八六六
明治四十四年	三、四四、一八三	一〇、四三、七〇〇	七、〇七、五一七	二三、八七、九三三
明治四十五年	三、九五、〇〇四	二二、六五、七三三	八、七三、二一九	二六、六五、二二七
大正元年				

明治三十六年

前表によれば明治三十六年當港外國貿易總額一千七百八十二萬四千三百六十圓にして輸出四百九十五萬六千九百八十圓、輸入一千二百八十六萬七千三百八十圓、之を前年即ち明治三十五年の成績に比するに輸出に於て四十八萬二千七百九十六圓、輸入に於て三百五十四萬一千五百四十九圓を増加し、殊に輸入に於て増進特に顯著なりしを以て三十五年に入超額四百八十五萬一千六百四十七圓なりしもの三十六年には一躍七百九十一萬四百圓を唱ふるに至れり。當年輸入貿易が斯くの如く膨脹せる所以のものは其原因種々ありと雖も之を概括すれば凡そ左の數項最も主要なる槓杆なるべし。

- 一、外國米の輸入巨額なりしこと
 - 二、米の外諸雜穀就中豆類及小麥の輸入巨額なりしこと
 - 三、諸機械類及鐵鋼の輸入三十五年に比し増進したること
 - 四、肥料の輸入前年に比し一層の盛況を呈したること
 - 五、對露問題の爲め石炭の輸入を誘致したること
 - 六、臨時品として海底及地下電線の輸入ありたること
- 即ち輸出に於ては農産品、礦産品、水産品及雜品に増加し工業品の減少著しかりしも再輸出

品として石炭の輸出多かりしを以て前述の如き増額を示すに至れり。工業品は其包容する所頗る多種にして其増減相半ばせるも貿易額比較的巨大なるものに減じ、其少額なるものに好成績を顯はせし觀あり、即ち醬油、諸紙類、諸絹布、製造糞、木炭の如きに増額を見、製茶、木蠟、東洋紙、綿織糸、漆器、陶磁器の如き工業品の中堅にして且當港輸出貿易の要部たる是等各品に減少せり。斯く事實に於て輸出減退せるも只再輸出の増進により頽勢を既倒に挽回し得たるのみならず、能く前記の如き輸出増加を來せるなり。

輸入にありては水産品に些少の減額を呈せるのみにして他の各種は凡て好良の成績を呈し、就中農産品の増加は最も巨大にして自ら増加額の中堅をなし、之に次では鑛産品、工業品及雜品に於て金額の伸暢を勢援したり。農産品は線綿に減少せるのみにして米及諸穀物等凡て増進し鑛産品は石油の輸入高殆ど増減なかりしも石炭の輸入増進によりて好良の結果を奏せり。工業品中諸機械及鐵鋼類は年々同品類の抵柱をなし其増減は全局の伸縮と密接の關係を有し三十二年に於ける同品類の五十萬の増進も全く諸機械及鐵類の輸入著しく好況を顯はしたる結果なり。但し其大部分は三菱造船所の所用に係る。砂糖を首め諸綿布、羅紗、洋酒等の嗜好品に屬する貨物が凡て揆を一にして減少したるは内地經濟界の状態に鑑み其輸入を差控ることとなりたるが爲めなり。雜品に至りては殆ど肥料類を以て掩有せらるゝの狀況なるが當年は一般内地

於ける肥料需要の範圍擴張せられたる爲め頗る好果を奏したり。

之を要するに前年來内地經濟界不振の聲は到る處其勢力を逞ふし當港の如き又少からざる創痍を蒙りたるも米穀肥料の輸入に加ふるに年内を通じて石炭の如き時局上必要品の輸入を促進せしめたるを以て其得る所は失ふ所のものを賸ふて尙餘りあるものあり結局如上の盛況を呈せるなり。

更に之を國別に就て見るに對支貿易に於て六十餘萬圓の伸長を顯はせるは諸飲食物及石炭の二者對露時局の急なるものあるより軍用として旅順港に向け仕向けられたるもの甚だ多かりしに由る。香港に輸出するものは鰯を第一位に推すべく、又石炭の輸出意外の盛況を告げ、輸入に於ては全く砂糖貿易に負ふ所多く全貿易額の九割二分二厘を占めたり。(對支貿易狀況に關しては別に「長崎對支貿易最近二十五年紀要」中に詳かなれば茲に縷説せず、以下之に倣ふ)。

朝鮮に對する當港の輸出貿易は差して多からず、僅に一萬八千五百餘圓を示す打綿が其主位を擁するのみ。輸入に於て増加の成績を呈せるは大豆、鹹魚等なり。

露領亞細亞に對する輸出貿易は米を首め綿花、蜜柑等凡て増加の成績を呈せるも磚茶の失敗と其他雜品の減少との爲め三十五年に比し遜色あり。三十六年の對露領亞細亞貿易が三十萬餘圓の萎縮を呈したるは同方面一般商況の不振に基因する所多し。

英國は當港輸入貿易上支那貿易に次ぎ最も須要の地位を占め三十六年に於ては輸入貿易額中其二割七分九厘を掩有するの状況にして、殊に煤炭の輸入は百萬圓の巨額に達し、東洋の風雲暗澹として既に戦闘開始の準備大いに成るを告げたり。之に加ふるに三菱造船所と對英輸入とは常に密切の關係にあり、輸入額二百三十八萬七千六百六十九萬四千餘圓は實に同所造船用諸機械及鐵鋼類の輸入に係るものなり。

英領印度に四十六萬七千三百四十五圓、佛領印度に二十二萬四千三百三十七圓の増額を呈せるは全く米の輸入に基くに外ならず。佛國に四萬四千二百九十五圓、獨逸に八千八百九十一圓の減退を見たるは、佛國よりは内地不景氣の結果洋酒類の輸入減少したるが爲め、又獨逸よりは鐵鋼類の輸入多からざりしによる。

露國は他の歐洲各國との關係が凡て輸入貿易なるに係らず輸出貿易に於て見るべき成績を呈せり。輸出品の主なるものは生糸(十萬一千二百八十圓)、石炭(六萬三千二百八十四圓)、漆器(四千五百七十八圓)等なり。只だ同年は時局問題の爲め義勇艦隊汽船の寄港減少し航通上の不便に陥りたるを以て自然輸出貨物に影響したり。

米國よりの輸入貿易は石油、麥粉の兩種にして三十六年は石油の輸入例年の如くならず露油に一步を譲りたるも麥粉の需要増加せるを以て得失相償ひたり。

明治三十七年

明治三十七年當港外國貿易は總額二千五百十五萬九千九百六十三圓にして三十六年の一千七百八十二萬四千三百六十圓に比し七百三十三萬五千六百四圓の増加なり。即ち輸出に於ては前年に比し六十五萬三千四百三十六圓の減少を示したるも輸入に於て長足の進歩をなし實に二千八十五萬六千四百十九圓てふ巨額に達す。蓋し斯くの如き盛況は明治三十一年來會て見ざる所にして且つ爾後大正六年に至る十八年間の最高額を顯したり。之を前年の輸入額に比せんか七百九十八萬九千餘圓の増加にして從て輸出入の間には著しき懸隔を生じ、輸入超過額一千六百五十五萬圓てふ未だ曾て之なきの現象を呈したり。

顧みるに明治三十六年初頭以來日露交渉の事幾たびか危急を傳へられ、巷説紛々として形勢甚だ穩かならざるものありしが、翌三十七年二月遂に國交斷絶し、當港の如き直接外國貿易に従事するものは前途の危懼と不安とに襲はれ、一時殆ど五里霧中に彷徨するの狀態に陥れり。蓋し名は日露の交戦なりと云ふと雖も實際の交戦地帯は當港貿易上最も密接なる關係を有する支那及朝鮮の兩國なればたとへ一時とは云へ當業者が甚しき窺境に陥りたるも亦已むを得ざる所なりしなり。然れども旅順に於ける海戰の成功は開戦後未だ月餘ならずして制海權を我が掌裡に納め、從來休止せる航路の復活に努力せる結果、朝鮮、支那方面本邦品の需要急なるもの

あるにより運賃の昂騰を云爲するに違なく、停滞の貨物は忽ち一掃せられ、對支及對朝鮮貿易も豫想外に其打撃を蒙ること尠少なりき。

農産品の中米、密柑、鑛産品の中石炭、工産品の中漆器が共に時局の影響を受け減少を示したるは、米は浦鹽、旅順、密柑は浦鹽を以て主要の輸出地とし、石炭は當時上海に對する大取引を除けば旅順及大連に對する輸出最も盛にして、且漆器は旅順及露西亞を主要輸出地となし來れるものなるが故に、時局の破裂に伴ひ何れも打撃を蒙りたりしなり。

輸入に於て石油及石炭は當年貿易品中最も傑出せるものなるが、之れ石油は特別税法により四月一日より消費税の新課あり十月以降は消費税と同額にして從來の消費税に代る輸入税を賦課せらるることとなりたるを以て其輸入著しく増進せり。石炭は云ふ迄もなく時局の必需品にして其輸入が未曾有の激増を來したるの理由も亦極めて明瞭なるべし。鯨肉の輸入減少したるは從來露國捕鯨船の漁獲に係りたるもの其營業中止せられたるによるべく、砂糖精糖の兩種は門司方面に於ける輸入に壓倒せられ、且大阪製其他の内地製品が殆ど海外品と比敵するに至り漸次九州方面に販路を擴張し自然當港の輸入を減じたるなり。

之を通商國別に就て見るに對支貿易に於ては輸出入共に減少を告げ、朝鮮に對しては輸出に四十一萬七千餘圓の増額を呈し、輸入に十七萬八千餘圓を減じたり。朝鮮は時局の發展と關聯

する所最も深かりし丈け開戦當初は頗る深大なる打撃を蒙りたるも未だ幾何ならず再び好機運に向ひ、渡鮮本邦人の増加は船便毎に多きを加へ、殊に仁川方面に於ける貨物の需要は偉大の額に達し、當港より同方面に對する輸出額も頗る増進せり。之に反し其輸入に於て例年に比し甚だ萎縮したりしは露國捕鯨船の休止が直ちに朝鮮輸入品中の主要品たる鯨肉の輸入を杜絶するに至り、咸鏡江原兩道沿岸に於ける鯧漁の出漁不安なりしより干鰯の輸入亦著しく減少し、米及大豆の仁川より輸入し來れるものは我軍隊駐屯の結果同地方に於ける需要の激増と價格の昂騰とにより輸出不引合となり且産地出廻の減少と、船腹の不安不便とにより著しき打撃を來し、牛疫の蔓延は又獸骨の輸入を減少し、其他諸商品の取引が現金取引となりたる上、倉敷料、保險料、運賃等凡て騰貴したるを以て大口の取引を見合せたる向多く茲に此結果を生じたり。香港は輸出に於て二十四萬餘圓の増額を呈し、輸入は之に反して四萬四十餘圓の減少を見たり。輸出額の増進は其主要品たる海産物殊に鰹の輸出盛なりし結果にして、輸入の減少は砂糖減入の影響を受けたるによる。

對英貿易に於ては輸出に於て前年に比し一萬六千餘圓を減じたりと雖も、輸入に於て一大躍進をなし、其増進額實に八百二十三萬圓の巨額に達したり。蓋し斯くの如き盛況は時局の結果石炭の輸入額八百十七萬圓て未曾有の額に上り、前年に比し殆ど一百万圓を増加したると、

及び三菱造船所を初め九州各地に於ける諸工場盛況を呈し、鐵板其他の鐵鋼類並に諸機械の輸入一千萬圓以上の大飛躍を見たるによるなり。

明治三十八年

明治三十八年中に於ける當港外國貿易は其總額二千三百八十五萬七千二百三十六圓にして之を前年に比するに約百三十萬圓の減少なり。之寧ろ前年の貿易が異常なりし結果にして其内容に至りては未だ必ずしも悲觀すべきにあらず。即ち輸出に於ては前年に比し二千四百圓を増加し只輸入に於て百三十萬五千圓を減少せり、之軍用石炭の輸入前年に比し減少せしが爲めに外ならず。

尙其内容を點檢するに輸出品中主位を占むるものは前年と同じく水産品にして其額百二十七萬二千七百圓に達す、但し之を前年に對比すれば十八萬八千餘圓の減少あるが、こは水産品中最も重要な鰯及乾貝の輸出稍不況なりしに因るなり。水産品に次ぐものは工産品にして其輸出額百一十一萬一千餘圓、前年に比し十九萬圓を増加して水産品の減退を補へり。之れ全く製茶醬油、清酒、諸綿布、打綿、罐詰鮑及罐詰食物等の輸出旺盛なりしが爲めなり。第三位は農産品にして其額六十一萬九千餘圓、之又前年に比し二十五萬六千餘圓の増加を示す。蓋し浦鹽方面に於ける騒擾後甚しく諸食物の缺乏を訴へ爲めに當港より米穀、蜜柑、蔬菜及果實等盛んに

輸出せるによる。第四位は雜品にして其額五十七萬四千餘圓、前年に比し二十萬圓餘の増加なり。尤も此中には支那の汽船輸出額二十三萬餘圓を含む。只鐵産品にありては前年に比し十九萬餘圓の減少を示し居れるが之全く内地石炭の需要激増し價格暴騰を來し殊に香港への輸出減少せるが爲めなり。蓋し當年内地炭界は未曾有の活氣を呈し海外輸出の餘裕なく偶々之あるも内地に於ける取引活潑にして各坑主は容易に手放さず、甚だしきは前年末炭價低落の際契約したる海外との取引を放擲して顧みざるものすらあり、輸出表上此不成績を現はしたるなり。内地炭界の活況斯くの如かりし所以は、(一)供給の方面にありては時局の爲め坑夫の減少、運搬力の不足等種々の障礙ありしに尙(二)需要の方面には時局發展の結果御用船の増加、本邦船舶と陸海軍に關係を有する諸工場の繁忙、罐詰業、燐寸其他軍人家族の爲めに設立せられたる諸工場の増加等一として石炭の需要を必要とせざるものなきに加へて綿絲界は非常の好景氣を呈し、各紡績業者の燃料は頗る多量を要するに至り、從て當港輸出炭に屬するものも多くは此等方面に吸収せられたり。

輸入にありては凡そ左の如き事情あり。

一、鐵産品の輸出は八百二十萬七千餘圓にして之を前年に比すれば二百四十一萬餘圓の減少なり。之前年は軍需品として英國カーブ炭の輸入多額なりしも當年は下半期に至り海戰

の一段落を告ぐると共に輸入殆どなかりしと、及石油、焦炭、鐵釘等の輸入少なかりしが爲めなり。

二、工産品は六百九十一萬餘圓にして前年に比し二百四萬餘圓の増進を見たり。即ち諸機械、麥粉、鐵板、精糖其他の數品に於て減少ありしも諸綿布、鉛及鐵鏈、同線索、苛性曹達其他に於て増加せり。

三、農産品は二百五十一萬餘圓にして前年に比し十六萬餘圓の減少なり、之繰綿、豆類、生卵の増入ありしも米の輸入前年よりも少かりしに因る。

四、雜品は其價額百九十萬餘圓にして前年に比し二十四萬餘圓の増進を示す、之肥料類の増入に因る。

五、水産品は時局の爲め鯨商の輸入杜絶せる以來何等見るべくもなく、龍甲其他に於て僅少の輸入ありしも特に擧ぐるに足らず。

之を各通商國との關係に見るに、當年對支貿易價額は四百五十七萬三千三十六圓にして前年に比し三十四萬五千餘圓の増加なり。即ち輸出に於て六萬一千餘圓を減じたるも輸入に於て四十萬六千餘圓を増加し居れり。

輸出品に於て増加せるものは綠茶、番茶、米、乾魚、鮑、貝柱、罐詰鮑、打綿、綿布類、木

材及板並に陶磁器等にして減少せるものは東洋紙、木炭、錫、蠶繭、揚卷、蝦、椎茸、蕃薯、大茴香等なるが、汽船の如き臨時輸出に二十三萬餘圓を増加したるに拘らず、主要輸出品中の錫、其他の海産物、石炭、木炭及東洋紙等に減退ありしが爲め結局六萬餘圓の減少を見たるなり。再輸出品に於ても亦羅紗及諸飲食物等に多少の増出ありたれども機械用油、電線、石炭、家具類に減額を生じ九萬餘圓の減退を告げたり。要するに當年漸く航路の安全と船腹の充足を見、輸出貿易稍奮に復したりと雖も海産物の不漁と木炭及石炭輸出の不況は此減退を來したる主因なり。輸入貿易にありては前述の如く四十餘萬圓の増加を示せるが、之蓋し旅順の陥落とバルチック艦隊の全滅とにより全く海上の危険を除去せられ、大豆、繰綿、獸骨、肥料及油粕等の輸入頗る盛んなりしに因るなり。

朝鮮貿易に於ては輸出に十六萬圓を減じ、輸入に二萬六千圓を減じたり。之從來仁川に仕向けたるもの時局の發展に伴ひ漸く大連方面に輸送するに至りしに因る。

英領印度に對しては輸出に僅かに一千八百餘圓を増し、輸入に於て二十二萬九千餘圓を減じたり。之同國輸出品たる米の當港に對する取引減少せるに因る。香港貿易は輸出に三十五萬八千餘圓、輸入に十三萬餘圓を減す。輸出の減少は主として海産物、石炭、木蠟の輸出不況なりし結果にして輸入は精糖十二萬餘圓の減入其主因たり。

對英貿易に於ては輸出に一萬餘圓、輸入に百三萬餘圓の減退を示す。之輸出にありては鮑の漁獲少かりし結果鮑殻の減退となり、輸入にありては石炭の輸入に二百七十五萬餘圓の巨額を減じたるが爲めなり。

佛國及獨逸に對しては輸出入共に増加せるを見る。之等兩國に對する輸出の増加は主として小包郵便を以て輸出したる諸雜品及玩具類の増加にして、佛國よりの輸入増加は洋酒類の増入並に臨時汽船の購入ありたるにより、獨逸よりの輸入は精糖、鐵及軟銅、軌條等何れも前年より減少したれども洋釘、電線等の輸入特に夥多なりし爲め五千餘圓の増加を見る。此年諾威よりは汽船四十一萬餘圓の購入ありたり。

明治三十九年

明治三十九年中當港貿易額は一千九百十四萬六千五百七十圓にして前年に比し四百七十一萬餘圓の減退を示したりと雖も、輸出に於ては未曾有の成績を現し能く五百萬圓臺を突破したり従て輸入超過額も八百十一萬九千餘圓を算するに過ぎず。然れども輸入に於ては前年に比し七百十二萬六千餘圓の萎縮を呈せり。

當年輸出入貿易に於て空前の盛況を來したる原因種々あるべけれども就中(一)特種偶然の事情ありたる(二)戰爭の好結果を納めたる(三)海外經濟界の繁榮に基因するところ多きが

如し。即ち對露戰爭の約二ヶ年間市場全く閉鎖せられて甚しく商品の缺乏に苦しみたる北滿洲及西比利亞方面は、平和茲に克復せらるゝと共に先づ此缺乏の急に應せんが爲めに行はれたる露國の浦鹽開放により、我國の飲食物其他の商品一時に輸入せられ、又戦後の滿洲に對しては營口及大連を経て我國の綿織糸其他の商品盛に侵入したるを以て對露及對支の輸出入貿易一大發展を來すに至れるなり。然れども是れ當年に於ける一時的偶然の現象と見るを至當とすべし。さあれ其他各國に對する輸出入貿易何れも増進の趨勢を示せるは一に對露戰勝の結果が我が商品の絶大なる效用を世界に發揮し、且世界一般の經濟的繁榮と相俟ちて此の成績を納め得たるものなるべし。

之に反し輸入貿易が前年に比し多大の減退を示したるは(一)軍需品の輸入を要せざるに至りたる(二)且つ(三)前年に於ける輸入品の本年に持越されたるもの頗る巨額に達したる等主なる原因なり。

之を國別に就て曰へば、對支貿易に於ては輸出に四十七萬八千餘圓、輸入に四十一萬一千餘圓を増加せり。對露領亞細亞貿易にありては輸出に六十四萬七千餘圓を増加したりしが輸入に於ては五十二萬七千餘圓の減退を生じたり。之を要するに對支及對露領亞細亞貿易共に頗る活況を呈せるが其一般的原因としては(一)銀價騰貴の影響、(二)滿洲貿易の發展、(三)運輸機關

の完備等數へざるべからず。銀價の騰貴が爲替相場場の下落を招致し我輸出品に利便を與へたること鮮少なからざるべきは論なし。加ふるに戦捷の結果滿洲は我が勢力範圍に歸したるを以て本年に至り邦人の同地方に渡航するもの漸次其數を増加すると共に本邦品を彼の地に輸入するもの亦夥しく増加せるは明なる事實なり。只對露領亞細亞貿易に於ては、前年に比し六十四萬七千餘圓の増進なりと雖も前年は日露講和成立の十月以降三ヶ月間に於ける輸出に止まることとて之を當年に比せば元より同日に論する能はざれども、前年三ヶ月の輸出價額約五千萬圓に達したるものあるに比し、當年は漸く其二倍に上りたるに過ぎず、是を前年の趨勢より推斷せば未だ良好の成績なりと稱すべからず。蓋し前年に於ては浦鹽港は戦亂の後を受け物資大に缺乏せるを以て交通開始と同時に之が急需に當てんが爲め各種の貨物盛に輸出せられ爲めに浦鹽埠頭百貨山積し遂に需要其途を失ひ商況不振を呈し茲に當港輸出貿易に一大頓挫を見るに至り、従つて當年尙過剩貨物の持越高多額に達したるのみならず、又一方歐米各國よりの輸出品多額に上りたるあり旁々當港對浦鹽貿易に豫期の實績を見る能はざりしなり。

對朝鮮貿易は輸出に於て十一萬一千餘圓を減じ、輸入に於て十萬七千餘圓の増進を示したり輸出の減退を來せるは前二年時局によりて大いに軍需品の需要を喚起し輸出著しく膨脹せしものありしに當年に入りては我駐屯軍隊の漸次引上を見るに至り之等の需要品の減退を來せしに

由るものなり。輸入貿易は大豆の増入によりて好況を呈するに至りたるものにして之當港輸入大豆の主産地たる滿洲は兵亂の餘を受け産額平年に達せず、従て同地方よりの輸入に大減退を來せるを以て之が補充として多く朝鮮より其不足を仰ぐこととなりたるが爲めなり。

對英貿易は輸出に於て前年に比し三萬餘圓を増加し、輸入に於て五百十六萬四千餘圓即ち殆ど前年の約半額を減少せり。而して如何なる貨物に於て斯く減少したるやを檢するに石炭に五百四十萬圓を減じたるを最とし電線に二百四十萬八千餘圓、汽船に十五萬餘圓を減退せるが故にして前年に於ては海軍用カーヂフ炭の需要盛にして當港に於て専ら之が輸入をなしたるを以て貿易價額をして著しく増大ならしめたるものありしが本年に於ては該品の需要を見ざるに至れるを以て斯くは減退を來せるなり。外二品にありては元臨時的貿易品にして今俄かに多大の減額を告げたり。

更に當年輸出入の狀況を概観するに輸出にありては水産品に八萬二千餘圓の減退を見たる外他の諸品に於ては孰れも増進せり。輸出品中第一位を占めたるは工業品にして其價額百九十九萬三千餘圓にして前年に比し八十七萬六千餘圓を増進せり。即ち絹布、綿布、製造糞、打綿等に於て減少したるも其他の諸品就中鐵及鋼製品、セメント、製茶、綿織糸に於て劇甚なる膨脹を呈したり。鐵及鋼製品の劇増は造船材料を上海に輸送したるに由るものにして綿織糸に於て

増加せしは滿洲貿易發展の結果なり。セメントは滿洲及朝鮮に於ける諸工事特に鐵道工事に
して需要を促進したるものあるに、桑港震災は又本品の輸出を誘致し一層増進の度を高むるに至
れり。若し夫れ製茶貿易の發達に至りては前年來の不振の反動として又本邦品販路擴張の結果
として天津に於ける商況非常の活躍を呈し以て多大の膨脹を呈せり。

水産品は從來當港輸出貿易の大宗として輸出商品中の第一位を占め來れるが當年に至り遂に
工業品に一等を輸す。蓋し之全く彼の看貫料問題並に荷造検査問題の影響を蒙りたるに外なら
ず。

農産品は前年に比し十萬四千餘圓の増進をなせるが、蕃薯及椎茸の商況活氣を呈せしは其主
たる原因なり。鑛産品は専ら石炭の増減に依りて一進一退するの例なるが當年は炭價不廉なる
ものありしに拘らず頗る好況を呈し前年に比し十三萬八千餘圓を増加し其他の諸品に於ても亦
多少の膨脹を來し結局十九萬七千餘圓の伸暢を告ぐ。

明治四十年

明治四十年に於ける當港外國貿易は輸出四百六十五萬四千九百四十四圓、輸入一千六百二十
三萬五百一圓、合計二千八十八萬五千四百四十五圓にして輸入超過額一千五百七十七萬五千五百
五十七圓を現はしたり。之を前年に比すれば輸出に於て八十五萬八千八百圓を減じ、輸入に於

て二百五十九萬七千六百七十五圓を増加し、合計に於て百七十三萬八千八百七十五圓の増加と
なり輸入超過額は三百四十五萬六千四百七十五圓の増加を示せり。

輸出貿易は前年に比し八十五萬餘圓を減じたるも之れ前年稀なる輸出多額に上りたるが爲め
なり。今其増減原因を前年に對比するに凡そ左の如きものあり。

積極的原因

- 一、本邦人の滿鮮に於ける發展に伴ふ其需要並に之が爲め同地方の發展を促し本邦産品の需
要を促進したること
- 二、前半期に於ける銀塊相場の高かりし爲め對支輸出を順調ならしめたること
- 三、昨年前半期は看貫問題の爲め水産品の輸出不振なりしも本年は此の障害なかりしこと
- 四、南支地方先年饑饉の打撃は本年に至り全く之れを恢復し水産品に對する需要を増進した
ること

消極的原因

- 一、後半期に於ける銀塊相場の下落が對支爲替に二割内外の騰貴を生じたる爲め輸出を妨げ
たること
- 二、敦賀港及び其他の各港の發達に由り浦鹽滿鮮方面の輸出を奪はれたること

三、浦鹽上海方面及朝鮮に於ける前年來持越品の過多なりしこと及び此等方面一帯に市場不景氣なりしこと

四、南支地方に於ける利權回收の國民的運動が同國に對する外資輸入額を減じ市場を不況ならしめたること

五、滿鮮に於ける鐵道其他の建設追々其緒に着き材料の需要減少したること

六、内地生活費の昂上に伴ふ生産品價格の騰貴したること

輸入貿易にありては前年に比し二百五十九萬圓を増加し戰時英炭の大輸入ありたる場合の外は明治三十一年以來の發展を示せり。其原因凡そ左の如し。

積極的原因

一、造船材料の需要多かりしこと

二、肥料の需要増加したること

三、銀塊下落の對支輸入貿易を催進せしめたること

四、前年末桑港、サクラメント、シャートル方面に同盟罷工起り石炭の不足を補ふ爲め石炭積込の臨時船本邦に向つて出帆するもの多かりし爲め米國より本邦へ輸入する貨物の一般運賃競争の結果低減されたること

消極的原因

一、内地産業の發達したる爲め外國品の需要を減じたること

二、明治三十九年十月關稅定率改正に基く昂騰並に當年に於ける一般不景氣及諸物品の高値なる結果生活費の緊縮をなす者多く爲に輸入品特に食料品の需要減少したるものあること

輸出入貿易の内容を見るに輸出の第一に位するは食料品の百四十九萬二千餘圓即ち全輸出額の五割三分餘に當り、次は原料品の九萬二千餘圓即ち一割九分餘、全製品の七十九萬五千餘圓即ち一割七分、原料用製品の二十六萬一千餘圓即ち五分、其他の雜品の十八萬四千餘圓即ち四分餘なり。

輸入品にありては全製品を第一位とし其額五百四十八萬二千餘圓即ち全輸入額の四割二分に當り、次は原料用製品の三百四十九萬八千餘圓即ち二割七分、原料品の二百五十八萬一千餘圓即ち二割餘、食料品の百十六萬二千餘圓即ち九分餘等なり。

之を通商國別に就て云へば其總額五百三十六萬四千七百餘圓にして前年に比し九萬六千餘圓の減少なり。内輸入に於ては十八萬八千餘圓を増加したりと雖も輸出に於て實に二十八萬四千餘圓の巨額を減じたり。此原因に就ては「長崎對支貿易最近二十五年紀要」第四百十六頁乃至第四百十九頁に詳説せり。

香港貿易に於ては輸出百二十八萬七千三百餘圓、輸入一萬三、三、三餘圓にして前年に比し輸出に二十二萬五百餘圓を増加し、輸入に六萬二千二百餘圓を減少せり。當港香港貿易は明治三十七年南支地方一帯の饑饉により一大打撃を蒙りし以來恢復の機運至らざりしに此年漸く之が創癒を見るに至り錫銀塊の相場下落により輸出を妨ぐる現象ありしに拘らず水産品の輸出進捗し前記の如き増加を生じたり。殊に南支地方の購買力恢復、看買問題の解決、長崎港集散漁獲物の豊漁等積極的原因たらずんばあらず。而して輸入に減退したるは主として内地精糖業の發達により之が供給を埃つこと少きに至れる爲めなり。

朝鮮貿易にありては輸出に於て三萬九千餘圓の減退を見られたれども輸入に於て二十六萬一千餘圓の増加を示したり。輸出漸く減退に向へるは門司、下ノ關、博多、嚴原等の對鮮貿易發展に伴ひ地理的關係及船使の關係等より當港はそれ等の諸港に一步を譲らざるべからざるに至りしが故なり。只當年輸入の激増せるは大豆及米の著しき増入に基因するものにして、蓋し此年内地醬油、味噌等の製造原料不足を告げ、且内地米價の騰貴に際し鮮米豐作なりし爲め之が輸入を促進せるによる。

對露領亞細亞貿易は輸出四十一萬一千八百六十圓、輸入六萬七千三百五圓にして之を前年に比すれば輸入に於て四萬六千餘圓を増加したれども、輸出に於て七十三萬四千餘圓の大減少を

示せり。

斯くの如き輸出貿易の減退は種々の原因ありと雖も凡そ左の諸因を數へざるべからず。

- 一、浦鹽方面の不景氣
- 一、敦賀港の輸出増加

- 三、浦鹽自由港廢止問題の爲め多額の輸入並に戰後過多の輸入ありたるを以て供給超過に至りたること

- 四、獨逸品の競争

- 五、極東擾亂の危險

- 六、ニコライスク一帯漁業不振の爲め沿海洲全體の購買力を減じたること

即ち當年の輸出減退は主として浦鹽に於ける外國貿易の不振に基因せり。

對英貿易は其總額七百二十四萬七千餘圓にして内輸出五萬八千餘圓、輸入七百十八萬八千餘圓、之を前年に比すれば輸出に於て一萬九千餘圓を減じ輸入に於て百五十六萬三千餘圓を増加せり。輸入の増加は主として金屬類、機械類、布帛製品、塗料染料及顔料等の増入に因る。

明治四十一年

當年長崎港の外國貿易は全國貿易額の減少に伴ひ前年に比し一割二歩餘、二百五十餘萬圓の

減少を示したり。之を過去十年に對照すれば明治三十二年、三十五年及三十六年の三ヶ年に比し稍優れる所あるも其他に比しては何れも及ばざること遠く、日露戦後漸次發達し來りたる當港貿易は茲に再び戦前の昔に逆退せり。(別表參照)。

顧るに同年本邦外國貿易は前年秋季に於ける經濟界の變動に續ける世界不景氣の影響を蒙り歐米貿易に大打撃を受け、一方銀塊及銅の下落、南支に於ける日貨排斥等の爲め對支輸出貿易の不況を見たる等にて戦後發展し來りたる貿易に大蹙退を來し輸出は三億七千八百萬餘圓輸入は四億三千六百萬餘圓、合計八億一千四百萬圓にして即ち明治三十九年の成績に逆退せり。

之を當港に於ける消長に鑑みるに當初戦後國力の發展に伴ふ本邦品海外需要の版圖漸次擴張せられ支那、朝鮮並に南洋諸國、印度方面に於て新に需要地を開拓し、加之内地物價は前年に比し漸く低落し南支方面、南洋諸國は漸次世界商業の中心に接近し商工業漸く隆盛となり石炭の需要は益多く、船舶の往復亦漸く増進し商業關係の親密を見るに至り、浦鹽貿易も亦同港閉鎖の議進捗し來り見越輸入を企つるもの等あり、輸出貿易増進の見込みなりしも當年に入るや之等の諸現象を打消すべき重要事項續出し來れり。即ち米國經濟界の混沌は惹きて世界の不況となり、支那にありては前年秋より下落したる倫敦銀塊は益其趨勢を持續し、之が影響は獨り本邦輸出貿易に直接の支障を與へたるのみならず支那貿易商にも大損害を蒙らしめ支拂停止、

破産者等續出し、之と相前後して廣東に於ける第二辰丸事件より排貨問題となり、取引杜絶すること數閱月、加ふるに上海より漢口方面、楊子江一帶に於ける經濟界の不振は同方面の商業に尠なからざる打撃を與へ、浦鹽港は露國軍隊シベリア引擧以來不景氣依然として恢復せず、朝鮮に於ける暴徒又久しく鎮靜せず本邦貿易を阻害したる等障害一二にして足らず遂に内地物品の生産過多を訴るに至れり。

輸入にありては銀塊下落の爲め銀貨國たる支那よりの輸入に便宜を與へたるに加へて内地米價の高位を持續し爲めに肥料の輸入に好都合にして相應の需要あり。各工場は戦後擴張計畫に伴ふ機械類の到着あり。砂糖輸入税率の引上に先立ち見越輸入ありたる等の爲め輸入貿易は相當の好況を呈すべき見込みなりしも、當港輸入貿易の中樞たる造船材料に八月以降大減少を見、遂に百五十餘萬圓の減少を示したり。一方海運界に於ては船舶過多、貨物減少し、造船業は新注文も前年に半減し修繕船も亦大に減じ三菱造船所を始めとし各工場事業の緊縮をなし、著しく當港輸入貿易の不振を來したり。

輸出品の内容に就て見るに食料品は百六十四萬九千圓、即ち總輸出額の四割四歩にして前年の五割三歩に比すれば非常なる減退なり。當年の輸出貿易が甚しき減退を示せるは全く此食料品の輸出不振に基因す、其他原料品及原料用製品は何れも多少の増加ありたれども、全製品及雜

品に於て又減退せり。

輸入額最も多かりしは全製品の四百六十六萬五千餘圓なりしが之とても前年に比し二百十九萬七千餘圓を減じ輸入減退の成績を成さしめたり。

之を通商國別に就て點檢するに對支貿易は輸出に於て甚しき不況を示したれども輸入にありては四百二萬九千餘圓てふ明治三十六年來の多額に達し前年に比して七千四萬九千餘圓を増加したり。香港貿易は輸出に六十九萬九千餘圓を減じ、輸入に八萬二千餘圓を増加し結局合計に於て六十一萬七千餘圓を減じたり。輸出打撃の主なるものは錫其他の海産物にして、輸入は砂糖輸入税増税實施の爲め至急を要する見越輸入として近距離の同港より之を引取りしによる。

露領亞細亞貿易としては浦鹽港の不況甚しく本邦商人中の有力者と稱せられたる同地杉浦商店の如きすら十月三日遂に破綻と決し、獨逸商館クンストアルベルス商會亦一時殆ど同様の窮況に陥りたり。之蓋し一は戰後無暴なる商店の増加ありたるを、他は露國政府財政困難の結果官吏の俸給、政府事業の請負金、勞働者の勞銀等満足に支拂はれず黒龍江鐵道其他各般の事業も多く緊縮せられ資金融通の途なく信用取引の基礎を失ひ、又曩に自由港閉鎖見越の爲めに輸入したる商品が、閉鎖實行延引の結果思はしき賣行を見ず、金融一層逼迫を來せり。

英國貿易は輸出に於て幾分の増加を見たるも輸入にありては却て減退を示せり。之戰後起業

熱勃興當時注文されたる各種の機械類も前年に於て略其輸入を終りたるを造船事業緊縮の爲め同材料の輸入減少に起因するものと如し。

明治四十二年

明治四十二年中に於ける本港外國貿易額は輸出三百五十八萬一千六百八十四圓輸入九百三十一萬二千六百八十五圓合計一千二百八十九萬四千三百六十九圓にして之を前年に比すれば輸出に十三萬五千七百四十五圓輸入に五百三十二萬八百九十三圓合計に於て五百四十五萬六千六百三十八圓を減じ更に前々年に比較する時は輸出に百七萬三千二百六十圓輸入に六百九十一萬七千八百十六圓合計に於て實に七百九十九萬一千七十六圓の減退を告げ近年稀なる不況を呈したり。之れ四十二年にあつては歐米の財界漸く其景氣を恢復し其他銀塊の騰貴、南支ポイコットの終熄等に因り、錫、椎茸、鱈、鮑、東洋紙、鐵及鋼製品、罐詰及罐、食物、蔬菜及果實等の輸出増加を告げたりと雖も前年に於ける支那市場の沈靜、上海、漢口方面各工場製産の減縮滿鮮に於ける我邦經營の完備及内地產業界の不振等は打綿、木炭、綿織絲、セメント、石炭、木材及板、米、揚卷、海參、陶磁器其他の輸出に多大の打撃を與へ結局前記の如き減退を告げたるのみならず輸入に於ても一般工業界殊に造船事業の緊縮により、鐵釘、鐵及鋼塊、鐵及鋼條竿、チーク材、木材及板、諸機械等に著しき減退を來し、其他内地豐作の結果は米の輸入に、

又近年本邦麥粉事業の發達は輸入製粉に、原産地の不作は支那よりの繰綿に其他内地需用の漸減の結果は豆類、砂糖、胡麻子、石油等の輸入總額に顯著なる影響を及ぼしたるものと如く之れが爲め輸入額の前年に劣ること五百三十二萬九百九十三圓更に前々年に對比すれば實に六百九十一萬七千八百十六圓の減縮を呈したり。

之を通商國別に就て見るに對支貿易に於て輸出百五十二萬七千餘圓、輸入三百二十一萬餘圓之を前年に比するに輸出に於て五萬一千餘圓を減じ、輸入に於て二十九萬二千餘圓の巨額を減じたり。

關東州との貿易は當年甚だ好況を示し輸出に於て一萬八千餘圓、輸入に於て三十四萬四千餘圓を増加したり。由來關東州の發達は一に滿洲の開發に負ふ所大なるものあり。從來同方面に於ける農作物は豆類の外輸出を禁せられたりしが時勢の進運に促され、農業の發達と收入の増加とを計るは之が解禁にあるを感じ、明治四十年九月關東都督府の交渉により第一に小麥の禁輸を解き、次で高粱、玉蜀黍、蕎麥等漸次關東州より輸出を許可せらるゝに至り、之と同時に銀塊相場は連年下落を示し、之等の輸出を順調ならしめたり。之當港輸入の同方面よりするものを増加せる所以にして、一方又滿洲の農業進歩するに従ひ之と共に工業の發展を促進し内外の物資を吸收するの力を増加したるを以て、銀塊下落、安奉線問題によるポイコット等多少の

障害ありしにも拘らず前述の如き輸出増進を見たりしなり。

香港貿易にありては前年に比し輸出に二十七萬八千餘圓を増加し、輸入に五萬六千餘圓を減じたり。前年ポイコットの反動として輸出の増進を統計表上に現はしたりと雖も之を四十年に比すれば甚しき不振といはざるべからず。蓋し之客年南支地方を席捲したりし財界の不況により手堅き商店をも傷けたること夥しく、況や其他に於ては倒産破綻瀕りに發生し外國銀行側の信地用を拂ひ、從來信用爲替の便を得たりし商店も荷爲替ならでは容易に資金の融通を得難くなり、且五月南支地方河水汎濫人家流出の慘あり、他方銀塊の下落は香港爲替を暴落せしめ爲めに益不況を重ねるに至れり。殊に注目すべきは香港は南支地方に對する仲繼地たるの外、比律賓、南洋方面に對しても亦本邦雜貨の仲繼地たりしが、近年南洋地方獨逸製品の跋扈甚しく加ふるに米國新關稅法實施せられ米國よりの直輸入品は無税なるも一度外國の港を経由せるものは假令米國品と雖も輸入税を課せらるゝこととなりしより、之が影響を蒙りたること少からず。更に他の原因としては本邦水産物の臺灣を経由して支那戒克により南支地方に輸送するもの年々増加するの傾向あると、西澤島問題の事より又南支地方日貨排斥土貨振興などを標榜するものあり。何れも直接間接當港對香港貿易上に打撃を與へたり。

對露領亞細亞貿易は從來年額百萬圓を下ること少かりしが日露戰後敦賀の發展により先づ其

繁榮を奪はれ、殊に當年三月十四日以降極東自由港廢止法は愈實施せらるゝこととなり、曩に高利を支拂ひて企てられたる見越輸入品は容易に商賈の手を離れず市場に堆滞して一層不振の度を高め斯くて當年の輸出は遂に十五萬三千餘圓を減するに至れり。

對英貿易にありては輸出五萬五千餘圓、輸入二百八萬一千餘圓、之を前年に比するに輸出に於て二萬餘圓、輸入に於て三百三十九萬一千餘圓、總計三百四十一萬二千餘圓の減額にして即ち實に前年の六割一分を減じたり。之偏に一千九百七年に起りし恐慌の餘波が當地造船業及船渠業に及ぼして何れも閑散を極めたるに、英國産業界が未だ恢復の時に至たらざりしに基因するものならずんばあらず。

明治四十三年

明治四十三年に於ける長崎港外國貿易は總額一千二百二十二萬二千八百六十六圓にして前五ヶ年中に於て未だ曾て見ざるの大不振に陥りたり。殊に輸出にありては僅かに三百三十萬三千九百五十九圓に過ぎず、之を明治二十七年の三百五十五萬八千七百一十一圓に比するも尙二十五萬四千七百五十二圓の減額なり。輸入亦僅かに八百九十一萬八千九百七圓、之を明治三十八年の一千九百五十五萬一千二百八十六圓に比すれば其半ばにも達せず。

輸出にありては銀價の大崩落あり、爲めに對支爲替(上海參着拂)は六十兩臺より一躍八十兩

臺に暴騰し對支、對香港の輸出貿易に著しき打撃を與へたり。加之明治三十七年四月若松の開港せられたるを始めとし、三十九年四月には住ノ江港、四十一年四月には三池港の相踵いで開港せらるゝあり、且つ門司港は日露戰役前後より異常の大發展を示し、明治四十二年十一月遂に獨立税關を設置され、當港の勢力圏次第に狹隘を感せざるを得ざるに至り、當年の如きも石炭、海參、貝類の増出、海底電線の臨時大輸入、造船材料及纜綿の増入等ありて一面頗る好況を呈したるものあるに拘らず、之等減退の部面は、前記諸港の經由に係る經路變更により相殺せられ、且又實際當面の貿易に於ても大豆粕の輸入激減あり、米、石油、鐵管、葉鐵並に鑛山等の不況に基く機械類、金屬類の輸入減退あり、錫及鱒の薄漁、蕃薯の不作、椎茸の不況等による輸出の減少あり、遂に統計表上日露戰時及戰後の一時的膨脹に對する反動的退嬰の部面を露呈し終りたり。

之を通商國別に就て見るに對支貿易に於て甚しき不振の状態にあり前年に比するも尙輸出に十萬六千餘圓、輸入に九十四萬八千餘圓、都合百五十五萬五千餘圓の大減退を來したり。之蓋し輸出にありては主として錫の不況、椎茸、木炭等の賣行不味なりしに基き、輸入にありては豆糟及菜子糟の産地價格暴騰の結果國內需要の減退となり豆粕は前年の三分の一、菜子粕は二分の一に縮少せる爲めなり。關東州貿易に於ても亦輸出に九萬四千餘圓、輸入に二十七萬六千餘圓

を減じ合計三十七萬餘圓の減退を來したり。之又輸出に電柱其他の木製品に九萬餘圓を縮少し輸入大豆及大豆糟に二十七萬餘圓を減額せるに由る。

香港貿易亦輸出に五萬九千餘圓、輸入に六千餘圓を減じたりしが、輸出の如き一般水産物及椎茸、蕃薯等に好況を呈したるにも拘らず錫に二割の減出を來せし爲め遂に如上の不結果を現したり。

獨り對英貿易にありては輸出入共に増加を示し即ち輸出に一萬九千餘圓、輸入に百十四萬五千圓を増加せり。輸出に於ては鮑殼其過半を占め、輸入にありて當港基隆間に布設すべき海底電線の激増、造船材料の増入により旺盛にして他方汽船、機械類、葉鐵等に減少を告げたるも結局如上の増進を示すを得たり。

茲に留意すべきは近時南洋諸島の開發日を遂うて其面目を改め物資の需要亦漸く多きを加へつゝあり。從て之と交通の便最も多き當港の如き少額ながらも、水産物、蔬菜、雜貨の輸出を見るに至れること之なり。而して其主なる仕向先を比律賓諸島、濠太刺利亞及蘭領印度方面となす。殊に比律賓諸島に對しては當年十萬餘圓の輸出額を算するを得たり。

明治四十四年

明治四十四年長崎港外國貿易額は輸出三百四十萬五千八百八十三圓、輸入一千四十三萬二千七

百七十圓、合計一千三百八十三萬七千九百五十三圓にして七百二萬七千五百八十七圓の輸入超過を示せり。之を前年に比較すれば輸出に十萬一千二百二十四圓、輸入に百五十一萬三千八百六十三圓を増加し輸入超過亦百四十一萬二千六百三十九圓を増加せり。更に朝鮮貿易額を合算するときは輸出入總額に於て百七十四萬二千餘圓を増進す。當年の本港貿易が前年に比し百六十一萬五千餘圓の増加を示せるは漸く恢復の曙光を現したるものにして支那動亂の影響を被らざりせば尙多額の増進を記録し得たるなるべし。輸出に於て増進せるは主として前半期に於ける歐米を始め世界經濟界の狀況著しく良好に向ひ需要力の増進を促し、銀塊相場が上半期を通し上位を維持したるは前年の農作豐穰と相俟て對支貿易の發展を促進し北米合衆國及印度の豐作は對米對印貿易に般賑を誘致せるによる。而して下半期に入りても七月より九月迄は依然好調を維持し漸く貿易旺盛の時期に入らんとするに當り俄然支那の大動亂勃發したれば長江沿岸並に南支貿易を中心とせる本港貿易は一時悲境に陥り市場寂寞を免れざりしが上半期の好況により下半期の缺陷を補ふを得たり。

更に輸入に於て百五十一萬三千餘圓を増加せるは上下兩半期共前年に比し伸長せるによる。殊に上半期に於て最も多額の輸入増進せるは内地景氣恢復と共に一般需要の増進により必需品の輸入を促進したると、一昨年内地米作凶歉の結果は外國米の輸入を激増し、造船界の活躍は造

船材料及機械類の輸入を増し且つ新關稅法實施に伴ふ見越輸入多かりしを以て噸に増加を示せなり。下半期に入りても商勢衰へず外國米諸機械の輸入は依然伸長し且肥料獸骨油糞並に綿の輸入激増し市況殷賑を呈したり。輸出品中錫、淡菜、海參等主として海産物に増進せるは上半期に於て銀塊相場絶へず上位を維持し、亦支那内地豐作の結果は需要力の増進を促し、一方原産地に於ける豐漁の結果上海及香港市場に多額の輸出あり、下半期に入りては支那事變の爲海産貿易一時混亂の狀態に陥り、唯だ香港並に北支市場のみ漸く舊狀を維持し得たるも長江沿岸の取引休止の悲境を見たり。されば前記の増加は主として動亂發生以前の好況に歸因せずんばならず。蕃諸は昨年不振に引替へ本年は豐作の上品質改良の結果良品の出廻多く比律賓に向け輸出増進せり。鐘詰鮑は年々香港方面に需要を喚起し、鮑殼は客年の日英博覽會に於て本邦品の優良なるを認められたる以來同地への輸出伸長し、石炭に増加せるは上海、南京、新嘉坡、柔港、馬尼拉へ輸出を促進したるに依る木材及木炭は大連、上海に對し増加ありたるに反しセメントは大連に對し却て減少を示せり。製茶に減退せるは主として近年優秀なる漢口茶の出廻多き爲め當港より輸出する天津向き綠茶、番茶に尠からざる打撃を蒙らしめたるに依るものゝ如く、浦鹽、米國向も不味を唱へ漸次輸出を減じたり。諸機械に減退せるは主として大連及上海仕向の不味に歸因し、珊瑚に減退せるは元來本品は數量稀少の高價品なれば其産額の

多寡は直接に輸出額に反響して年により多大の相違あり、同年産額の減少せる上に伊土戰爭の影響を被り輸出不振に終りたるものゝ如し。輸入にありては先づ米に五十三萬餘圓の増加を示せり。之内地米作不良の後を受け米價の暴騰著しければ外國米の需要増加せるのみならず新關稅定率法の實施により輸入税の増徴せらるゝを見越し同法施行前に輸入手續を了せるもの多く繰綿に増加せるは支那動亂の結果上海紡績工場休業により需要減退せると金融逼迫の爲め賣急げる結果支那棉花の増入あり、更に米棉の輸入激増せるは従來鐵道運賃の關係上鐘ヶ淵紡績三池工場に輸送さるゝ米棉は總て門司港を経由する慣なりしに四十三年二月以降三池に至るものは當港よりすると門司よりすると同一賃率に改定せられたる爲め従來門司を経由せるものゝ一部は當港を経由するに至りたるに因る。肥料、油糟は前年滿洲大豆の歐洲に對する大輸出の影響を受け價格暴騰し隨て該品の輸入は大打撃を被りしが本年は之が反動により價格下落し内地米價の昂騰に基く農家の購買力増加と相俟て需要の増進著しく、之に反して肥料獸骨は優勢なる大豆粕に壓せられ加ふるに今次の動亂により漢口牛骨の出廻杜絶したれば遂に甚しき減退を示したり。石油に増加せるは一昨年來内外油の激烈なる競争の結果輸入の經路を變更せし爲め一時減退せしが當年再び當港を経由するもの多かりしに因る。又鐵、銅板、アングル鐵及類似品並に機械類の増加せるは主として造船界の活況により當港三菱造船所事業擴張の爲め造船

材料及工場用機械類の輸入を促進せるに基因すれども多少税率に對する見越輸入に係るものを含み、バラフィンワックスの如き亦見越輸入による増加と見るを得べし。而して海底及地下用電線に八十六萬餘圓の減退を示せるは前年長崎基隆間海底電線布設用として英國より多額の輸入ありたるも當年は其必要なしに因る。

更に之を通商國別に就きて云はんか對支貿易は前年に比し輸出に一萬一千餘圓を減じ輸入に一萬八千餘圓を増加せり。前年中支及南支地方農作豊穰なりし結果一般に購買力旺盛にして輸出貿易は春來頗る活況を呈し、水産物を始め椎茸、綿布、東洋紙、石炭等の需要多く、當年の殷盛を豫期せられたりしが十月中旬突如として革命の動亂勃發し、支那各地に於ける信用制度全く破壊され、繼かに當座用小口物の現物取引を見るに過ぎず出荷殆ど杜絶の状態に陥れり。只輸入にありては棉花、獸骨の出廻り減退せるに拘らず菓子糖を始め豆類、胡麻子及滿洲産大豆精等の増入あり、前記の成績を現はしたり。

關東州は前年に比し輸出に七萬三千餘圓を減少し、輸入に四萬餘圓の増加をなしたるが爲め輸出入を通じて三萬二千餘圓の減少を示したり。香港貿易は前年に比し輸出に十五萬五千餘圓輸入に八千餘圓、合計十一萬四千餘圓を増進せり。

對露領亞細亞貿易は晩近敦賀港の浦鹽貿易發展に伴れ漸次衰退の傾向ありしが、近時當港附

近産出の密柑類品質良好なるを知らるゝや再び其販路を恢復し、蕃薯其他の蔬菜、果實等の輸出亦好況を示し、輸出に七萬二千餘圓、輸入に八千餘圓を増進せり。

英國に對しては輸出八萬餘圓、輸入三百二十七萬餘圓、之を前年に比し輸出に八千餘圓、輸入に五萬一千餘圓を増加し、殊に其輸入貿易は國別に於て第一位を占めたり。蓋し輸入に於ては鐵類の百餘萬圓を筆頭とし、其他金屬及金屬製品、機械類、石炭を主たるものとし、藥材、塗料、化學工藝品其他各種の輸入皆増進し、殊に當年海軍界の好況と、造船業の殷盛とに伴ひ汽船を首め造船材料及工場用鐵材等に頗る増入を見、加ふるに七月關稅率改正に際し見越輸入あり、諸機械類の如き前年に比し五十二萬圓を増加せり。只前年海底電線の臨時大輸入ありし反動として該品に八十六萬圓の減入ありし爲め、實際上は頗る活潑なる貿易状態にありしに似ず統計表上僅かに五萬餘圓の増進を示すに止まりたり。

明治四十五年(大正元年)

明治四十五年(大正元年)中本港外國貿易額は輸出三百九十五萬三千五百四圓、輸入一千二百六十八萬五千七百十三圓、合計一千六百六十三萬九千二百七十七圓にして輸入の輸出に超過すること八百七十三萬二千二百九圓なり。之を前年に比するに輸出に於て五十四萬八千三百二十一圓、輸入に於て二百二十五萬二千九百四十三圓、輸出入合計に於て二百八十萬一千二百六十四

圓を増加せり。更に之を四十三年に比較すれば輸出に六十四萬九千五百四十五圓、輸入に三百七十六萬六千八百六圓、輸出入合計に於て四百四十一萬六千三百五十一圓を増加せり。是れ當年本港對外貿易が輸出貿易に於て支那、香港、英領印度其他の亞細亞諸國を始め英吉利、獨逸北米合衆國等に増進したると同時に輸入貿易に在りても佛領印度、英吉利、白耳義、北米合衆國等に著しき伸張を示したるによる。其因由とも視るべきは歐米の財界は本年下半期に於て巴爾幹事件の勃發により一種の不安を醸出し延て我輸出貿易上に幾分の累を及せし點なきにしもあらざりしかども、一方伊土戦争は終に結末を告げ米國大統領選舉も其恒例を破りて對米貿易上何等惡影響を與へざりしのみならず米國、支那、印度の三大農産國は農作豐穰の好報を傳へて人氣旺盛購買力著しく増加し就中支那市場は農作豐穰、銀價好調、借款の好望、秩序恢復等彼是相倚りて市場の好況を誘發し錫、乾蝦、乾貝、鱈、鹹煎魚等の海産物を始めとし椎茸、東洋紙等の輸出最も好調を呈し、海運界の活況に伴ふ石炭の輸出亦著しく増加したり。更に輸入貿易に在りては内地米價の暴騰に伴ふ外米輸入關稅の低減により佛領印度米の輸入激増し他方には農民の購買力増進して肥料獸骨の増入となり、本邦紡績業の活況により米棉の輸入は前年に比し約一百萬圓の激増をなせり。且又造船事業の活況は各種鐵類、其他造船材料の輸入を激増せしめ結局前年に比し二百八十餘萬圓の輸入増加を示すに至れり。唯だ肥料油糟に於て二

十五萬圓、石油に二十七萬餘圓を減退したるは前者は元産地大豆糟の騰貴並に中部支部動亂の影響を受けて抄々しき出廻を見る能はざりしことにより、自然如上輸入の減少を來したり。石油の減少は元産地に於ける市價高騰の爲め輸入の進路を抑壓したるによる。

之を大觀するに本年に於ける當港對外貿易は前年に比して輸出入共著しく増進を示し殊に輸入品に於て然るを觀る。此巨額の輸入は内地事業界の殷賑、物價の騰貴、殊に米價の騰貴等に基因するものなるは輸入品の内容に徴して略知ることを得べく、輸出貿易の盛況を呈したる所以は前述の如く米國、支那、印度其他世界を通じて農作物の豐穰を傳へたと並に支那市場の好況とに因由すること極めて多し。

之を通商國別に就て見れば對支貿易に於て輸出に於て輸出に十五萬五千餘圓を増加し、輸入に十萬六千餘圓を減じたり。輸出の増進は海産物、椎茸、木炭等の増出に負ふところ多く、輸入の減退は支那動亂尙終熄に至らず、銀價騰貴して同方面よりの輸出を不利ならしめたるによる。關東州に對しては輸出に十四萬七千餘圓を減じ、輸入に十三萬六千餘圓を増加し、香港に對しては輸出に三十五萬三千餘圓を増加し、輸入に二萬二千餘圓を減じたり。

對英貿易に於ては其増進殊に見るべきものあり、輸出十萬四千七百七十七圓、輸入四百八萬八千四百四十八圓、合計四百四十九萬二千六百二十五圓にして之を前年に比すれば輸出に於て二萬

一千餘圓を増し、輸入に八十一萬餘圓を増加し、合計八十三萬二千餘の増額を示したり。
 米國に對しても亦著しく増進し、輸出二十九萬三千六百九十八圓、輸入三百十二萬六千九百九十八圓、合計三百四十一萬九千八百九十六圓、之を前年に比すれば、輸出に五萬四千圓、輸入に百四萬七千餘圓を増加し、合計に於て即ち百十萬圓の増進を現はしたり。
 之を國別より見れば輸出にありては食料品に五十五萬二千餘圓、原於品に二十一萬四千餘圓全製品に四萬七千餘圓、其他の雜品に七千餘圓を増加し、只原料用製品に約一萬を減じたるのみ。輸入にありても食料品に百二十五萬二千餘圓、原料品に百十七萬四千餘圓、原料用製品に四十七萬三千餘圓、全製品に約五千圓、何れも増加を示したり。

第三節 自大正二年至大正七年貿易狀況

大正二年より同七年に至る最近六ケ年間は盛衰共に本邦對外貿易の變調時代なり。當港外國貿易も亦直接間接其影響を免るゝ能はず。謂ひ得べくんば大正二年は世界戰亂の前期なり、同三、四年は其初期にして、之を貿易上より見れば悲況時代なり。同五、六年は其中期にして、之を本邦外國貿易上より云へば盛況時代と稱するを得べく、越えて同七年は其終末期にして戰時貿易の打切時代なり。

本邦外國貿易統計に徴するに大正二年より同六年に至る五ケ年の貿易成績左の如きものあり

○最近五ケ年間本邦外國貿易價額表

年次	輸出額	輸入額	輸出入合計	輸出入超過額
大正二年	三三,三〇,〇三三	七九,三三,〇四四	一一,一〇,九四二	入超 六六,九七,三三三
大正三年	五九,一〇,一四六	五九,七五,七三三	一一,三六,八五七	同 四,三三,三三三
大正四年	七〇,八三,〇九七	五三,四九,九三六	一一,四〇,八七二	出超 一七,八五,〇五九
大正五年	一一,三七,四六八,二一八	七五,四七,七〇〇	一一,八三,八六六,〇二六	同 三七,一〇,〇〇八
大正六年	一,〇三,三〇,〇四八	一,〇三,五八二,一〇七	二,〇六,八八四,一五五	同 五七,一三,九四一

而して今、同期間長崎港の貿易状態を見るに左表の如し。

○最近五ケ年間長崎港貿易價額表

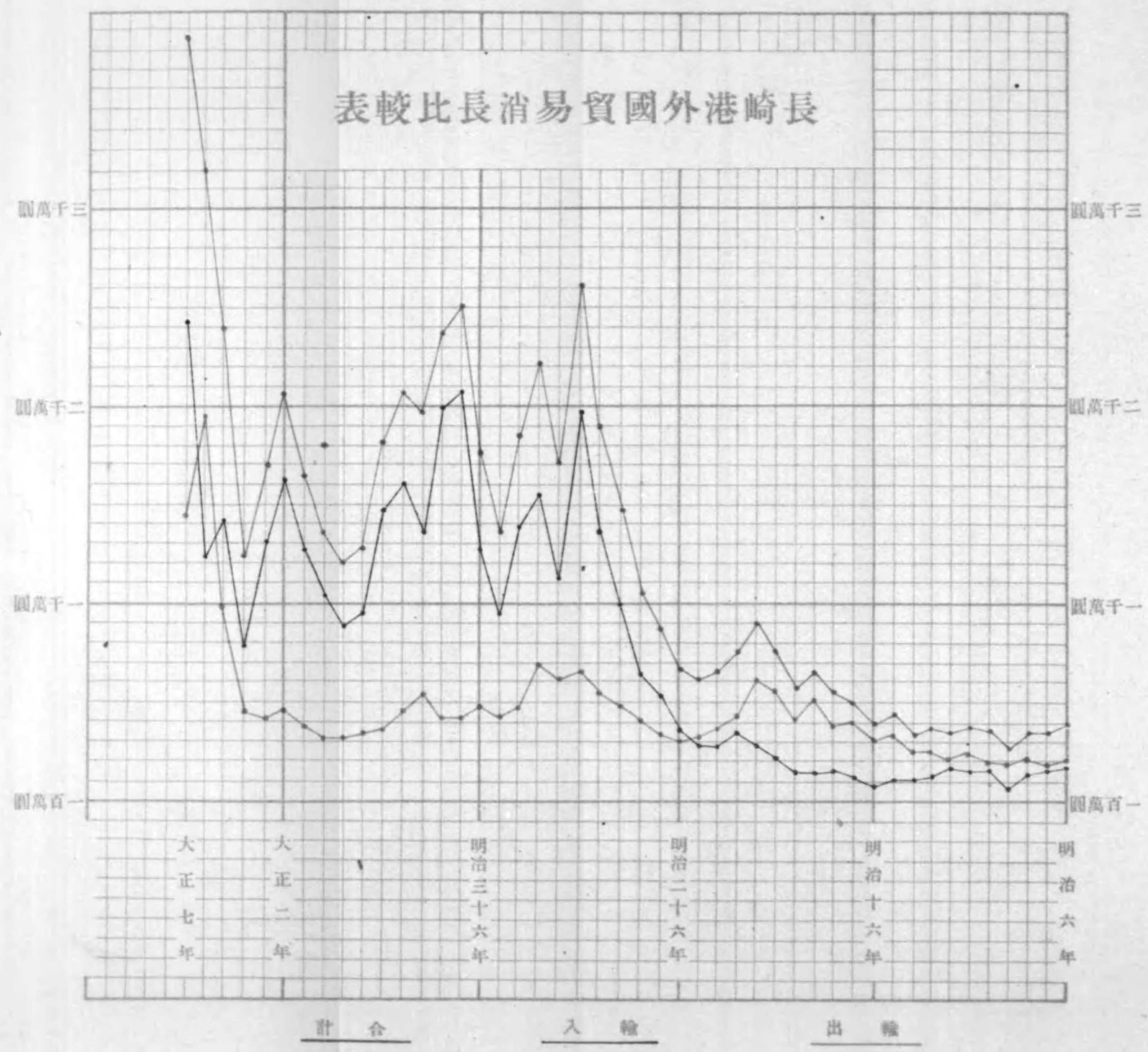
種別	大正六年	大正五年	大正四年	大正三年	大正二年
外國貿易	三三,三〇,〇三三	七九,三三,〇四四	一一,一〇,九四二	一一,一〇,九四二	一一,一〇,九四二
輸出	一九,七三,七三六	九,九三,五三四	四,三九,六三三	四,三九,六三三	四,三九,六三三
輸入	一一,三三,七三三	一四,一〇,三三三	七,八二,五二八	一三,〇〇,三〇八	一六,三三,三〇六
特別貿易	八,一〇,七三三	四,三三,五三五	三,九三,〇三三	五,二七,八三三	五,八〇,五三三
輸出	六,八三,六四四	四,〇七,四四六	三,六四,八四六	四,五四,七三三	五,〇〇一,三三三
輸入	一,二七,〇八九	三,二六,〇八九	三,二八,一九七	四,五三,一〇〇	五,八〇,五三三

長崎港概観

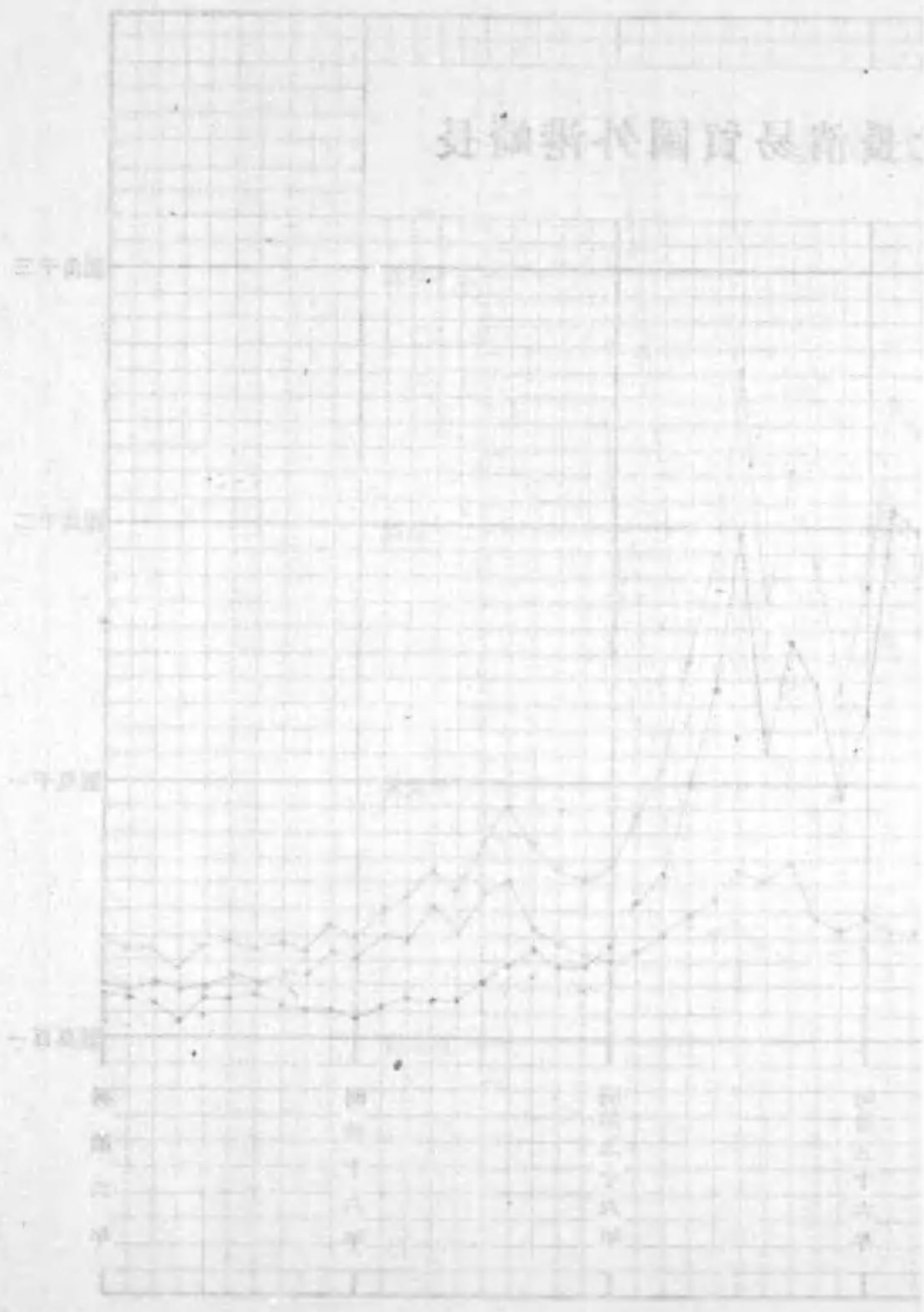
合 計	朝鮮貿易		仲 繼 貿易
	移 入	移 出	
四三、五五五、八八八	一、三七、二一九	一、四四、八〇四	三〇、五五八、七六四
三〇、五五八、七六四	二五八、七〇九	七六五、三九一	一九、九二五、八八一
一九、九二五、八八一	二五八、七〇〇	一、五五四、七六八	二五、八八九、五三七
二五、八八九、五三七	七〇一、四〇〇	三三三、五九八	二五、八九九、五三七
三二、九六三、三三三	八四八、六八六	六四九、九八八	三二、九六三、三三三

見るべし、大正元年末に於て貿易總額二千七百七十七萬六千八百七十圓なりしもの大正二年に入りては三千四百九十六萬三千二百二十三圓となり、前年に比し四百十八萬六千三百五十三圓の増加を示したるが、同三年總額二千五百八十九萬九千五百三十七圓となり、同四年には一千九百九十五萬五千八百八十一圓と萎縮し、之を大正二年のそれに比すれば實に一千二百四萬七千三百四十二圓の減額なり。然れども此悲況時代を經過して大正五年を迎ふるや、我が對外貿易は異常の活況を呈し來り、同年一躍三千五千五百八十二萬八千七百六十四圓を算し、更に翌六年には四千二百五十五萬五千八百八十八圓てふ未曾有の成績を記録するに至れり。以下を別ちて項開が消長の内容を檢せん。

長崎港外國貿易消費比較表



長崎港外國貿易額



第一項 外國貿易

其 一 一船狀況

大正二年

大正二年中本港外國貿易額は輸出貿易四百七十四萬五千六百十八圓、輸入貿易千六百十三萬六千九百六圓、合計二千八十八萬二千五百二十四圓にして輸入の輸出に超過すること千百三十九萬一千二百八十八圓なり。而して之を前年と比較するに輸出に七十九萬二千百十四圓、輸入に三百四十五萬一千百九十三圓、合計四百二十四萬三千三百七圓の増進を示せり。更に之を四十四年に比すれば輸出に百三十四萬四百三十五圓、輸入に五百七十萬四千百三十六圓、合計七百五萬四千五百七十一圓の増進なり。是れ當年中に於ける本港對外貿易が輸出貿易に於て支那、香港、關東州、北米合衆國を始め英吉利、露西亞、白耳義等に増進したると同時に輸入貿易に在りても、佛領印度、英吉利、支那、關東州、獨逸等に著しき伸張を示したるによる。其因由とも見るべきは歐洲財界の不安は久しく結んで解けざりし巴爾幹問題の平和條約成立によりて一段落を告げ、次で西隣支那には今春以來同國借款の幾變轉、銀價低落、南北政争等幾多の惡材料瀕出したるに拘はらず前年より當年に掛け農產物豐饒なりし結果一般購買力旺盛にして市場

の好況を誘致し、鮑、淡菜、海參、乾貝等の海産物を始めとし、木炭、椎茸、洋服、東洋紙等の對支重要貿易品は何れも前年度に比し著しく其の輸出を増進せり。只石炭に著しき輸出減少を示せるあり、之れ本年度に於ける石炭界は頗る活潑なる状況を持続し海運界空前の活況、内地支那工業の勃興及濠洲炭が賃銀騰貴の結果南洋方面に於ける供給を十分に爲し得ざる等一つとして本邦炭活躍の好材料ならざるなく炭價は昂騰を續け内地の需要激増して供給之に伴はず以て輸出を阻止したるが如し。更に輸入貿易に在りては内地米價の騰貴に伴ひ佛領印度米の輸入激増し、他方には農民の購買力増進して肥料油糟、肥料獸骨の増入となり造船事業の活況は各種鐵類其他造船材料の輸入を激増せしめたり。

大正三年

大正三年中本港外國貿易額は輸出貿易四百二十一萬六千三百九十四圓、輸入貿易一千三百萬六十八圓、合計一千七百二十一萬七千七百六十二圓にして八百七十八萬四千九百七十四圓の輸入超過を示せり。之を前年に比較するに輸出に於ては五十二萬九千二百二十四圓、輸出に於ては三百三十三萬五千五百三十八圓を何れも減少し、輸出入合計に於ては三百六十六萬四千七百六十二圓の減少を來せり。今年度に於ける貿易額を上下半期に分ち前年同半期と比較對照するに輸出貿易に於ては上半期七十五萬五千餘圓の減退を示せるに下半期は歐洲戰亂の影響を蒙れ

るに拘らず却つて二十二萬六千餘圓の増進を示したり。之れ本港輸出貿易品は主として對支貿易品なるを以て歐洲戰亂の輸出貿易に與へたる影響よりも比較の對照たる前年下半期貿易額が支那第二革命亂の影響を受け激減せしに因るが爲めなり。輸入貿易に於ては上半期百六十四萬餘圓、下半期百四十九萬餘圓を何れも減少したり。而して上半期の減少額より下半期の減少額小なる所以は又前述輸出貿易に於ける理由と同様なり。

更に各洲別貿易を見るに輸出貿易に於ては前年同期に比し各洲共減退を示し殊に歐洲戰亂の結果歐羅巴洲に對する減少率は五割二分六厘に達し、其他の諸洲(主として濠洲)亞米利加洲之に次ぎ亞細亞洲に對する減少率は六分四厘に過ぎず。香港に對する輸出の如き却て十六萬九千七百餘圓の増進を示せり。一方輸入貿易に於ても各洲共減少を示し就中亞細亞洲よりする三割二分六厘の減少率を第一とす。之れ佛領印度より輸入する米の激減によるなり。次は其他の諸洲(主として濠洲)の九分九厘、亞米利加洲の八分二厘の順位を示し、歐羅巴洲よりする二分六厘の減少率を最少とす。之れ上半期に於ける輸入が前年同期に比し著大なりし爲下半期に於て戰亂の影響ありしに拘はらず前記の減少率に止まれるなり。

又重要輸出入品中前年同期に比し消長の著しきものを見るに輸出増進の著しきものは綿織絲の三十萬九千二百餘圓、石炭の十七萬四百五十餘圓、罐詰及罐詰食物、椎茸、煎魚等之に次ぐ

一方輸出減少の品目に付て見るに錫の三十二萬六千餘圓、鮑殼の八萬五千餘圓、木炭、洋服、木材及板等あり。又輸入品中前年同期に比し増進の著しきものは海底電信、電話線の八十七萬五千餘圓を第一とし、縹綿の五十九萬九千餘圓、石油、豆類、獸骨等之に次ぐ。輸入減退の著しきものは米の三百五十一萬一千五百餘圓、諸機械の七十九萬四千餘圓、木材及板、粟、肥料油粕等順次に次ぐ。是に依つて之を觀るに本年度に於ける當港對外貿易は輸出に於ては廣東方面に於ける洪水の影響、紙幣の下落等に由り錫の輸出不況なりしに因り、殊に戰亂發生以來は香港の金融緊縮と對支爲替取組の圓滑ならざりし等の關係より更に激減を來し、輸入貿易に於ては内地豊作に伴ふ米價下落に因り米の輸入が前年に比し殆んど四分の一に減せし爲め前年空向の増進を示せるに比し減退の成績を告げたり。

大正四年

大正四年中當港外國貿易額は輸出四百六十三萬九千六百七十三圓、輸入七百八十二萬九千五百十八圓にして入超三百十八萬九千五百四十五圓なり。之を前年に比すれば輸出に於て四十二萬三千二百七十九圓を増加したれども輸入に於て六百十七萬一千八百五十圓を減じ、結局合計に於て四百七十四萬八千五百七十一圓の減退を示し、明治四十四年來の不況に陥りたり。

歐洲戰亂勃發以來歐洲向輸出品は影響を受けて振はずと雖亞細亞方面にありては對支貿易が

日貨排斥、第三革命動亂、見本採取問題等ありしに拘はらず反て好況を呈し一見奇異の感あり之れ一は歐洲戰亂の爲輸入品拂底し見越買ありたるご香港向綿織糸輸出激増せしによる。即ち同品の香港仕向高は二百七十一萬九千八百斤、此價額百一萬七千五百七十圓にして、之を前年に比すれば數量に於て二百三十三萬七千三百斤、金額に於て八十六萬一千七百四十五圓の増進あり最も注目に價す。更に各洲別貿易狀況を見るに輸出貿易に於ては前年度に比し亞米利加洲に二十一萬四千三百三十八圓即八割の減少を示し、歐羅巴洲に八割九分の減少を見るに至り、只亞細亞洲に一割七分五厘の増進をなせり。一方輸入貿易に於ては各洲共減少を示し歐洲の五割九分八厘減を第一とし、亞細亞洲の二割四分七厘之に次ぎ、亞米利加洲の一割九分を最少減とす。之れ佛領印度より米の輸入及支那の獸骨輸入激減の結果に外ならず。

又重要輸出入品中前年度に比し消長の著しきものを見るに輸出増進せるものは綿織糸百十七萬七千三百七十三圓あるのみにして輸出減退せるものは石炭の五十七萬六千六百三十圓、錫の六萬九千七百七十一圓、椎茸六萬九百三十一圓、木炭鍛等之に次ぐ。輸入品にありては増進せるもの殆どなく、チーク材あるも云ふに足らず。輸入減退せるものは米の百七萬六千八百五十二圓、諸機械八十九萬七千七百三十三圓、獸骨五十三萬八千七百八十四圓、石油、鐵板、鐵條等之に次ぐ。蓋し當年の輸出貿易は支那に於ける日貨排斥、革命動亂、當市貿易業者と支那

商との間に起れる見本採取問題等の爲海産物其他一般不況なりしに拘らず綿織糸好況の爲増進の結果を見るを得たるも輸入貿易にありては内地米價下落の爲外米及獸骨の激減と獨艦横行に依り造船材料未着の爲減退の餘儀なきに至れり。

大正五年

大正五年中當港外國貿易額は輸出九百九十三萬五千五百四十四圓、輸入一千四百十萬二千三百四十五圓、合計二千四百三萬七千八百五十九圓、之を前年に比すれば輸出に於て五百二十九萬五千八百四十一圓、輸入に於て六百二十七萬二千八百二十七圓を増進し、合計に於て殆ど前年の倍額に至たらんとせり。

更に之を各洲別に就きて點檢せんか即ち次の如きものあり。

○大正五年長崎港外國貿易洲別比較表

洲別貿易額	輸		入	
	大正五年	大正四年	大正五年	大正四年
亞細亞洲	五,四九,九二一	四,四四,〇七二	四,〇〇,〇八〇	四,三三,一七五
歐羅巴洲	四,三三,〇〇八	三,三三,六五七	三,三三,六五七	二,一三,八八六
亞米利加洲	一,一三,〇三三	一〇〇,二八八	六,〇八,八八七	一,三〇,〇二七
其他諸洲	一五八,二七二	七,六六五	四,一〇,一〇五	一三,六四〇
合計	九,九三,五三二	四,六九,六六三	一四,一四,一五五	七,八〇,五二一

大別右の如きが中對亞細亞貿易の前年に比し輸出に於て約百四萬八千九百圓、輸入に於て二十八萬九千餘圓の増加を見たるは昨年に引續き歐洲戰亂の好影響として對支那輸出額に二百四十七萬餘圓之を前年に比して五十九萬五千餘圓を増加したるを以て主因とすべく、輸入貿易に於ては英領印度よりの輸入額一千五百九十萬餘圓、之を前年に比し約六十萬三千圓を増加したるは其主因をなすものなるべし。更に歐洲に向つては對英國輸出額に於て三十二萬三千餘圓、對露西亞輸出額に於て約十三萬六千圓、其他諸國への輸出額に於て三百五十萬九千餘圓を増加し、英國よりの輸入額に於て百二十九萬餘圓の増加を見たるに由る。蓋之れ戰亂の結果より來る好況なること勿論なりと雖も、一は前年度に於て船腹不足、航海不安の爲め逼迫せし海運界の復舊せるが爲め前年に於けると當年に於けると其比較すべき數字に著しく徑庭ありしにも由るべく、他は貿易品價昂騰し爲めに數字の膨脹を示せるも亦一因たらずんばあらず。

大正六年

大正六年中長崎港外國貿易額は輸出一千九百七十八萬三千七百二十六圓、輸入一千二百三十八萬三千七百四十三圓、合計三千二百六十六萬七千四百六十九圓、輸出の輸入額を超過すること實に七百三十九萬九千九百八十三圓、斯くの如きの盛況は長崎開港以來未だ曾て其比を見ざる所にして、之を前年に比すれば輸入に於て百七十一萬八千六百二圓を減じたりと雖も、輸出に

於て九百八十四萬八千二百十二圓を増加し、結局合計に於て八百十二萬九千六百十圓の増進を告げ、之を大正二年に比すれば、合計に於て一千二百二十八萬四千九百四十五圓を増し、若し悲況時代の 大正四年に比せんか實に二倍半強の増加(増額一千九百六十九萬八千二百七十八圓)なり。輸出入別比較左の如し。

○大正六年長崎港外國貿易別比較表

貿易別	輸出		輸入	
	大正六年	大正五年	大正六年	大正五年
亞細亞洲	一五、四九、三〇三	五、四九、九二二	七、四〇、八九四	四、六〇、八二二
歐羅巴洲	三、九三、五七九	四、一五、三〇八	一、六、六九七	三、三四、六七
亞米利加洲	三三、六八四	一三、〇三三	三、三三、三三四	六、〇六、八七三
濠太利洲	三、八、三五〇	一、三六、三三九	四、三、七	六、〇〇九
其他諸洲	三、八二一	二、〇〇二	五、三、五	三、七、〇〇六
合計	一九、七三、七六六	九、九三、五三四	二二、三三、七三三	一四、〇三、三三五

大別右の如く、中亞細亞洲に對しては輸出に於て前年に比し九百八十五萬七千餘圓を増加し殆ど約三倍なり輸入に於て又約一割五歩を増し二百八十萬圓を増加せり就中香港への輸出八百餘萬圓、前年に比し四倍以上に及ぶ。次で増加せるものは英領海峽殖民地への前年に比し三倍

支那への同約五割増なり。輸入に於ては關東州を第一とし英領印度及支那之に亞ぐ。

歐羅巴及亞米利加との貿易は平時を以てすべからず、只輸出に於て英吉利に對し約六倍露西亞に對して約九倍、亞米利加に對して倍額の増加を見たれども其他に對しては殆ど杜絶せられ輸入に於ては各其禁輸令により英、米何れも半減し輸出入共に減退したり。然れども茲に特記すべきは對濠貿易にして戦後益好況、輸出額前年に比し殆ど倍額に及び將來の開拓又刮目に値す。(次項参照)。

左に最近五ヶ年間本港對外貿易の消長を表示すべし。

○最近五ヶ年間長崎港外國貿易消長比較表

年次比較	輸出		輸入		超過額
	輸出額	前年ニ比シ増減	輸入額	前年ニ比シ増減	
大正二年	四、七五、六八	(七) 五二、二四	一六、三六、九六	(十) 三、三、二五	入超 二、元、二八
大正三年	四、三六、三九	(一) 五九、三三	一三、〇〇、三六	(一) 三、三、五八	同 八、六四、九七
大正四年	四、六九、六三	(十) 四三、二七	七、八九、五八	(一) 六、一七、八〇	同 一、三、一八
大正五年	九、三三、五二	(十) 五、二五、八四	一四、一〇、三四	(十) 六、二七、八七	同 四、一六、八三
大正六年	一九、七三、七六	(十) 九、八八、三三	二二、三三、七三	(一) 一、七八、六三	出超 七、三九、九八

其二 通商國別狀況

最近五ヶ年間當港外國貿易の狀況叙上の如し。而して之を各洲別に見れば亞細亞洲に對する貿易は常に全額の過半を占め殊に輸出に於て其大部分を占む。其割合を示せば左の如し。

年次	對亞細亞洲輸出ノ總輸出ニ對スル割合	對亞細亞洲輸入ノ總輸入ニ對スル割合	同輸出入合計ノ總合計ニ對スル割合
大正二年	・八五三	・五三七	・六一九
大正三年	・八九九	・四九六	・五九九
大正四年	・六五八	・五五五	・七〇四
大正五年	・五五三	・三三八	・四二二
大正六年	・七七六	・六〇〇	・七〇五

即ち當港貿易の大部分は東洋貿易にあることを知るべし。更に之を通商國別に就きて觀察せん。

一、支那

對支貿易は本港外國貿易の最重要部たり。其消長は直ちに當港の盛衰を左右す。即ち別に一卷を割いて之が研究に充つる所以なり。乞ふ「長崎對支貿易最近二十五年紀要、附長崎對支貿易沿革」を參照せよ。

二、關・東・州

關東州貿易に關しても亦前記書目中に之を記述し置きたれども、尙ほ其概要を謂はんには、元來本貿易は日露戰爭の結東、露國及支那との條約により本邦勢力の支配下に委ねられたるは事人の知る所の如し。されば貿易統計上に於て獨立の一項目をなしたるは明治四十年以降の事に屬し聊か政治的關係を異にするものありと雖も、又對支貿易の一部と見る甚だ不可なきなり。

之を當港貿易の立場より云へば、關東州は大豆粕、獸骨の最大産地として重要な地位にあり、之等諸品の輸入増減は直ちに本港輸入貿易に影響を及ぼす事尠からず。されば輸出貿易としては關東州仕向のもの其計數甚だ少額にして、明治四十年の四十四萬四千五百九十五圓及同の四十四萬五千三百九十四圓を最高とし、爾後漸次振はず大正二年には八萬四千二百八十四圓五十三圓、同三年には六萬七千六百二十九圓てふ少額を記録し、最近五ヶ年中最も盛況なりし大正五年に於てさへ僅かに十七萬七千七百二十二圓を算するに過ぎず。

輸入にありては明治四十年來漸次増加し、大正六年の如き百五十七萬四千二百二十七圓を算したり。而して其輸入は油糟を第一とし、獸骨第二位にあり、豆類、粟又之に次ぐ、即ち左の如し。(別篇「長崎に於ける肥料及獸骨」及「長崎に於ける米麥及雜穀」參照)

○最近五ヶ年間長崎港對關東州輸入貿易主要品別價額表

品別	大正六年	大正五年	大正四年	大正三年	大正二年
油	1,177,930	693,100	670,970	633,600	715,550
糖	5,767	6,666	65,896	177,556	104,011
豆類	20,899	37,137	150,033	278,451	57,942
粟類		1	15,033	278,451	57,942
其他	328,958	19,666	3,333	37,070	25,099
合計	1,570,377	931,566	655,903	1,151,155	1,084,354

三、香 港

香港貿易は最近輸入に於て重きをなされども、輸出に於ては對支貿易と相匹敵し、殊に大正四年以降の輸出貿易にありては常に對支輸出額に超過し、別して大正六年の如きは其輸出八百二十四萬七千六百六十圓てふ未曾有の記録を示したり。

蓋し之世界戦亂の變調より一に本邦商品の供給に俟つもの多かりしによるものにして、此景況を將來に持續し、益其販路を確實ならしむるは當港發展上最も緊要の事に屬す。輸出品として重要なるものは海産物殊に鰻なるが大正四年以降は綿織糸の輸出常に第一位を占め大正四、

五年に於て共に百萬圓を超過し、大正六年に於ては二百七十八萬九千九百斤、二百七萬五千七百六十九圓の巨額を算し、前年に比するも百一萬六千六百二十九圓を増加し、之を對支輸出の二十八萬三千六百十圓に對比せんか殆ど七倍半に達するの盛況を極めたり。最近五ヶ年間に於ける輸出成績を見るに左の如し。

○最近五ヶ年間長崎港對香港輸出貿易主要品價額別表

品別	大正六年	大正五年	大正四年	大正三年	大正二年
綿織糸	2,055,769	1,099,100	1,107,750	1,550,650	962,600
鮑	74,599	59,647	56,600	64,870	62,600
鮑殼	131,833	17,000	137,750	30,977	33,337
蝦	33,170	33,333	33,565	41,068	37,311
椎茸	92,068	33,333	33,565	75,779	67,693
石炭	25,230	19,666	66,777	300,443	74,000
其他	5,366,628	34,130	23,955	28,443	191,688
合計	8,477,600	1,971,066	2,100,810	1,577,335	1,327,999

(備考) 大正六年輸出其他の諸品には煎魚二一、〇三八圓、淡菜四六、〇八六圓、乾貝七〇、〇五四圓、番薯一〇、二一〇三圓、鮑罐詰五〇、六七一圓等を含む。

長崎港概観
四、英領印度。

英領印度に對しては輸出に於て甚だ振はず、最近五ヶ年中多きも十一萬四千餘圓(大正六年)少きは五千餘圓(大正三年)に過ぎざる事すらあり但し輸入に於ては比年漸く多きを加へ大正二年に十二萬八千餘圓なりしもの、大正三年には一躍七十萬六千餘圓、大正四年には九十八萬七千餘圓となり、大正五年には更に百九十七萬餘圓を算し、大正六年に至りては二百九十二萬餘圓の巨額に上れり。蓋し此増額は一に印度線綿の輸入に基くものにして只大正元年、二年、三年に於て油糟の輸入を見たる事あり。即ち左の如し。

○最近五ヶ年間長崎港對英領印度輸入主要品別價額表

年次	線綿	棉	油	糟
大正二年	210,400圓	3,391,225圓	24,200圓	7,735圓
大正三年	3,841圓	925,921圓	13,700圓	5,550圓
大正四年	48,574圓	1,533,550圓	1,100圓	1,100圓
大正五年	55,433圓	2,910,411圓	1,100圓	1,100圓
大正六年	55,433圓	2,910,411圓	1,100圓	1,100圓

茲に線綿と稱するは云ふ迄もなく印度産綿にして *Gossypium herbaceum* より得たる棉花なり。

産地により品位を異にすれども概して纖維短く品質一般に米綿に劣れり。然かも斯くの如き輸入の激増を見たりしは米綿輸出禁止の爲め其代用として之を仰ぎたるものにして、戦後此景況を持続し得べきや否や甚だ疑問なり。

五、英領海峽殖民地

従來英領海峽殖民地と當港との關係は輸出に石炭あり、輸入に錫塊及錫錠ありしかども戦亂の結果船腹全く欠乏し、大正二年石炭七萬二千餘圓、同三年九萬七千餘圓、同四年三萬餘圓の輸出を見たれども大正五年以來全然輸出なく、輸入も亦大正二年の十四萬二千餘圓より大正四年の二萬餘圓に減じ、大正五年皆無にて、大正六年一萬八千餘圓を輸入したるに過ぎず。只同年は輸出に於て異常の數字を現し二百八十一萬五千餘圓を算したれども、之戦時歐米品供給不足の結果一時本邦品の需要を喚起したる爲めにして塵紙、雜貨等の輸出其主要なるものなり。

六、露領亞細亞(主として浦鹽)

露領亞細亞と稱するも當港との關係は主として對浦鹽貿易に係はるものなるが、前節既に述べたるが如く日露戦後漸く萎微して振はず、最近五ヶ年中輸出入合計の最高を示す大正四年に於てすら十六萬三千餘圓を記録したるに過ぎず。輸向好況なりし大正六年に於ても尙且其額十五萬八千餘圓に止まる。輸出品目より見るも米、蔬菜、果實、醬油、塵紙等の若干のみ。復昔

日の殷盛を再びする事困難なるべし。

七、比律賓諸島

比律賓諸島に對し歐洲大亂後著しく當港輸出の増進を見たるは稍々注目し値すべく、或は開拓の餘地尙將來の努力に俟つものあらざるか。之を統計に徴するに大正二年輸出十萬四千餘圓同三年十四萬八千餘圓同四年十八萬五千圓なりしもの同五年には五十九萬七千餘圓を示し、同六年には八十六萬七千餘圓を算したり。而して其主要輸出品としては指を蕃薯及セメントの二品に屈せざるを得ず。即ち左の如し。

○最近五ヶ年間長崎港對比律賓輸出貿易主要品別價額表

年次	蕃薯	セメント
大正二年	三、四四五、六三	四、五九七
大正三年	三、五三三、七五	四、三二七
大正四年	三、〇九四、九五	二、八二一、八三
大正五年	四、〇二六、八〇	六、八三三、六六
大正六年	四、三七一、八九	二、三三三、四六

八、佛領印度及暹羅

佛領印度及暹羅と當港との關係は主として米穀輸入の點にあり。近年内地産米不足を告げ米價狂奔甚しきものあり之が調節の一策として暫々外米の移入を行ひ、之を西貢、暹羅等に仰ぎたり。即ち左の如きものあり。(別篇「長崎に於ける米麥及雜穀」參照)

○最近五ヶ年間長崎港外米輸入高表

年次	佛領印度ヨリ (西貢米)	暹羅ヨリ
大正二年	八三三、五五〇	四、四四四
大正三年	二四〇、五七五	三、四三三
大正四年	四二二、二八	六、〇五四
大正五年	四六、四一九	二
大正六年	七、〇三三	三

尙暹羅よりはチーキ材の輸入あり多きは七萬乃至九萬圓を算す。尤も近來船腹不足の關係上輸入を見る事極めて稀なり。

歐洲中本港との主要なる通商國は英、獨、佛、白、露等なり。就中英國最も顯著にして當港輸入の第一位に居る。

一、英・吉・利

當港對英貿易の最近五ヶ年間成績を見るに大正二年四百六十四萬六千四百九十五圓、内輸入四百五十萬九千四百四十七圓、輸出十三萬七千四百八十八圓なり。大正三年稍減じて輸入四百五十萬五千餘圓となり。大正四年成績最も上らず僅かに輸入百九十二萬一千八百一十一圓、輸出五千七百四十三圓、合計百九十三萬一千二十四圓を示したり。之全輸出禁止と及戰時船舶欠乏の爲めに外ならず。大正五年稍恢復して輸入三百二十一萬四千三百二十七圓、輸出四十三萬三千二百十七圓、合計三百六十四萬七千五百四十四圓を算したれども、大正六年再び輸入減少して百六十一萬三千百十圓と減退し、只輸出に二百八十八萬三千六百三十三圓の盛況を見し爲め合計に於ては四百四十萬六千七百四十三圓を記録するを得たり。最近五ヶ年間主要輸入品別成績を擧ぐれば次の如し。

○最近五ヶ年間長崎港對英國輸入貿易主要品別價額表

品別	大正六年	大正五年	大正四年	大正三年	大正二年
硫酸アンモニヤ(粗製)	10,140			9,970	15,560
石炭			303,450	7,633	9,310
鐵塊及錠	6,679	18,377	15,269	310,733	26,455

鐵條竿、テーパー 形類	鐵板	鐵筒及管	機械類	絶緣電線(海底及地下用)
40,277	185,333	19,577	43,437	
6,543	78,009	30,224	208,666	1,294,599
18,304	37,947	5,574	23,693	296,159
3,966	59,333	17,444	99,976	66,489
3,714	89,018	205,246	1,339,633	51,400

二、佛・蘭・西

歐洲戰亂以來其取引見るべきものなしと雖も尙大正二年の如きは輸入に六萬八千八百餘圓を示し、大正五年の如きは輸出に六萬九千八百餘圓を算したり。

三、獨逸

獨逸との取引は大正二年五十七萬九千餘圓、内輸入五十三萬餘圓、輸出四萬九千餘圓、大正三年に六十萬八千餘圓、内輸入に五十六萬二千餘圓、輸出に四萬五千餘圓を示したれども以後殆ど擧ぐべきなし。輸入品としては鐵條竿、テーパー形類、鐵板及機械類を主とし、大正二年は機械類のみにて二十六萬五千八百餘圓を算したり。

四、白耳義

白耳義との關係も主として輸入貿易にして其品種は硝子薄板、鐵條竿、テーパー形類

鐵板等なり。大正二年輸入四十八萬七千餘圓、大正三年には同七十五萬三千圓を算し、兎に角英國に次ぐの貿易額なりしが彼の戰渦の爲め遂に統計表上にも亦甚だ悲しむべき現象を現はすに至れり。

五、露・西・亞

露西亞本國との取引も亦昔時の盛況を再びする能はず只大正六年に於て輸出十一萬一千餘圓てふ近年稀有なる成績を示したるも、素より戰時の一時的現象に過ぎざるべし。

北米合衆國

亞米利加洲に對しては只北米合衆國を主とし、其他英領各地には極めて少額の取引あるのみ。北米合衆國との關係も亦輸入貿易を主とし、其品種は石油、綵綿、機械類、木材及板等なり即ち左の如し。

○最近五ヶ年間長崎港對米國輸入貿易主要品別價額表

品別	大正六年	大正五年	大正四年	大正三年	大正二年
石油	七七,九七五	七七,〇〇五	六三,五五四	八〇,九〇四	五〇,〇四八
綵綿	二一〇,〇〇六	二〇一,八六一	三六四,二四三	六九,五五七	七三,八二七

機械類	一九一五年	一九一四年	一九一三年	一九一二年
木材及板	一七,〇四四	一七,〇〇五	二八,九〇九	七七,〇六七
	一一九,四〇〇	五八,八五五	八二,六六六	二七,四七六
				一八,二五九

濠・太・刺・利

濠洲に對しては近來セメント板紙等の輸出あり、大正四年輸出額五萬七千圓なりしもの同五年には十三萬六千圓、同六年には二十四萬八千圓を算し、内大正五年にはセメントの輸出二萬三千圓あり、大正六年には板紙の輸出四萬五千圓を示したり。尙將來發展の餘地あるべし。

第二項 特別貿易狀況

茲に特別貿易とは輸出にありては當港に入港する外國商船並に外國軍艦、軍用船、外國航行内國船の需用品を云ひ、輸入にありては兵器彈藥及爆發物、外國大使、公使等の自用品並に朝鮮、關東州、露領亞細亞其他諸國に出漁せる本邦漁民の捕獲採集して輸入したる水産漁獲物等即ち關稅定率法第七條中に掲げられたるもの（輸入稅免除の特例）を含み共に稅關に於ける取扱上普通輸出入品と區別したるものを指す、今最近五ヶ年間當港特別貿易價額を示せば次の如し。

○最近五ヶ年間長崎港特別貿易價額表

種別	大正六年	大正五年	大正四年	大正三年	大正二年
輸出	六、八三、六四四	四〇八七、五四六	三、六四、八四六	四、五四七、九四三	五、〇〇一、九四三
外國艦船用品	四、〇四二、七四四	二、三六〇、六九〇	二、二五、四五九	三、〇八二、七九〇	三、四九四、四四六
外國航行内國船用	二、七九〇、九〇〇	一、七六六、八五六	一、五〇九、三三七	一、四六五、二五三	一、五〇七、四九七
輸入	一、三二七、二一九	二、五八、七〇九	三、五〇〇、三〇三	七、四三三、九〇〇	八、四八、六二八
兵器彈藥及爆發物	—	—	四、二六四	三、六四九	二、七、三三七
礦油	一、〇六四、五八八	—	—	—	三、〇、七〇九
軍艦	—	—	—	—	一九、九〇八
外國公館用品	一、六一五	四、五〇〇	二、九三	四、六六七	一、一、四四五
出漁船漁獲物	二、五二、三六六	二、五八、二五九	三、〇、九〇〇	四、三、七六四	二、八九、三三九
輸出入合計	八、一五〇、七三三	四、三三六、二五五	三、九五〇、三〇三	五、二九一、八四三	五、八五〇、五七一

一、特別輸出品

特別輸出品中最も重なるものは艦船需要品にして即ち外國貿易船並に外國軍艦軍用船の需要に係るものとす。而して其大部分は石炭にして他は飲料水、米、鳥獸肉、生魚、蔬菜、果實、酒、礦水等の食料品及油蠟類、金屬及同製品、船具等の雜品なり。左に其内譯を示す。尙石炭

に就ては別篇「長崎港に於ける石炭の集散」参照の事。

○最近五ヶ年間長崎港船用品特別輸出價額表

種別	大正六年	大正五年	大正四年	大正三年	大正二年
外國船船用	四、〇四二、七四四	二、三六〇、六九〇	二、二五、四五九	三、〇八二、七九〇	三、四九四、四四六
石炭	三、六八七、二三五	二、八四一、二三八	一、九六六、四二八	二、八四六、〇七四	三、三六二、五三三
食料品	一、八九、五二四	七五、八〇一	九八、五二七	七五、六七五	五、七、七五七
其他諸品	一、六九、九九五	一〇〇、七五二	一一〇、五三四	一、六、〇四二	七五、一八六
外國及朝鮮航行日本船用	二、七九〇、九〇〇	一、七六六、八五六	一、五〇九、三三七	一、四六五、二五三	一、五〇七、四九七
石炭	二、五八、七〇九	一、五〇三、三〇八	一、四八八、三三〇	一、三六、二六三	一、三、七、四二五
食料品	二、七九、二六六	一、四三、二三三	一、三三、六六一	八七、二九七	六九、三、三三四
其他諸品	五、六、九七七	八二、三三六	四七、三六六	五、五、五九三	五〇、七、七八
合計	六、八三、六四四	四、〇八七、五四六	三、六四、八四六	四、五四七、九四三	五、〇〇一、九四三

二、特別輸入品

特別輸入品中特に主要なるものは朝鮮海、關東州沿岸、露領沿海州地方に出漁せるもの、捕獲物にして、明治四十二年來兵器彈藥及爆發藥も亦多きは三十一萬六千餘圓(大正三年)を算したる事あり。水産漁獲物は朝鮮沿海よりするも最も多く大正三年の如き四十一萬四千八百餘圓に

及べり。今其輸入地方別を見んか次の如し。

○最近五ヶ年長崎港水産漁獲物特別輸入地方別表

年次	朝鮮	露領亞細亞	其他諸國	合計
大正二年	二八〇,七四六	一,四三七	七,〇四四	二八九,三九
大正三年	四二四,八八五	三,九九七	三,九〇三	四三二,七八
大正四年	三二七,〇二九	九八三	二,八八八	三三〇,九〇〇
大正五年	二六六,九〇〇	八六二	一〇,四九八	二八八,二九九
大正六年	一四九,八五四	—	二,五二二	一五二,三六六

而して其輸入品の主なるものは乾魚及煎魚を第一とし海參之に亞ぎ其他鹹魚、生魚、鰯等あり、即ち左の如し。

○最近五ヶ年間長崎港特別輸入水産漁獲物主要品別價額表

品別	大正六年	大正五年	大正四年	大正三年	大正二年
乾魚及煎魚	八八,六三	九二,四九九	一五四,二四三	三三〇,六四五	一七〇,一七九
海參	五〇,一七九	九五,一九四	八〇,七六六	六八,四四八	三九,六六〇
鰯	二,六〇〇	一,八七四	三,一六四	七,一六	三,三七〇

第三項 仲繼貿易狀況

當港は其位地及交通の狀態により自ら東亞諸港に對する貿易の仲繼港たるに好適の地位あり。而して其經路を見るに大凡左の五種あり。

- 一、歐洲より來る貨物を東洋諸國に仲繼するもの
- 二、米國より來る貨物を東洋諸國に仲繼するもの
- 三、東洋方面より歐洲方面へ仲繼するもの
- 四、東洋諸國相互間の仲繼をなすもの
- 五、東洋と濠洲及比律賓諸島との仲繼をなすもの

由來仲繼貿易の盛衰は港灣の地位及設備の完否、貨物の性質、航路及船線の都合、勞銀の高低生産地及需要地の地理的並に經濟的關係如何等によりて決すべきものなり。

合計	鹹魚	其他ノ食物	其他ノ雜品
三三三,三六六	五〇三	一〇八,六五五	一,六六八
二五八,二五九	四六五	六七,二〇四	二,〇三三
三〇〇,九〇〇	二,七〇三	八〇,〇六六	—
四三三,七八四	六,九九五	一一九,五七八	—
二八九,三九九	五八八	七七,五二八	九八四

今長崎港最近十ヶ年間外國仲繼貿易の消長を表示すれば左の如し。

○最近五ヶ年間長崎港外國仲繼貿易價額表

年次	貨物	金銀貨同 及兌換券	合計
明治四十一年	四,三六四,二〇四	三,七二八,八四三	四,七五七,〇四七
明治四十二年	三,三六一,三三六	三,五二八,八四四	三,八六〇,一八〇
明治四十三年	四,三三三,〇九八	三,九〇二,二九六	四,七〇三,三九四
明治四十四年	七,〇八八,四二〇	一,〇〇,六六〇	七,〇九九,〇八〇
大正元年	六,〇六三,九七三	二八,〇〇五	六,〇九一,九七八
大正二年	四,五〇一,二六〇	一〇,三三〇	四,五九〇,三九〇
大正三年	二,六八八,五〇三	二,六五八,八二二	二,九五四,三二四
大正四年	二,一四一,六九九	九三〇	二,一四二,五四四
大正五年	一,二六九,二五九	一六,九三二	一,二八六,一九〇
大正六年	七六九,四三三	—	七六九,四三三

更に之が品別に就て見んか即ち左の如きものあり。

○最近五ヶ年間長崎港外國仲繼貿易主要品別價額表

品別	大正六年	大正五年	大正四年	大正三年	大正二年
米及穀類	二九,七三三	一八,九七四	三,三九元	三,八二二	三,七四八
豆類	三,四八二	三,七二〇	四,三三三	三,三三三	一〇〇,四五九
麥粉類	六〇八	二,六六六	一,六〇〇	四,四二二	五,三三三
砂糖類	九一〇	九三三	一,四一〇	一,八九六	二,一九一
酒類	二,三三三	九,八二二	六,四二二	二,五七〇	一,八三七
其他ノ飲食物	三九八,七〇二	四三九,六三三	五七三,〇五二	七六八,一八三	一,八三七,〇〇〇
皮革及同製品	三六,七三三	三,三三三	三,七七六	一,一〇〇	六,七七三
油類及同製品	一,五九五	六,六六五	七,八〇五	二八,九三三	一〇,五五六
藥材化學藥品	三三,三三三	三,七二二	六,六六五	七,九三三	四,九三三
藥製物	一四,二二八	五〇,三〇〇	三,四四五	七,五八二	一,三三三,八三三
綿織物	—	—	—	—	—
麻織物	二八	—	—	—	—
毛織物	—	—	—	—	—
衣類及附屬品	一,六六五	七,〇八五	九,〇〇〇	一,九七四	三,三三三
紙類	四,〇六六	一〇,三三三	二,七〇〇	一,五八〇	二,七三三
陶磁器及硝子類	三三,一九七	三三,四九九	六,七〇〇	七,三三三	一〇,七三三
鐵其他ノ金屬	五,五五八	一三,七五五	三,九〇〇	七,三三三	一〇,七三三
其他ノ金類	五,四七三	六〇,二八二	一〇,三三三	二,五八〇	一〇,七三三
機械類	一六,一四四	四六,三三三	九,七三三	二六,九三三	六九,二七六
其他ノ雜品	五七,八二六	四〇,六六五	五九,六〇八	四八,〇二二	七五,三三三
合計	六九,四三三	一,二六九,二五九	二,一四一,六九九	二,六八八,四三三	四,五〇一,二六〇

第四項 朝鮮貿易状況

明治四十三年八月二十二日日韓併合の條約締結せられ同二十九日を以て韓國全部に關する一切の統治權は完全且つ永久に日本皇帝陛下に讓與せられたり。即ち韓國は茲に朝鮮と改められ我が帝國の一版圖として外國貿易表中より其貿易統計を控除し、別に朝鮮移出入貿易の一項を掲出するに至れり。

朝鮮併合前に於ける長崎港との貿易關係は既に本章第一節及第二節に記述したり。以下明治四十三年以降の狀況を記して以て其現況を究むべし。

先づ最近八ヶ年間當港對朝鮮貿易の成績を示す。

○最近八ヶ年間長崎港對朝鮮貿易價額表

年次	移 出	移 入	合 計
明治四十三年	九三、二六九	九八、八七八	一八二、一四七
明治四十四年	二六、六一	三五、〇七四	六一、六八五
大正元年	三六、五九三	三二、四八六	六九、〇七九
大正二年	三四、四一八	三三、五〇〇	六七、九一八
大正三年	二五、二九五	四六、二二五	七一、四二〇

大正四年	大正五年	大正六年
三四、五九八	五八〇、九三三	一、三三七、五八六
一、〇一一、一七〇	二九四、四九九	二〇〇、六八八
一、三四、六六八	八七五、五九二	一、四八、二〇四

之を貿易額に見るに明治四十三年の十八萬五千餘圓より翌四十四年には一躍六十二萬二千餘圓に増進し爾後漸増の成績を示す。殊に大正六年の如きは之を明治四十三年に比すれば殆ど八倍に及べり。然れども之を他の外國貿易額に比すれば僅かに九割若くは十割に居るのみ。蓋し之地理的關係上門司其他の諸港に壓側せられたるが爲めなり。

一、移 出

移出に於ては大正三年を除く外概して漸増の傾向あり。大正六年には一躍百三十二萬七千餘圓を算し大正五年の五十八萬餘圓に比するも殆ど倍額を示せり。其主要移出品を見るに左の如し。

○最近五ヶ年間長崎港對朝鮮主要移出品別價額表

品 別	大正六年	大正五年	大正四年	大正三年	大正二年
米	四、三三四	六、八六六	一六、〇四三	九、七五四	一〇、六八七

品別	大正六年	大正五年	大正四年	大正三年	大正二年
鮮魚	一、〇四〇	四、四九七	四、三七七	三、四九九	七、五八八
密柑	三、五九四	五、七二〇	七、九一四	二、四八一	一三、七三六
其他ノ蔬菜	二、八三四	一六、八二六	一九、六五四	二八、三七五	三三、四九二
醬油	四、九七八	三、八三九	三、一五一	一、七四〇	三、九二七
諸綿布	一、三三三	二八、四八七	五八、一三三	六三、四五三	五六、六八二
石炭	三、八九五	六、七三六	五、六六四	一六、五〇九	九、二八九
セメント	三、六四二	五、四七三	七、一五七	三、七四八	四三、三二八
屑鐵及故鐵	二、四三〇	六、〇五三	三、二七五	一、六二三	一一、五〇七
木材及經木	三、四四七	五、七三二	二、六七八	二、五二五	七、九五八
其他ノ諸品	一、〇五五、二〇一	三、七四、七五三	一、四六、五七八	一〇一、五五七	一、五、六六四
合計	一、三三七、五八六	五八〇、九三三	三、四三、五九八	二、七五、二九五	三、四、四一八

二、移入

移入に於ては大正四年の百一萬餘圓を最高とし、爾後著しく不振に陥り殊に大正六年の如きは十二萬圓てふ少額を示すに過ぎず。其主要移入品を見るに左の如し。

○最近五ヶ年間長崎港對朝鮮主要移入品價額表

品別	大正六年	大正五年	大正四年	大正三年	大正二年
米類	三、四、四三七	一、七八、九八八	八、八、四九七	一、七、三七五	三、三、四三四
豆類	三、八、四三八	六、五、九八〇	一、四、二、五〇四	一、七、七、五五一	二、三、一、六〇七
獸脂	七、七、八一	一、七、五、九九五	一、四、九、七五四	三、一、一、五五〇	一、五、一、六八八
獸骨	一、七、九、九七	一、七、三、三三	一、五、二、四二	一、四、八、七四	一、五、六、四〇
其他ノ肥料	四、四、二一	一、一、三、三	二、三、九三	九、三、〇三	一、五、〇、一七
其他ノ雜品	一、七、五、四八	一、三、四、四	一、七、三、六二	二、三、八、八〇	四、三、一、三三
合計	二、〇、六、三三	二、九、四、四九九	一、〇、一、一、二〇	四、六、一、三三	三、五、五、五五〇

三、仲繼貿易

長崎港朝鮮間仲繼貿易としては其額甚だ多からず、其品別より見れば移出に於て綿織物、陶磁器、硝子器等を數ふべく、移入に於ては飲食物最も多きに居る。最近五ヶ年間仲繼貿易額左の如し。

○最近五ヶ年間長崎港對朝鮮仲繼貿易價額表

年次	移出	移入	合計
大正二年	三、二、六、四七四	三、三、五、九三	三、三、三、八〇三

長崎港概観

八〇

大正三年	一、五八、五九六	九七、五九六	一、六六、三三三
大正四年	三六八、八五二	五三、八八五	四二、七三六
大正五年	二四九、四四三	六一、七四四	三二、二七七
大正六年	一〇〇、二八七	八五、三九五	二八、六六二

追記

大正七年長崎港貿易成績

一、總況

歐洲戰亂の圏外にありて寧ろ其好影響を蒙り、貿易上未曾有の盛況を記録したる大正六年に引續き大正七年は年初更に飛躍の勢運を示したりしが、同年十一月十一日對獨休戰條約の調印を區劃として、茲に戰時貿易狀態の一段落を見るに至れり。今當年中に於ける長崎港の貿易成績を検するに凡そ次の如し。

外國貿易	大正七年	大正六年	比較増減
輸出額	三八、八〇九、三三三	三三、二七、四九四	(+) 六、六四一、七三九
輸入額	一四、四六、〇九	一九、九三、七六	(-) 五、四七、六七
輸出額	三三、四四三、三三三	三三、三三、七四三	(+) 一一、一〇九、五九〇

特別貿易	九、二五六、一〇七	八、一五、七三三	(+) 一、一〇〇、三三四
輸出額	八、六三三、〇三三	六、八三三、六四四	(+) 一、八〇九、三七九
輸入額	五〇九、〇七四	一、三二七、一一九	(-) 八、四〇三
仲繼貿易	七五、二六六	七九、四四二	(-) 四、一七六
外國仲繼額	五四二、〇六七	五〇三、七〇七	(+) 三八、二九七
朝鮮仲繼額	一、九三、二一九	二、八五、六六二	(-) 九、四三三
朝鮮貿易	五、三七〇、〇三三	一、四四八、二〇四	(+) 三、九二一、八二八
移出額	四、七六四、五六一	一、三三七、五九六	(+) 三、四二六、九六五
移入額	六〇五、四七一	三〇、六二八	(+) 四、四四、八三三
總計	五四、〇〇、六五七	四三、五五、八八八	(+) 一〇、四四、七六九

即ち之を通観すれば大正七年貿易總額は五千四百七十六萬五千七百七十七圓にして前年に比し一千八百五十一萬四千七百六十九圓の増進を示し居れり。其内譯に就て云へば、外國貿易額合計三千八百八十萬九千二百四十二圓にして之を前年に比すれば六百六十四萬一千七百七十三圓の増加なり。但し輸出、輸入に於て前年と全く反對の現象を呈し、即ち輸出に於て前年よりも五百三十一萬四千八百十七圓を減じたりしが、輸入に於ては殆ど前年の倍額、二千九百九十五萬六千五百十圓の激増を來し、従つて前年には輸出超過七百三十九萬九千九百八十三圓を算したるに、當

年は又再び入超となり、輸入の輸出を超過すること九百八十七萬一千四百二十四圓に及びたり。以下更に各種貿易の内容を究めん。

二、外國貿易

一、輸出狀況

當年長崎港の輸出貿易が前年に比し五百三十一萬四千八百十七圓の減額を示したるは前年輸出中に約一千萬圓てふ汽船の臨時輸出を計上しあるが爲めにして、事實に於ては決して其輸出景況を萎縮したるものにあらず。寧ろ益前來の盛況を持續し殊に上半期に於ては前年上半期輸出額の七百三十五萬二千十圓に對し九百五十萬二千二百一十一圓を算し、即ち二百十五萬二千一百圓を増加し居れり。下半期に於ては統計上大正六年同期が一千二百四十三萬一千七百十六圓を示したるに對し七年同期四百九十六萬六千六百九十八圓を示すに過ぎざれども、前年下半期の一千二百餘萬圓中より前に述べたる汽船の臨時輸出額約一千萬を控除せんか七年下半期に於ては前年同期の倍額に達し居るを知るべし。

輸出の狀況夫れ斯くの如し。而して之を更に通商國別に就きて點檢せんか亞細亞洲諸國に對しては前年に比し百九十四萬二千五百八十三圓を減じたり、之主として香港輸出貿易不振なりしに由る。歐羅巴洲諸國に對しても亦著しき減額を示し前年三百九十三萬五百七十九圓なりし

もの當年は僅かに四十四萬六千五百五十七圓に過ぎず前年に比し實に三百四十八萬四千二十二圓の減少なり。之露國に對して輸出皆無なりしと及び英國に對して二百三十八萬六千六百九十七圓を減じたるに因る。然れども亞米利加諸洲に對しては前年に比し四萬六千九百六圓を増加し、濠太刺利其他諸國に對して又六萬四千八百八十七圓を増加し居れり。只如何にせん此増額は以て前記の減額を填するに足らざりき。今、通商國別成績を前年に對照せんか即ち左の如し。

	大正七年	大正六年	比較増減
亞細亞洲	三、四七、七四三	一、五三、九〇三	(一) 一、九四、八四〇
支那	五、〇七、二一一	三、〇七、九六五	(+) 一九、〇〇六
關東州	二、九、〇九三	二、九、九六六	(-) 八七、七七三
香港	三、四九、六三三	八、四七、六〇〇	(-) 四、九七、九六七
英領印度	二、七、五五六	二、四、三三三	(+) 三、二二三
英領海峽殖民地	五、三三、八八九	二、八五、八三六	(+) 二、四八、〇五三
比律賓諸島	八、二二、〇八六	三、七、八四七	(+) 四、四四、二三九
佛領印度	一、七、一一一	二、〇、〇〇〇	(-) 二、八八九
露領亞細亞	三、五、二八一	一、六、七七七	(+) 一、八、五五四
暹羅	三、三、三三三	一、二、三三三	(+) 二、一、〇〇〇
長崎港概観			八三

長崎港概観

其他諸國	二五、四九	二、五七	(十)	一四九、五三
歐羅巴洲	四六、五七	三、九〇、五九	(一)	三、四八、〇三
佛蘭西	二九、四九	五、四一	(七)	三、〇〇、六八
英吉利	四六、五七	二、〇三、六三	(一)	二、三六、九七
露西亞	一	一、一〇、九三	(一)	一、一〇、九三
其他諸國	一三三	一、三三	(一)	一一、九一
亞米利加洲	二六、五九	三、一六	(七)	四、九六
北米合衆國	一八、七〇	三、〇六	(一)	三、六二
其他諸國	八、八〇	六、〇三	(十)	五、二七
其他諸洲	三、〇〇、〇八	二、八、二一	(七)	四、八七
濠洲	二、五、五五	三、八、五〇	(七)	七、一五
濠洲	八、五三	三、八一	(七)	四、七三

支那に對しては前年に比し僅かに二萬九千餘圓を増額したるのみ、其内容に關しては別篇「長崎對支貿易最近二十五年紀要」第八十頁乃至八十三頁に詳かなり。關東州に對しては約一萬圓を減じ、香港に對しては四百八十萬七千餘圓の減退を見たり。同港への輸出は錫に於て十五萬七千餘圓、錫に五千餘圓、鮑に一萬五千九百餘圓、其他の乾貝に一萬三千五百餘圓、乾

蝦に八千餘圓、蕃薯に三千餘圓、椎茸に約八萬五千圓、蔬菜に五千餘圓等孰れも前年に比し増加したれども、一方綿織絲に約十萬二千圓、石炭に一萬餘圓、貝柱に一萬七千七百餘圓、淡菜に二萬三千餘圓、鮑罐詰に約三千四百圓、諸絹布に約三千圓等の減退あり、遂に叙上の不成績を示すに至れり。之蓋し當港亞細亞洲貿易の不振を見たる一大原因なりと雖も香港、關東州に對する不況以外は英領印度、英領海峽殖民地、比律賓諸島、露領亞細亞、暹羅、其他諸國に對し何れも輸出の伸張を見、就中英領海峽殖民地に對しては五百三十三萬一千八百五十九圓を算し亞細亞洲中當港輸出貿易の第一位を占め、前年に比し優に二百五十一萬六千餘圓を増加せり。之主として石炭の輸出前年皆無なりしもの當年に入りては俄然需要旺盛を極めたるも其他の諸品亦甚だ盛況なりしに因る。

歐羅巴諸洲に對しては僅かに佛蘭西に對して前年に比し二萬四千圓の増加を示したりと雖も之とて前年の輸出が甚だ少額なりしが爲め比較上此成績を現はしたるに過ぎず、若し夫れ英國に對しては前年に比し二百三十八萬六千餘圓を減じ居り、況んや白耳義の瓦解、露西亞の變局あり、敵國獨逸と共に當港輸出皆無の狀態に陥れり。北米合衆國に對しても前年に比し三萬八千餘圓の減少を見、只其他の英領亞米利加に對し八萬五千餘圓てふ稀有の好成績を擧ぐるを得たり。而して濠洲に對して一萬七千餘圓の増加を見たるは主として板紙の輸出盛なるものあり

長崎港概観
しに因る。

尙當年輸出品の消長を記すれば左の如し。

前年に比し輸出著しく増進したるもの

品名	輸出品額	前年ニ比シ増加額
錫	一、三二、六二〇	三、七、七四四
鮑	八、八五八	四、九〇二
貝柱	二四、四四五	二、四、二〇〇
揚巻貝	七六、一三三	一〇、三六六
其他ノ乾貝	一一、〇三九	三、二四〇
乾蝦	三三、五九〇	六、六一九
鱈	八六、六三三	一、九、五三三
蕃薯	三三、六三五	二、五、五二五
椎茸	三〇九、〇七六	一、四、七六一
鮑罐詰	一九〇、一八一	五、五、五六七
其他ノ罐詰及罐詰食物	九二、六二九	六、五、五三三
木炭	三九、九七〇	一、〇、七〇〇
其他ノ原料用製品	四九四、三九三	三、七、七四四

品名	輸出品額	前年ニ比シ減少額
板紙	一四七、七五五	八、五〇九
セメント	四一〇、〇〇〇	一〇、五、五三三
陶磁器	三六、九三三	五、五、五三三
硝子及同製品	二八、七三六	五、〇、五三三

前年に比し輸出著しく減退したるもの

品名	輸出品額	前年ニ比シ減少額
煎魚	四三、三六九	二、五、五三三
海參	一四、五、三九九	一、二、五三三
製茶	一九、〇一九	七、五三三
其他ノ食料品	一七、〇七五	二、五、五三三
石炭	一、五五七、六四四	一、〇、五三三
其他ノ原料品	九、二二三	一、二、五三三
綿織物	二、三、七、八七五	一、四、五三三
絹布及絹織物	一、五三三	一、一、五三三
諸機械	三〇、九六六	五、六、五三三
其他ノ金屬製品	五、二、九、六七七	五、〇、五三三

二、輸入状況
長崎港概観

曩にも述べたるが如く大正七年の長崎港輸入貿易は二千四百三十四萬餘圓にして明治六年以降過去四十五年間未だ曾て之なかりし記録なり。之を前年に比すれば殆ど其倍額を示し、輸入最高記録たる明治三十七年の二千八十五萬六千四百十九圓に比するも尙三百四十八萬三千九百十四圓を加ふ。

然らば何れの方面より此多大なる輸入を仰ぎたりしやと云ふに主として亞細亞洲中支那、關東州及佛領印度並に北米合衆國なり。左に通商國別輸入成績を掲ぐべし。

	大正七年	大正六年	比較増減
亞細亞洲	一六,三三三,〇四四	七,四〇〇,八九九	(+) 九,〇〇三,一四五
支那	五,三六一,三三九	二,三九七,七四四	(+) 二,九六三,五九四
關東州	四,六六三,三三三	一,五七四,三七七	(+) 三,〇八八,九五六
香港	一〇,七七八	三,一三一	(+) 七,六四七
英領印度	二,七二二,三三七	二,二九一,四三三	(+) 四三〇,九〇四
英領海峽殖民地	九,七五五	二七,〇五三	(-) 一七,二九七
比律賓諸島	一,九一四	七〇,二八九	(-) 六八,三七五
佛領印度	三,五〇三,四八六	四九,五五八	(+) 三,四五三,九二八
露領亞細亞	二,三九九	二,〇九七	(+) 一,〇,八九二

	大正七年	大正六年	比較増減
暹羅	六,六一一	三,一三三	(+) 二,九七八
其他諸國	二,一九四	三,四三三	(-) 一,二三九
歐羅巴洲	九,四七四,四五六	一,六〇六,六七七	(+) 七,八六七,七八九
佛蘭西	五,九〇六	三,一〇五	(+) 二,八〇一
英吉利	八,五七〇,一〇〇	一,六二四,一〇〇	(+) 六,九四六,〇〇〇
獨逸	二,六六一	三,四七七	(-) 八八六
露西亞	三,五五三	三三三	(+) 三,二二〇
其他諸國	六,三〇六	四,一八四	(+) 二,一二二
亞米利加洲	六,八四一,四五三	三,三三三,一三四	(+) 三,五〇八,〇一九
北米合衆國	六,八〇〇,三三三	三,三三四,六六七	(+) 三,四六五,六六五
其他諸國	一,八一一	四四七	(+) 一,三六四
其他諸洲	一,五六一	五七,七三三	(-) 五六,一七二
濠洲刺利	一八,〇〇六	四,三六七	(+) 一三,六三九
其他諸國	一七,六四四	五三,五三六	(-) 三五,八九二

支那及關東州等よりの輸入狀況に就ては別篇「長崎對支貿易最近二十五年紀要」第百八十頁乃至第百八十三頁に之を記述せる如く主として同方面よりの豆類、雜穀、胡麻、荳胡麻子、

茶子並に獸骨、肥料等の輸入盛んなりしが爲めにして殊に油糟の如きは關東州よりのみにても三百四十七萬九千餘圓を算し、之を前年に比すれば二百二十六萬一千餘圓の増入を示したり。英領印度英領海峽殖民地及比律賓諸島よりの輸入こそ甚だ多からざしかども、佛領印度よりの輸入に三百十六萬餘圓を増し、暹羅よりの輸入に六萬三千餘圓を増加したり。之云ふまでもなく外米の輸入多額なりしに困るものなり。

北米合衆國よりの輸入は六百八十萬圓を超へ輸入國中の第一位に居る。之を前年に比較せんか將に倍額に近からんとし、即ち三百五十六萬七千餘圓の増入なり。之蓋し英、佛等に於ける輸出禁止の打撃を此處に補はんとしたるが爲めにして、其品別を見れば石油に十九萬八千餘圓、線綿に二百十五萬一千餘圓、鐵條竿アングル形類に八十三萬四千餘圓、鐵板に十六萬七千餘圓、鐵釘類に三萬五千餘圓、其他諸機械に十三萬餘圓、木材及板類に三萬六千餘圓等孰れも著しき増入を來し、只僅かに硝子薄板に約四萬九千圓、金屬工及木工機械に三萬三千餘圓等の減少を見たりしのみ。

左に當年輸入品の消長を示す。

前年に比し輸入著しく増加したるもの

品名 輸入額 前年ニ比シ増加額

米	三、七七一、三五四	三、三七一、二九四
豆類	三六六、五〇〇	三三八、〇九六
鳥卵	一〇二、九二二	三八、四四六
芝麻、荳蔻、胡椒及菓子	五五五、六六九	四九一、四七二
獸骨	一、〇三三、八六六	一〇〇、九一八
綿	五、九五六、〇七五	二、三三三、〇〇一
チーキ材	五七、七七一	五、四四三
其他ノ木材及板	一七〇、一八八	四七、八八六
紙	六四、五七五	三、三三三
肥料油糟	四、四三七、〇〇一	二、七九九、四七七
鐵塊及錠	一、〇八八、二五三	五〇〇、〇〇〇
鐵條竿アングル形類	一、〇九四、〇一六	五〇四、七七二
筒管鐵	三九一、一〇四	九〇、八八六
其他ノ原料用製品	二二七、二八〇	六六、五五九
石油	四、六六八、五七七	一、九八、五五〇
鐵釘類	五、〇〇一	一〇、〇三三
諸機械	六、四三三、二二二	七、四六五

長崎港概観

其他ノ金屬製品

一、二六、七七一

五七、四四四

九二

前年に比し輸入著しく減少したるもの

品名	輸入額	前年ニ比シ減少額
粗製硫酸アンモニヤ	一、六四	二〇、二四四
石炭	—	四二、三〇〇
其他ノ原料品	七、三三三	七、三三五
錫塊及錠	—	一、八一七
亞鉛板	—	三、七三七
硝子薄板	一五、六六五	四、九六六
鐵鎚及鐵鏈	三、九四四	三、三三三
金屬工及木工機械	五、四六六	五、九四四

三、特別貿易

大正七年長崎港特別貿易は輸出八百六十五萬三千二十三圓、輸入五十萬三千八百八十四圓、合計九百十五萬六千七百七圓にして之を前年に比すれば輸出に於て百八十一萬九千三百七十九圓を増し、輸入に於て八十一萬四千三十三圓を減じ、差引合計に於て百萬五千三百四十四圓を増加したり。内輸出に於て多額を占むるは船用品にして其内譯左の如し。

船用積込品	大正七年	前年ニ比シ増減
外國船舶用	三、三〇、九四四	(一) 五、九四四
石炭	三、三三、七五五	(一) 四、三八一
食料品	一、六、五九	(一) 二、七五五
其他ノ諸品	一〇九、六一	(一) 四、七二四
外國及朝鮮航行日本船用	五、三三、三三九	(七) 二、三四、三三九
石炭	四、六四、八三三	(十) 二、二六、七六六
食料品	四、九、四九七	(十) 二〇、一八一
其他ノ諸品	五、九、九二九	(七) 九、三三三
合計	八、六三、〇三三	(十) 一、八、九、三七七

即ち此合計に於て前年に比し百八十一萬九千餘圓の増加を見たるは全く外國及朝鮮航行日本船用品の需要増加を來したるが爲めにして外國船舶は入港數減少の爲め、石炭食料品、其他諸品何れも減額を示したり。

輸入品中主なるものは水産漁獲物なり。之又前年に比し二萬八千九百四十四圓を減じたり。左の如し。

長崎港概観

品名	大正七年	前年ニ比シ増減
水産漁獲物	三、〇七四	() 六、六〇四
乾魚及煎魚	二、四二五	() 三、五九四
海參	一、八、六三三	() 三、七九五
其他ノ食物	二、四〇三	() 八二五
其他ノ諸品	三三、四三三	() 二、六四四
合計		

九四

四、仲繼貿易

大正七年長崎港仲繼貿易は外國仲繼貿易五十四萬二千餘圓、之を前年に比し三萬八千餘圓の増加なり。朝鮮仲繼貿易十九萬三千餘圓、之を前年に比し九萬二千餘圓の減少なり。左表其消長を示す。

品名	大正七年	大正六年
米及穀類	一、四八四	九、三三三
豆類	三、五六〇	三〇、八〇三
麥粉類	—	六〇八
砂糖類	—	一、四七
酒類	七、〇五〇	七、五

其他ノ飲食物	三三、一、五八六	三三、一、五八六
皮革類及同製品	六〇	六、七〇三
藥材化學藥及製藥	七、七八八	一、八、七〇〇
綿織物	100	—
毛織物	—	六
衣服及附屬品	一、五、四〇〇	一、〇、〇〇〇
陶磁器及硝子類	二、六、六六	六、三三
鐵	二、四三	五、五
其他ノ金屬及同製品	一、三、三三	四、八七二
機械類	一、六、六六	一〇、三三〇
其他ノ雜品	三、三、六六	八、三三三

朝鮮仲繼貿易に於ては移出入共に振はず、之全く船便及船腹の不便不足に困れるものなるべし。

五、朝鮮貿易

大正七年長崎港朝鮮貿易は移出四百七十六萬四千五百五十一圓、移入六十萬五千四百七十一圓、合計五百三十七萬二千二百二十二圓にして前年に比し三百九十二萬一千八百十八圓の増額なり。其

長崎港概観

九五

消長を表示すれば左の如し。

品名	大正七年	大正六年
移出		
米	一、三三〇	一、〇五〇
鮮魚	一、八〇四	三、五九四
蜜柑	五、五八六	二、〇〇四
其他蔬菜及果實	一六、九四九	四、九八六
菜子油	〇	一、二〇二
諸綿布	三、七、八五五	一、三六、七五五
石炭	二、三三〇	三、六三三
セメント	三、三〇〇	二、四一〇
陶磁器	九、一〇九	三、七、四四七
其他ノ諸品	四、五、六、七、三	一、〇、五、三、〇、一
合計	四、七、四、五、二	一、三、七、五、六、六
移入		

品名	大正七年	大正六年
米類	一七、一八〇	三、四、四、七、〇
豆類	五、七、五〇〇	八、四、四、八
肥料類	五、九、〇〇〇	二、七、九、九、七
獸骨	四、四、七、七	七、七、八、一
其他ノ肥料	一、五、九	四、四、二
其他ノ諸品	三、〇、〇、〇、〇	一、七、五、五、五
合計	七、〇、四、二、一	一、一、〇、二、八、八

第三章 産業

長崎に於ける産業状態中長崎特産品に關しては別篇「長崎特産品調査」中に詳かなれば重ねて茲には説かず。以下主として工業の概要を述べん。

明治二十六年七月一日日本商法の實施に際し、長崎市に於ては本縣の命により爾後存続すべき諸會社の調査を行へる事あり。今其調査報告を見るに左の如し。

○明治二十六年七月一日現在長崎市内諸會社表

社名	本店ノ位置	會社ノ目的	資本金額
長崎製革會社	西山	獸皮製革販賣	10,000円
長崎土工會社	紺屋町	土木工事請負	3,000
長崎新報社	西濱町	印刷製本	8,000
日見新道會社	紺屋町	道錢取立	18,000
紀平會社	樺島町	軍糧食用物品販賣	18,800
長崎石炭會社	江戸町	石炭販賣	3,000
勤工商會社	本石灰町	各商物品販賣紹介	3,000
以文會社	本博多町	印刷製本	10,000

長崎劇場會社	新大工町	演劇場貸	12,100
長崎委託賣買會社	浦五島町	委託品紹介	25,000
長崎倉庫會社	築町	米穀審査及保管	30,000
長崎電燈會社	西濱町	電燈供給	13,000
長崎製糸會社	西山	製糸販賣	12,000

之より曩同年以前に於ても尙種々の名稱の下に若干の商社組織を見たりしかども此年迄に自ら解散し或は失格し或は單に個人經營に移り、右の十三を數ふに過ぎざる事となれり。二十五年後の今日にして顧みれば、或は消滅し、或は解散し、或は合併し其續かに存続せるは紀平合資會社の一あるのみ。轉々今昔の感に堪はず。

現在諸會社の設立年月により其數を見るに左の如し。(支店の設置をも含む)

明治二十六年	—
明治二十九年	—
明治三十一年	—
明治三十六年	—
明治三十七年	—

明治三十九年	二
明治四十一年	二
明治四十二年	三
明治四十三年	五
明治四十四年	三
大正元年	三
大正二年	一
大正三年	四
大正四年	五
大正五年	七
大正六年	十七
大正七年	十七

此外明治四年に大北電信會社長崎支店設置せられ、明治十八年日本郵船會社長崎支店設置せられたり。以下主要なる工業會社に就き其營業の一般を記さん。(「長崎商工名録」諸會社欄參照)。

三菱造船株式會社長崎造船所

(長崎市飽ノ浦町一丁目)

沿革

安政二年目付永井玄蕃頭の建議により幕府は船舶修理の爲め長崎に一工場を創設するの議を定め先づ所要の機械器具購入方及技師招聘方を當時入港中の和蘭軍艦ヘデー艦長グファビユスに託したり。之に因り安政四年技師長蘭人ハー・ハルデス以下數名の技師と若干の機械器具等に到着す。於茲乎乃ち長崎市對岸飽ノ浦に地を相し、同年十月起工、九千四十坪の地を開き、漸次工場を建設し、機械を据付け、其一部の竣工するに及び之を熔鐵所と名付けたり。時に幕府財政甚だ窮乏工事遅々として進捗を見ず、前後約五ヶ年を費し、文久元年(一八六一年)三月二十八日漸く落成を告げ、長崎製鐵所と命名したり。之と同時に船舶修理に必要な船渠の設備亦纔に成り、之を軍艦打立所と稱す。蓋し共に本邦に於ける洋式鐵工場及造船所の濫觴たり。西曆千八百六十年夏(我が萬延元年即ち同工場略竣工せる時なり)長崎に來航せしロバート・フォーチュンは其著「日本及支那訪問記」(“Visits to Japan and China”)中に於て同所に關する見聞を記して曰く

“Opposite Desima, and on the other side of the bay, the Japanese have a large factory in active operation. The machinery has been imported from Europe, and the superintendent

is are Dutch. The Japanese workmen appear to be most expert hands at moulding and casting, and in the general management of steam machinery. In this respect, they are far in advance of their neighbours, the Chinese."

「日本人は港灣を距てゝ出島と相對するの地に新式盛大なる一大工場を有す。機械類は歐羅巴よりの輸入に係り、技術監督者は之を和蘭より招聘せり。日本勞働者は木型、鑄型の製作及機械の取扱に最も優秀なる技能あるを示し此點に於て遙かに其隣邦支那人に卓越す。」とされど當時機械及造船職工としては僅かに三四十名を數ふるのみして、然かも其中には各藩より派遣されたる見學生若くは見習徒弟も少からず。未だ造船所として何等見るに足るべきものなく、幕府所有の觀臨丸其他一二の小蒸汽船を修理するの設備に過ぎざりしもの、如し。維新以降幕府の手を離れ、明治四年工部省の管理する所となるや所謂政府事業として經營せられ工場全般の改築を施し、又小菅船架を英人グラブト氏より買收し、且立神に長さ四百二十六呎半の船渠を起し専ら造船及船舶修繕の事に當り、稍工場の體裁を具ふるに至りしも、時運猶未だしく、其規模亦甚だ幼稚にして、此數年間僅かに一千五百噸の木造汽船小菅丸と五百噸未満の木造汽船十數隻を建造したるに止まり、元より鐵骨を用ふるの組織經驗もなく、之に對する企畫なきにしもあらざりしかども容易に實現の域に到達すべくも見へざりけり。

明治十七年、岩崎彌太郎氏は屢政府と交渉を重ね、該工場の拂下を請ひ、許されて其經營に歸す。之三菱造船所の今日ある所以なり。然れども當初職工八百人に滿たず且其契約も尙官物借用の名義を以てし政府事業を繼承せるに止まり、進んで諸般の擴張若くは巨船の建造計畫等に著手すること能はざりしが、明治二十年全權全く三菱に歸するに及び、着々工場の設備を計り、世界の風潮に遅れざらんことを期し、明治二十二年鋼製汽船筑後川丸、木曾川丸、信濃川丸の建造をなすに方り、立神に造船工場を拓き、多少の造船機械を備へたりしも、尙其規模僅かに前記三汽船建造の應急設備に過ぎざりしが故に、未だ以て造船工場の名を冠するに足るものなし。

明治二十六年十二月二十八日合資會社組織とし三菱合資會社長崎造船所と稱す。此時に際り世界の貿易は長足の進歩をなし、船舶は經濟上の關係より漸次其大さを増すの必要を生じ船主は争ふて大船を建造するの機運に向ひしかば茲に従來東洋に於て有數なりし立神第一船渠をも擴張の必要を生じ、明治二十七年之を延長して五百二十三呎となし、更に他ノ浦に三百七十一呎の第二船渠を開設したり。然かも大勢は尙趨て止まず、一層長大なる船渠を要するに至り、即ち他ノ浦、立神兩工場間全部の土地を買收し、此處に七百二十八呎九吋の船渠を開設する運びとなり、明治三十七年十一月工を起し、同三十八年三月竣工す、之現在の第三船渠なり。

飽ノ浦造船工場は明治二十八年以來漸次工場の改良擴張を計り又工場の原動力を電氣に改め加ふるに明治三十七年英國パーソンズ會社專賣最新式蒸汽タービン製造販賣の特許權を買収し新にタービン工場を設け、明治四十年には新造艦船の設計に當り、艦型と速力と馬力との關係を模型の實驗によりて最も正確に算出し得べきエキスペリメンタルタンクを特設し爾來各工場を改築又は増設し且隣接地を買収して大に地域を擴め、前方海岸約一萬二千坪の埋立工事も殆ど成り全く舊時の面目を一新するに至れり。

立神造船工場は明治二十三年創めて其緒を開き爾來着々工場の施設を圖り先づ背後の丘陵を平げ前面海岸及暗礁を埋立て地域を擴張して造船臺並に各工場を改築又は増設し、強大なる鐵工及木工の機械を増置し、創業當時と全く其面目を一新するに至りたるも、尙將來の發展計畫として背後西泊に面する丘陵を切開き前面の暗礁を埋立て工場全般の改良擴張に着手したり。時恰も我海軍より巡洋戰艦建造の命を蒙りたるを以て飽ノ浦工場の擴張と相俟ちて更に前方海面約六千坪を埋立て造船臺を擴張し其第一船臺にはガントリークレーンを建設し其他工場一般の能力を増進せしめたるを以て容易に大船巨船を建造し得るに至れり。

大正六年十一月一日經營組織に刷新を加へ、從來造船部所管に係る造船、造機の業務、其他一切を三菱合資會社の手より移して新設の三菱造船株式會社(資本金五千萬圓)の經營に委ね、三

菱造船株式會社長崎造船所と改稱す。因に同株式會社は長崎造船所の外、神戸市兵庫和田崎町三丁目神戸造船所を、山口縣豊浦那彦島村に彦島造船所を、長崎市茂里町に長崎兵器製作所を經營す。

設備及事業

現在工場的位置は長崎港の西海岸西泊灣より水ノ浦に至る一帯の地を占め、造船工場、機械工場、船渠等皆此内に在り。其面積七萬三千八百七十七坪を有し、尙目下工事中の工場用地一萬七千六百八十二坪、此工成るの日は即ち其面積九萬一千四百九十九坪、海岸線を有すること實に二十六町五十三間の長きに亘る。尙對岸小菅船架は其面積五千九百八十坪あり此兩者並に社宅用地其他の工場附屬地を併せて合計二十萬六千六百九十四坪に及ぶ。

一、船渠及船架

第一船渠

第一船渠は舊工部省の築造に係るものにして明治十二年五月井上工部卿によりて開渠せられ後三菱の有に歸して以來渠頭九十六呎半を延長し、總長を五百二十三呎となす。渠内水量空渠最大満潮時に於て三萬三千二百三十六噸(一八六、一二二石)之を排水するに二個の電動ポンプあり。最大満潮時に於て四時間以内に排水し了る事を得べし。

第二船渠

第二船渠は明治二十九年十一月開渠せしものにして其總長三百七十二呎、此水積最大滿潮時に於て一萬五千八百五十噸(八八、七六〇石)之が排水に要する時間三時間、最小滿潮時に於ては僅かに二時間二十三分を以て足る。

第三船渠

第三船渠は明治三十八年三月の開渠に係り、其總長七百二十八呎九吋、最大滿潮時に於ける水積七萬一千二百四十噸(三五八、九四四石)、之を排水するに三個の電働ポンプあり、最大滿潮時に於て四時間、最小滿潮時に於て三時間二十五分を要す。此第三船渠の規模廣大なる事前述の如く、實に東洋第一の稱に背かず。曾て太平洋方面に於ける最大巨船として屈指せられたる大北汽船會社のミネソタ(二萬一千噸)及びダゴタ(二萬一千噸)を入渠せしめたる時の如き尙優に百餘尺の餘裕を存したりといふ。

今現在に於ける各船渠の寸法を示せば左の如し。

名	種	種	長	盤木長	渠口上	渠口下	盤木上滿潮時ノ深サ
第一船渠	石造乾渠	總	五三三・〇呎	五三三・〇呎	八九・〇呎	七七・〇呎	二六・六呎

船架

船架は其建造最も古く舊幕時代の建設に係り其キャリエージの長さ二百二十八呎にして總噸數一千噸迄の船舶を揚架し得べし。

二、造船造機能力

明治十七年職工僅かに八百人に足ざりしもの現在に於ては職工一萬三千數百人、役員千餘人に上り、工場の設備亦之に副ひて一ヶ年優に十二萬噸以上の造船及十五萬馬力の機關並に十萬キロワットの電機品の製造力を有す。今其進歩の一斑を述べんか、明治二十年鐵製夕顔丸(二百六噸)の建造を初めとし爾來此の種の鐵船一、二隻を建造し明治二十二年より二十四年に亘り大阪商船會社の汽船筑後川丸、木曾川丸、信濃川丸(各七百噸)の三艘を建造せり。是我國に於ける鋼製商船の始めにして其機關も亦我國に於て製造せる三聯成機關の嚆矢とす。其後進んで明治二十七年鋼製須磨丸(一千六百噸)の工事を起すに至り稍事業の發展を見、續て立神丸(二千六百九十噸)、宮島丸(一千五百九十二噸)、月島丸(一千五百十九噸)等の新造船續て成り

明治三十年には一躍六千餘噸の常陸丸を建造し、日露戦後の明治四十一、二年には再躍一萬三千餘噸の天洋丸、地洋丸を建造するに至り、更に大正四年には二萬七千五百噸の最新式巡洋戦艦霧島を建造し、大正七年には三萬一千二百六十噸の最新式戦艦日向の建造を見るに至れり。其今日迄の建造に係るもの千噸以上の商船六十八隻、此内には天洋丸の一萬三千四百五十四噸、地洋丸の一萬三千四百二十六噸、春洋丸の一萬三千三百七十七噸、諏訪丸の一萬一千七百五十七噸、伏見丸の一萬九百四十噸、香取丸の一萬五百十二噸等の巨船を含む。

又建造の艦艇は戦艦日向(三萬一千二百六十噸)、巡洋戦艦霧島(二萬七千五百噸)を大なるものとし二等巡洋艦矢矧、通報艦最上、大型驅逐艦山風、濱風、支那海軍部の注文に係る砲艦永豐、其他中型驅逐艦柏級四隻、小型驅逐艦白露級五隻、水雷艇三隻なり。

此外千噸以下の新造船に至りては枚舉に遑あらず、又彼の同社神戸造船所用浮渠(七千噸)も同所の建造に成る。尙目下建造中或は建造準備中の艦船は巡洋艦多摩、木曾、驅逐艦澤風、矢風、羽風を始め鋼製貨物船總噸數九千五百噸のもの二隻、六千八百七十五噸級のもの一隻、五千七百六十噸級のもの八隻、三千八百噸級のもの二隻及一千七百六十噸級のもの四隻あり。若し夫れ修繕船の多寡に至りては一定し難きも一ヶ年約五百艘乃至七百艘に上る。

又機關並に電機品は當所に於ける新造艦船用は勿論陸用汽罐の製造尠からず、最近大阪電燈

株式會社に据付たる一萬二千五百キロワットターボ發電機四基の如き同所の製作に係る。其他船室用三菱型排氣器、船舶用三菱型排氣頭、伊東式船舶操縱裝置、森式轉軸捻鈕計、伊東式螺旋面仕上機械、三菱式汽罐、江崎式過熱器、江崎式互價金屬彈環、往復式蒸汽機關滑金調製裝置、伊東式回轉計、伊東式壓力計、伊東式自動機關日誌、灰滓排除裝置等皆同所の專賣權を有する特製品なり。

而して之等船艦機器及造船造機材料の輸出入は直ちに當港對外貿易の消長に重大なる關係を有すること擧げて本篇第一章「貿易」の項に詳かなり。

三、諸工場

造機工場には鑄子場、タービン工場、機械場、鍛冶場、銅工場、製罐工場、鋸接場、鑄造工場、木型場あり。

造船工場には鐵工機械場三、木工場二、鉋鋸工場、管工場、機械工場、鍛冶場、亞鉛鍍工場、綱具製帆工場、製鋸工場、撓盤場、船體現圖場、アングル・スミス・ショップ、シート・アイオン・ショップ、鋸接場あり、且造船臺十臺を備へ、其大なるものは長さ七百六十七呎、幅四十四呎、其小なるものもありても尙長さ三百八十一呎、幅十七呎あり、然かも必要に應じ、最長第一船臺約一千呎より第六船臺の六百呎迄夫々延長する事を得。又第一船臺上には大型艦建造

上須要なる鋼製ガントリークレーンあり、其全長七百九十呎、内側百十六呎、彼の埠頭巨人の肋骨を横ふるが如きもの即ち之なり。

電機工場には電機場、発電所、配電所あり。発電所は飽ノ浦にありて工場内六千七百餘個の白熱燈と五百餘個の高燭力白熱燈の外、工場各部動力の根源たる五百十餘基の電機機（此馬力一萬二千十）には悉く此発電所より電流を供給するものにして其發電機は低壓直流及高壓交流の兩式に分れ、低壓直流式に在りては直立形汽機に直結のものにて五百キロワット一臺、二百二十五キロワット二臺、合計九百五十キロワットなり。又高壓交流式にあつては三千四百五十ワットパーソンズ專賣最新式ターボアルターネーター、同所製作一千五百キロワット二臺、五百キロワット一臺及英國パーソンズ會社五百キロワット一臺、合計二千五百キロワットにして低壓高壓を合すれば都合三千五十キロワットの發電力を有す。

其他エキスペリメンタルタンクの設備あり、是は新造艦船を設計するに當り艦型と速力と馬力との關係等を模型の實驗に依りて最も正確に算出する最新式の装置にして、世界屈指の私設造船所中此設備を有するものは僅かに二三に過ぎずといふ。又ニューマチツクブランドあり、ピツクリングタンクあり。起重機船あり。彼の造機工場の埠頭怪物の巨臂を張れるにも似たるは鋼製電働ハンマーヘッド大起重機なり。其總高さ百七十七呎五吋半、埠頭外五十四呎の處に

て優に百五十噸（四萬三千二十貫目）の重量を上げ、又埠頭外百十六呎の處にて尙且五十噸の重量を上げ得る回轉自在のものなり。又別に擊船壁五ヶ所を有す、即ち水ノ浦の六百尺、飽ノ浦の六百尺、向島の四百四十尺、立神の五百尺、八軒家の三百尺にして水ノ浦の分には目下三百噸大起重機建設準備中なり。

四、職工に關する事項

労働時間及賃金

大正七年六月末に於ける職工總數は一萬三千九百餘名にして此外臨時人夫として入場する者日々三百名乃至五百名あり。労働時間は午前七時より午後五時半迄（内正午より三十分休憩）一日十時間を以て定時とし、大體日給賃銀制度を採り、時間外作業（残業、早出）に對しては時間割にて賃銀を支給するの外歩増金の方法あり。又作業の種類より請負工事、懸賞工事、臨時賞與工事等の制度を採用し、賃銀は毎半ヶ月分を締切り規定の日に各人別に之を支拂ふ。尙目下戦時手當を支給し最高五割に及ぶ。

奨励賞與制度

- 一、皆勤賞與 休日を除き一ヶ月皆勤者に對しては日給二分を支給す。
- 二、精勤賞與 前記一ヶ月皆勤をなすこと一ヶ年十回に及びたる者に對しては日給十分以

上支給す。

- 三、勤続賞與 五ヶ年以上の勤続者に對しては五年以上十年未満日給五日分以上、十年以上日給十日分を支給し、且十年以上勤続者に對しては賞品を給し其名譽と勤勞とを表彰す。
 - 四、中元及年末賞與 此賞與は近時歐米に於て勞働者の勤勞を尊重する具體的制度の一として實行せられつゝある利益分配法 (Profit sharing system) を採用し毎半季事業の成績により利益金の一部を各自の働き高に應じ中元賞與及年末賞與の名目に於て全職工に分配す。
 - 五、其他發明賞與 殊勳賞與等、發明殊功等に對する賞與あり。
- 救濟、保護及慰安

同所は明治三十年中共濟制度を設け爾來時宜に應じて改正補充し來りしが工場法の實施せらるゝや之を參酌加味して諸般の救濟は全部同所費用のみを以て負擔する單獨制となし、災殃と老後を救濟する方法を定めたり。即ち業務上の負傷疾病は其輕重に關せず同所附屬病院に於て無料治療若くは入院せしめ、又必要に應じ轉地療養をなさしむ。休業中には扶助料として本人賃銀の十分の八を給し且不具、癩疾、死亡の場合は葬祭料百圓以下、慰恤金三百五十圓以上、手當及養老手當退隱手當三千圓以下等を給與す。業務に因らざる傷病は四ヶ月以内賃金の半額を給し、病死の場合は百圓以下の弔慰金を給する外養老手當、退隱手當を給す。老後退隱する者

には養老手當、退隱手當、永年、勤続賞、歸郷旅費等の支給あり。此外職工の結婚、出生、入營、退營、家族の病氣死亡等に對しても夫々貳拾圓以下の酒肴料、見舞金、香花料を給與し、又職工不慮の出來事の爲め臨時所要の場合には救濟貸金として百圓以下の金額を貸與し、五ヶ月乃至二十ヶ月の半ヶ月々賦にて半ヶ月約一日分の賃金を返済に充て負債を償却せしむるの方法あり。

此外同所附屬の病院及療養所は、所内一切の公傷患者を同所の費用にて治療せしむる外、其家族に對しても實費を以て診察しつゝあり。又別に日用品廉價販賣の方法を講じ、白米、麥、醬油、石鹼、足袋等を供給す。

同所は又市當局と協定して見習職工をして三ヶ年間市立飽ノ浦工業補習學校に於て教育を受けしめ、通學の爲めに作業時間を短縮し、教科書其他學校用品を社給す。現在通學生一千百七十名なり。

此他慰安の方法としては元長崎劇場を買収し之を中島會館と改稱して時々大慰安會を舉行す。

貯金及基金

職工の貯金法に左の四種あり。

- 一、出世積金 職工の希望により毎半ヶ月一口一圓を貯金せしめ半ヶ月重利にて九年十ヶ月

目に元利合計三百圓九十三錢となるを満期とし之に對しては特に賞與として五十圓を加へ拂戻す方法なり。一人幾口の貯金を爲すも隨意とす。現在加入者數一千二百餘人口數二千百五十口に及べり。

二、勤儉預金 一圓以上何程にても預入引出を自由にし普通利子以上を以て預るものにして現在預金者數六千六百餘人、預金總額十八萬圓を超ゆ。

三、端錢貯金 毎半ヶ月貸金支拂の際渡金の内十錢未滿の端錢を預り之に前同様の利子を付し元金一圓に達したる時は現金にて拂戻又は勤儉預金に繰入るゝ事を得るものとせり。

四、養老資金 職工退職の場合に於ける資金として各等級に應じ毎半ヶ月一定額を強制積立せしめ之を積立利殖し死亡若くは退職の場合全部支給し又場合によりては之と同額以内の退隱手當を支給することあり。

基金に二種あり。

一、救済基金 職工の退隱、負債、休業、扶助料及吉凶手當の資金に當つる同所よりの積立金なり。

二、幸福増進基金 大正六年十一月同所事業が三菱合資會社より分離したる際、岩崎社長より職工の幸福増進並に慰安の永遠資金として寄贈されたる百萬圓を基金とし、之より生ず

る利子を以て諸般の施設を爲すものなり。

長崎紡織株式會社

(長崎市幸町一丁目)

長崎紡織株式會社は、大正元年十二月資本金壹百萬圓を以て創立せられたるものにして専ら支那回綿絲の生産に努め大正五年十一月更に壹百萬圓を増資し、創業當初二千二百鍾なりしものを擴張し七萬五千鍾となす事とし、機械到着に従ひ据付操業し運轉鍾數の増加を實行しつつあり。現にプラット式四萬三千二百鍾を運轉す。工場敷地二萬一千八百餘坪、建物としては工場事務所、寄宿舎及社宅其他の諸附屬あり此坪數九千二百餘坪なり、現在拂込資金百五十萬圓、大阪肥塚源次郎氏を取締役社長とし、橋本辰二郎氏、志方勢七氏、脇山啓次郎氏を取締役とし、岡村勝正氏、藤瀬宗一郎氏を監査役とす。

大正七年下半年營業成績左の如し。

長崎紡織株式會社貸借對照表

(大正七年十月二十五日)

資 金		負 債	
拂込未済株金	五〇〇,〇〇〇圓	株 金	一,〇〇〇,〇〇〇圓
地 所	一〇〇,一五五	積 立 金	三〇〇,〇〇〇

長崎海棧製

建物	三三、七四
諸機械	五〇、三七
増設假拂金	四八、五三
什器	二〇、五九
工場要具	三、八七
有價證券	二、八〇
準備用品	二八、五七
原棉有高	四八、七四
製糸有高	三七、七〇
製糸賣上未済金	二六、六六
屑物賣上代未済金	三、〇六
積送品	一五、二六
機械代假拂金	九、八七
雜勘定	三、七九
信認金	二四一

一一六

社員退職手當基金	10,000
工手救済基金	10,000
未拂割賦金	五六
借入金	六〇,〇〇〇
仕拂爲替手形	二七、三四
原棉代未拂金	一八、〇四
買入品代未拂金	二〇、四二
未拂金	四、五三
共濟組合	二、四九
諸預り金	二九、〇四
假受金	一八、三〇
前期繰越金	三、三六
前期利益金	二五、三六

寄宿所勘定	四、〇四六
立替金	二、五四
振替貯金	七
銀行勘定	三七五、八四九
現金有高	八、五三
後期繰越半製品高	五、八九
合計	三、七〇三、六四

合計

三、七〇三、六四

利益金處分

当期利益金	二九五、三八四
前期繰越金	六三、三六一
合計	三五八、七四六

内

積立金	五〇、〇〇〇
役員賞與金	一九、七〇〇
配當金(年一割二分)	八五、〇〇〇

長崎海棧製

一一七

長崎港概観

特別配當金 (年一割三分)	九二、〇八〇
社員退職手當金	一〇、〇〇〇
工手救済基金	一〇、〇〇〇
後期繰越金	九一、九六六

右二大會社の外、現在當市に於ける工業會社及個人工場として左の如きものあり。(「長崎商工名録」参照)。

長崎に於ける工業會社及工場

- 三菱造船株式會社長崎造船所
- 三菱造船株式會社兵器製作所
- 長崎紡織株式會社
- 合名會社松田罐詰製造所
- 長崎陶器株式會社
- 山下コークス株式會社
- 日本タルク製造株式會社
- 長崎酒精株式會社

東亞タルク工業株式會社

道之尾ラヂウム鑛泉株式會社

株式會社長崎鐵工所

長崎菓子株式會社

株式會社久保鐵工所

第一化學工業株式會社

長崎製紙株式會社

長崎石鹼株式會社

松尾鐵工所 (個人經營)

東洋製氷株式會社長崎支店

鹿兒島肥料株式會社長崎分工場

尙石炭鑛業に關しては「長崎に於ける石炭の集散」参照。

第四章 商工機關

備考 長崎米穀取引所に關しては「長崎に於ける米麥及雜穀」第三章參照。同業組合に關しては「長崎商工名録」參照。

第一節 銀行

當市に於ける主なる銀行業左の如し。

- | | |
|----------------|-----------|
| 株式會社十八銀行 | (長崎市築町) |
| 株式會社長崎縣農工銀行 | (同 大村町) |
| 株式會社日本商業銀行長崎支店 | (同 本下町) |
| 株式會社橫濱商金銀行長崎支店 | (同 梅香崎町) |
| 株式會社三井銀行長崎支店 | (同 西濱町) |
| 株式會社長崎貯蓄銀行 | (同 築町) |
| 株式會社長崎高木銀行 | (同 東濱町) |
| 株式會社福岡銀行長崎支店 | (同 西濱町) |
| 香港上海銀行長崎支店 | (同大浦下り松町) |

年間長崎市內各銀行金融表

金額	勘定	金銀勘定 十二月末 日 殘高	手形		勘定		宿爲	
			送金 取組高	手形 支拂高	代金取立 取組高	取立 取立高	取組高	取立高
31,795,757	回 收 高	4,657,608	20,854,726	17,228,594	3,690,019	3,619,854	2,811,801	3,328,125
29,073,203	十二月末 日 殘高	5,369,163	21,391,259	18,993,760	3,241,826	3,811,650	2,390,198	3,553,948
35,002,251	回 收 高	8,822,688	25,484,967	18,761,026	3,697,314	3,843,385	2,775,630	3,656,733
41,081,220	十二月末 日 殘高	9,785,002	27,594,792	21,740,050	3,657,745	4,657,331	6,285,967	6,072,699
42,663,267	回 收 高	10,542,722	34,171,135	20,303,537	3,981,476	4,902,166	16,554,737	6,888,530
42,265,658	十二月末 日 殘高	11,255,860	28,329,914	19,048,787	3,327,286	5,449,811	7,793,236	4,628,258
38,949,788	回 收 高	6,222,314	22,820,671	17,290,319	3,730,617	4,575,771	6,080,001	5,934,829
45,259,625	十二月末 日 殘高	8,659,771	1,182,566	30,583,357	4,624,447	6,051,050	6,257,169	8,605,714
77,655,349	回 收 高	12,994,002	1,360,210	52,958,500	52,647,677	9,127,043	11,895,949	13,454,958
91,015,683	十二月末 日 殘高	20,670,319	2,056,301	85,648,890	71,912,479	13,328,755	21,547,428	23,522,432

第四章 商工機関

備考 長崎米穀取引所に關しては「長崎に於ける米麥及雜穀」第三章參照。同業組合に關しては「長崎商工名録」參照。

第一節 銀行

當市に於ける主なる銀行業左の如し。

- 株式會社十八銀行 (長崎市築町)
- 株式會社長崎縣農工銀行 (同 大村町)
- 株式會社日本商業銀行長崎支店 (同 本下町)
- 株式會社橫濱商金銀行長崎支店 (同 梅香崎町)
- 株式會社三井銀行長崎支店 (同 西濱町)
- 株式會社長崎貯蓄銀行 (同 築町)
- 株式會社長崎高木銀行 (同 東濱町)
- 株式會社福岡銀行長崎支店 (同 西濱町)
- 香港上海銀行長崎支店 (同大浦下り松町)

最近十ヶ年間長崎市內各銀行金融表

年次	預金勘定			貸金勘定			金銀勘定 十二月末 高	手形			勘定		荷爲替手形	
	預入高	拂戻高	十二月末 高	貸出高	回收高	十二月末 高		送金 取組高	手形 支拂高	代金取立 取組高	取立 取立高	取組高	取立高	
明治四十二年	56,391,793 ^円	57,024,010 ^円	6,281,987 ^円	30,717,484 ^円	31,795,757 ^円	4,657,608 ^円	640,469 ^円	20,854,726 ^円	17,228,594 ^円	3,690,019 ^円	3,619,854 ^円	2,811,801 ^円	3,328,125 ^円	
明治四十三年	57,786,026 ^円	57,525,274 ^円	6,543,736 ^円	29,761,364 ^円	29,073,203 ^円	5,369,163 ^円	902,683 ^円	21,391,259 ^円	18,993,760 ^円	3,241,826 ^円	3,811,650 ^円	2,390,198 ^円	3,553,948 ^円	
明治四十四年	78,100,336 ^円	73,006,375 ^円	6,703,958 ^円	36,615,615 ^円	35,002,251 ^円	8,822,688 ^円	882,321 ^円	25,484,967 ^円	18,761,026 ^円	3,697,314 ^円	3,843,385 ^円	2,775,630 ^円	3,656,733 ^円	
大正元年	76,804,931 ^円	75,680,352 ^円	7,801,782 ^円	43,126,741 ^円	41,081,220 ^円	9,785,002 ^円	823,167 ^円	27,594,792 ^円	21,740,050 ^円	3,657,745 ^円	4,657,331 ^円	6,265,967 ^円	6,072,699 ^円	
大正二年	94,154,492 ^円	83,554,740 ^円	8,388,213 ^円	43,685,537 ^円	42,663,267 ^円	10,542,722 ^円	795,149 ^円	34,171,135 ^円	20,303,537 ^円	3,981,476 ^円	4,902,166 ^円	16,554,737 ^円	6,838,530 ^円	
大正三年	80,747,769 ^円	81,551,248 ^円	8,582,137 ^円	43,251,695 ^円	42,265,658 ^円	11,255,860 ^円	855,983 ^円	28,329,914 ^円	19,048,787 ^円	3,327,286 ^円	5,449,811 ^円	7,793,236 ^円	4,628,258 ^円	
大正四年	83,682,299 ^円	82,262,692 ^円	11,805,364 ^円	39,141,176 ^円	38,949,788 ^円	6,222,314 ^円	978,937 ^円	22,820,671 ^円	17,290,319 ^円	3,730,617 ^円	4,575,771 ^円	6,080,001 ^円	5,934,829 ^円	
大正五年	104,880,585 ^円	101,777,159 ^円	14,908,791 ^円	47,697,080 ^円	45,259,625 ^円	8,659,771 ^円	1,182,566 ^円	30,583,357 ^円	39,463,805 ^円	4,624,447 ^円	6,051,050 ^円	6,257,169 ^円	8,605,714 ^円	
大正六年	144,703,059 ^円	141,388,360 ^円	15,719,480 ^円	81,989,580 ^円	77,655,349 ^円	12,994,002 ^円	1,360,210 ^円	52,958,500 ^円	52,647,677 ^円	9,127,043 ^円	7,515,194 ^円	11,895,949 ^円	13,454,958 ^円	
大正七年	240,210,004 ^円	233,757,465 ^円	22,001,784 ^円	95,984,332 ^円	91,015,683 ^円	20,670,319 ^円	2,056,301 ^円	85,648,890 ^円	71,912,479 ^円	13,328,755 ^円	11,930,252 ^円	21,547,428 ^円	23,522,432 ^円	

右の内十八、日商、正金、三井の四銀行を市内組合銀行とし、當市金融上に重きをなせり。
以下各其概要を記す。

株式會社十八銀行

(長崎市築町)

明治二十六年十二月二十五日國立銀行條例により第十八國立銀行の名を以て初めて株式會社として登記せられ長崎市築町百七番戸第一號(現在地)に營業せり。然かも其設立免許は既に明治十年六月十二日にあり、夙に同十年十二月二十日を以て開業せり。當時資本金五拾萬圓、故松田源五郎氏を頭取とし故松田庄三郎氏を副頭取とし、取締役として故永見德太郎氏、高見和平氏、鶴野麟五郎氏、永見寛二氏を擧げたり、爾來業務を擴張し最近に於ては大正六年資本金三百萬圓を倍額六百萬圓(拂込高三百七十五萬圓)に増資したり。市内に二ヶ所(北支店、稻佐支店)及六阪に二ヶ所(大阪支店、大阪西支店)、熊本に二ヶ所(熊本支店、坪井支店)、京城に二ヶ所(京城支店、新龍山支店)、其他佐世保、嚴原、釜山、仁川、元山、木浦、群山の各地に支店を置き、福江、武生水、羅州、龍山に出張所を置く。尙本縣本金庫たり。現在重役は取締役頭取永見寛二氏、同副頭取松田英三氏、取締役足立瀧二郎氏、松田精一氏、監査役高見和平氏、藤瀬宗一郎氏、山田又三郎氏なり。最近營業成績左の如し。

株式會社十八銀行貸借對照表

(大正七年十二月三十一日現在)

資 産		負 債	
拂込未済資本金	二、五〇、〇〇〇	資 本 金	六、〇〇〇、〇〇〇
證 書 貸 付	四、〇四三、九四八	法 定 準 備 金	八三〇、〇〇〇
手 形 貸 付	七、七六、八〇六	新 築 費 積 立 金	五〇、〇〇〇
當 座 預 金 貸 付	二、九七、二四六	滯 貨 準 備 金	一〇、〇〇〇
コ ー ル ロ ー ン	六九〇、〇〇〇	事 務 員 退 職 慰 勞 金	二、三三〇
割 引 手 形	六、八五、一六九	公 金 預 金	四二五、〇四七
荷 付 爲 替 手 形	二、六九、五二二	當 座 預 金	一〇、四三〇、九六八
他 店 へ 貸	二、〇六一、八六四	特 別 當 座 預 金	二、九九二、〇一七
仕 拂 承 諾 見 込	八二、〇〇〇	通 知 預 金	一三三
預 ケ 金	一四、二六一	定 期 預 金	七、九一六、四六一
大 藏 省 證 券	一〇六、〇〇〇	諸 預 金	三三六、一五〇
英 國 政 府 國 大 藏 省 證 券	一〇〇、〇〇〇	他 店 よ り 借	四、三五、二九〇
諸 公 債 證 券	一、二三六、四三六	仕 拂 承 諾	八二、〇〇〇
社 債 券	二、三〇、六八八	借 入 金	一〇一、〇〇〇

株 券	二五、八〇六	コ ー ル マ ネ ー	一〇〇、〇〇〇
雜 勘 定	二〇	未 拂 利 息	六、五三
營 業 用 土 地 建 物 什 器	五五、一五	未 經 過 割 引 料	一〇八、八五
所 有 動 産 不 動 産	一七、四四二	未 拂 配 當 金	八
新 築 費	二、三四〇	當 期 純 益 金	六二七、四九六
現 金 有 高	二、三五六、八四九	合 計	三四、五七三、九六
合 計	三、五七三、九六		

尙同期配當金總額十八萬七千五百圓、舊株一株ニ付二圓五十錢、新株一株ニ付六十二錢五厘即ち年一割の配當率なり。

大正七年中同行考課表左の如し。

○大正七年中十八銀行考課表

科 目	大正七年中預入高	大正七年中拂戻高	十二月末日殘高
定期預金	四、九四三、九八四	四、一〇七、一八〇	三、一四一、二二二
當座預金	六、六六七、三二六	七、三三八、二九七	三、三三三、六四四
小口當座預金	四、一七、四七七	四、〇〇九、六八八	七〇四、六八八

諸計預金	最高		最低		最高		最低	
	一萬圓以上	一萬圓以下	一萬圓以上	一萬圓以下	一萬圓以上	一萬圓以下	一萬圓以上	一萬圓以下
計	五,三三,八五二	九,一五,一六三	四,九七,九七三	九〇,五三,四八	四,九〇,〇〇一	七,九二,五三九		
貸付金								
當座貸越金								
割引手形								
送金手形								
荷爲替手形								
代金取立手形								
十二月末日金銀在高								
貸金利息								
割引歩合								

貸金利息及割引歩合

定期預金利息	最高		最低		最高		最低	
	一ヶ月以上(年利)	一ヶ月以下(年利)	一ヶ月以上(日利)	一ヶ月以下(日利)	一ヶ月以上(年利)	一ヶ月以下(年利)	一ヶ月以上(日利)	一ヶ月以下(日利)
定期預金利息	五分	五分	五分	五分	五分	五分	五分	五分
當座預金利息	最高六厘	最低六厘	小口當座預金利息	最高一錢	最低一錢			

預金利息

株式會社日本商業銀行長崎支店

(長崎市本下町)

本店資本總額五百萬圓、內拂込濟二百七十五萬圓、法定準備金五十四萬圓、別段積立金二萬圓、門司、小樽、岩國、柳井、長崎、神戸元町、室蘭、明石に支店を置く。長崎支店設置は明治三十一年十二月なり。大正七年中長崎支店考課表左の如し。

○大正七年中日本商業銀行長崎支店考課表

科目	大正七年中預入高	大正七年中拂戻高	十二月末日殘高
定期預金	二,二八,五〇〇	二,一六,〇八五	一一,八六,〇三三
當座預金	三,五五,七六二	三,四七,一八七	一一,〇三,五八〇
小口當座預金	三,九三,六六一	三,九六,八七七	四三,一六九

諸預金	計	貸付金			送金手形	荷爲替手形	代金取立手形	十二月末日金銀在
		總貸高	拂込受高	十二月末日残高				
七、三二、〇〇〇	五、〇五、九四四	一三、六六四、八七九 〔手形〕 六五、四〇、四九九 四、八五、七五五 四、八九、三三五 三三、〇三、九七八	二四、八四四、六六六 一、五〇〇、二四四 一、五三、〇三三	三、七五八、八六五 一八七、三三二 四、一四七、二〇〇 四、七三、八六六 三、三九四、〇〇三	取組高	取組高	取立高	四、四九、八三三
七、二七、八七六	五、一八、八二、六四五	三、七五、八六五 一八七、三三二 四、一四七、二〇〇 四、七三、八六六 三、三九四、〇〇三	支拂高	取立高	取立高	取立高	三、五九九、四四六 六、八二五、九一一 二、〇〇〇、六二七	三、四七、八六六 三、四七、八六六 三、四七、八六六

貸金利息及割引歩合

貸金利息	割引歩合		
	最高	最低	最高
二四厘	一八厘	二〇厘	二〇厘

預金利息

定期預金利息	一ヶ月以上 (年利)		六ヶ月以上 (年利)		三ヶ月以上 (年利)	
	最高	最低	最高	最低	最高	最低
五分	五分	五分	五分	五分	五分	五分

株式会社横濱正金銀行長崎支店 (長崎市梅香崎町)

本社資本總額四千八百萬圓、内拂込済四千二百萬圓、諸積立金二千四百三十萬圓、長崎支店設置は明治三十二年七月なり。大正七年中長崎支店考課表左の如し。

○大正七年中横濱正金銀行長崎支店考課表

科目	大正七年中預入高	大正七年中拂戻高	十二月末日残高
定期預金	三、四八七、八一四	二、六三三、八四三	二、三三三、六〇四
當座預金	一〇、〇四〇、六六九	九、四四〇、三五五	三、八、〇五〇
小口當座預金	二、七〇一、六一一	一一、五三八、五五八	三、三、六七九
諸預金	一、六三三、〇七四	一四、六二四、四四四	二、八六五、三三三
計	一六、八五二、一六八	二一、六三六、八九〇	九、五三二、三七六

科 目	總 貸 高	拂 込 受 高	十二 月 末 日 殘 高	貸金利息及割引歩合		
				最高	最低	平均
貸付金	三二,五二二	一七,四六三	三,七〇二	一萬圓以上	一萬圓以上	一萬圓以上
當座貸越金	二〇,七五三	一三,八四〇	三,九〇〇	一萬圓以上	一萬圓以上	一萬圓以上
割引手形	二,九〇六	二,三三四	三九,三三三	一萬圓以上	一萬圓以上	一萬圓以上
計	五七,一八〇	三三,六〇六	八,〇〇五	一萬圓以上	一萬圓以上	一萬圓以上
送金手形	取組高	支拂高	一,〇三二	一萬圓以上	一萬圓以上	一萬圓以上
荷爲替手形	取組高	取立高	三,七六一	一萬圓以上	一萬圓以上	一萬圓以上
代金取立手形	取組高	取立高	三,八四六	一萬圓以上	一萬圓以上	一萬圓以上
十二月末日金銀在高	一四四,〇八四			一萬圓以上	一萬圓以上	一萬圓以上
貸金利息	最高	最低	平均	一萬圓以上	一萬圓以上	一萬圓以上
割引歩合	最高	最低	平均	一萬圓以上	一萬圓以上	一萬圓以上
預金利息	最高	最低	平均	一萬圓以上	一萬圓以上	一萬圓以上
定期預金利息	最高	最低	平均	一萬圓以上	一萬圓以上	一萬圓以上

當座預金利息	最高	最低	平均
小口當座預金利息	最高	最低	平均

株式会社三井銀行長崎支店 (長崎市西濱町)

本店資本總額二千萬圓(拂込済)、積立金一千三百九十五萬圓、東京深川、横濱、小樽、名古屋、大阪(二ヶ所)、京都、神戸、廣島、門司、下關、福岡、長崎及上海に支店を置く。長崎支店の設置は明治四十二年十一月なり。大正七年中長崎支店考課表左の如し。

○大正七年中三井銀行長崎支店考課表

科 目	大正七年中預入高	大正七年中拂戻高	十二月末日殘高
定期預金	四,三〇七,七〇〇	三,八五四,五二四	二,四七〇,六六六
當座預金	三,一九〇,六〇四	三〇,三七五,二九三	一,一九九,六六六
小口當座預金	二,九四四,九四五	一,六一一,四九九	一,〇七三,五九八
諸預金	一,四六四,二五五	六九七,七七六	五三三
計	一二,七〇六,七〇九	七,九六九,〇四六	五,一七七,五二八
貸付金	總貸高	拂込受高	十二月末日殘高
(証書形)	四,五三三,三三〇	四,四一〇,七三九	八,〇〇五
	三,五三三,三三〇	三,一三三,三三〇	一〇,〇〇〇

當座貸越金 計	七、五四〇、七九	七、三三六、九四四	四八、八五
	一、九七七、四〇〇	一、六七五、三四四	五、四六、四〇六
送金手形	取組高	支拂高	六、一五九、七〇
荷爲替手形	取組高	取立高	一、一六三、〇九六
代金取立手形	取組高	取立高	一、三六〇、〇六
十二月末日金銀在高	二七、一九三		
貸金利息及割引歩合			
貸金利息	最高 一萬圓以上	最高 一千圓以上	最高 一百圓以上
	最低 一八厘	最低 一八厘	最低 一八厘
割引歩合	最高 二二厘	最高 二二厘	最高 二二厘
	最低 一八厘	最低 一八厘	最低 一八厘
預金利息			
定期預金利息	一ヶ月以上 (年利)	六ヶ月以上 (年利)	三ヶ月以上 (年利)
	最高 五分	最高 五分	最高 五分
當座預金利息	最高 六厘	小口當座預金利息	最高 一錢
	最低 六厘	最低 六厘	最低 一錢

株式會社長崎高木銀行

(長崎市東濱町)

當行は大正元年十一月六日の設立に係り資本總額百萬圓、内拂込済二十五萬圓、積立金一萬六千圓なり、頭取高木與作氏、全國各地百十五ヶ所のコルレス先を有す。大正七年中同行考課表左の如し。

○大正七年中長崎高木銀行考課表

科 目	大正七年中預入高	大正七年中拂戻高	十二月末日残高
定期預金	五、六、五、五八	五、三、九、九元	三、九、四、四
當座預金	三、六、四、六六	二、三、四、九、八一五	二、九、二、八、五二
小口當座預金	六、〇、六、五二	五、八、七、二、九三	五、五、七、五、六
諸預金	二〇八、〇、四六	三、七、一、三、三	一、〇、一、一
貯蓄預金	一、〇、九、一、四八二	一、八、三、三、四七九	二、〇、三、四、八二
計	一、六、九、七、三、四	一、六、七、七、六、六	九、三、一、三、四二
科 目	大正七年中預入高	大正七年中拂戻高	十二月末日残高
貸付金	三、〇、九、一、〇、七	三、五、六、〇、一、二	六、四、〇、五、四
當座貸越金	二、九、四、六、〇、三	一、五、〇、〇、七、四	二、一、八、〇、〇
割引手形	六、四、一、〇、五	六、三、七、五、三	二、一、九、九、九
計	一、七、八、四、九、二	一、七、三、三、三、〇	一、七、〇、〇、九

計	八、三三三、四三六		七、四一、八八八	一、〇五三、五〇四
	送金手形	取組高		
寄爲替手形	取組高	二六三、一三四	取立高	三三、七一九
代金取立手形	取組高	一三、八三五	取立高	一五、三三二
十二月末日金銀在高	八、七六〇			

貸金利息及割引歩合

貸金利息	最高 最低		最高 最低		最高 最低	
	一萬圓以上	一萬圓以下	一千圓以上	一千圓以下	一百圓以上	一百圓以下
割引歩合	最高 最低		最高 最低		最高 最低	
	二〇厘	一八厘	二六厘	一八厘	二七厘	二〇厘
	二二厘	一八厘	二七厘	一九厘	二八厘	二〇厘

預金利息

定期預金利息	最高 最低		最高 最低		最高 最低
	一ヶ年以上 (年利)	六ヶ月以上 (年利)	三ヶ月以上 (年利)	三ヶ月以下	
當座預金利息	最高 最低		最高 最低		最高 最低
	六厘	六厘	小口當座預金利息	五厘	最高 最低
	六厘	六厘		五厘	一錢 最低 一錢

株式會社長崎縣農工銀行

(長崎市大村町)

當行は明治三十一年三月二十四日の設立に係り資本總額八十萬圓、内拂込濟七十萬圓、積立金二十八萬九千六百圓、取締役頭取帆足隼太郎氏、常務取締役島津良知氏、取締役永見寛二氏、立石弘良氏、野田龍二郎氏、田崎周三郎氏なり。大正七年中同行考課表左の如し。

○大正七年中長崎縣農工銀行考課表

科 目	大正七年中預入高		大正七年中拂戻高		十二月末日殘高	
	定期預金	二〇、九五、九二五	一、九〇、六四三	一、三三、一五三	定期預金	一、三三、一五三
當座預金	五〇、九六七	四四、三八八	七、六八一	當座預金	七、六八一	
小口當座預金	八〇七、一一〇	△三六、〇〇三	一七三、三〇三	小口當座預金	一七三、三〇三	
合計	二、九五四、〇〇一	二、八一、六三四	一、四一、一三四	合計	一、四一、一三四	
科 目	大正七年中總貸金		大正七年中拂戻高		十二月末日殘高	
	年賦貸金	四六、三九〇	三七、二〇二	二、四七、六二八	年賦貸金	二、四七、六二八
定期貸金	一三、一〇〇	四、三三四	二、六四、八三四	定期貸金	二、六四、八三四	

長崎港概観

一三四

代理貸付保証		貸金預金利息	
合 計	末日金銀在高	一萬圓以上一千圓以上	百圓以上
九六五、一五〇	一、四六六、七四〇	同	同
七九七、九六六	一、三三三、一〇一	定期貸金利息	定期貸付利息
一、三三三、一〇一	一、三三三、一〇一	年六分	年八分三厘
四、四三三、八二〇	一、三三三、一〇一	一ヶ年以上六ヶ月以上	同
七、三〇〇、三三六	一、三三三、一〇一	三ヶ月以上	同
一、七二二、一五〇	一、三三三、一〇一	同	同

株式会社福岡銀行長崎支店

(長崎市西濱町)

本店資本總額五百萬圓、内拂込済二百四十七萬五千圓、法定積立金十一萬二千圓、別段積立金十九萬五千圓、福岡に三ヶ所(中島支所、官内支店、吳服町支店)、箱崎、八幡、直方、飯塚、甘木、長崎、東京、戸畑、折尾各地に支店を有す、長崎支店の設立登記は大正三年十月なり。夜間營業す。

香港上海銀行長崎支店

(長崎市大浦下り松町)

19,596	23,535
1,251	1,735
6,449	10,059
28,976	24,799
19,608	18,081
31,250	32,310
38,306	44,942
32,975	43,140
22,677	8,900
37,205	38,211
15,424	23,709
—	—
—	—
1,284	1,709
—	—
—	—
6,193	10,569
1,873	1,349
726	984
—	—
7,021	7,310
—	—
54,358	48,479

最近五ヶ年間市内六倉庫貨物出入表

品目	單位	大正七年		大正六年		大正五年		大正四年		大正三年	
		入庫	出庫	入庫	出庫	入庫	出庫	入庫	出庫	入庫	出庫
內地支米	噸	439,950	458,378	366,780	394,939	293,049	178,545	284,294	288,144	317,845	311,207
內地白米	同	162,753	163,889	155,126	161,996	138,460	128,459	124,848	122,929	60,876	60,933
朝鮮米	袋	8,031	7,415	6,073	6,935	9,486	8,403	28,401	51,685	—	—
臺灣米	同	31,037	31,005	10,740	5,880	4,381	4,381	3,524	5,042	—	—
外國米	同	61,411	46,169	329	319	3,111	4,643	4,923	11,401	52,241	62,449
麥類	同	162,419	160,776	96,765	85,583	30,812	30,514	16,692	14,219	16,403	17,999
雜穀類	同	4,762	4,926	30,505	26,304	2,821	2,901	8,427	9,747	26,396	22,709
豆類	箱	56,257	55,254	48,727	47,495	37,658	35,596	38,264	38,409	19,596	23,535
製茶	噸	558	526	750	797	778	697	94	65	1,251	1,735
精糖	丸	9,968	9,405	9,969	10,859	11,096	10,682	11,237	11,159	6,449	10,059
粗糖	噸	17,930	18,395	13,729	13,819	14,090	14,408	17,375	16,540	28,976	24,799
麥粉	袋	32,553	31,110	20,882	20,823	17,324	18,843	18,657	19,047	19,608	18,081
海產物	個	19,606	12,951	96,658	106,818	16,006	9,050	8,130	6,045	31,250	32,310
豆糟	玉	192,661	174,790	120,662	145,082	143,492	111,632	56,338	55,948	38,306	44,942
種糟	個	11,912	22,078	53,834	44,111	27,041	26,025	19,444	25,762	32,975	43,140
麥糟	袋	2,115	1,369	632	632	742	1,154	2,071	1,867	22,677	8,900
牛骨及骨	粉	7,872	12,464	20,563	15,339	21,868	26,200	16,926	28,487	37,205	38,211
海產肥料	個	123,995	114,561	50,192	48,194	6,056	6,354	8,062	9,555	15,424	23,709
人造肥料	袋	13,082	14,164	11,201	10,636	3,495	5,139	9,510	1,400	—	—
陸產肥料	個	10,670	10,416	2,480	2,864	3,295	4,785	6,946	10,431	—	—
干牛	餅	82	—	—	—	3,620	3,077	—	—	1,284	1,709
木蠟	罐	8,920	4,943	50	205	1,447	1,642	362	350	—	—
木材	個	4,037	1,604	3,368	2,726	3,867	3,256	1,336	1,168	—	—
木炭	袋	14,922	19,155	23,584	13,584	12,846	18,531	36,503	37,385	—	—
洋紙	箱	1,224	338	128	113	56	94	301	324	—	—
和紙	同	558	387	776	713	319	401	821	1,099	6,193	10,569
椎茸	同	479	435	427	643	875	869	876	774	1,873	1,349
棉花	丸	2,129	2,943	4,382	3,857	8,370	7,631	2,687	2,060	726	984
食料	個	22,169	23,757	34,419	38,554	12,657	5,965	2,772	2,592	—	—
麵類	箱	3,174	2,462	840	440	550	550	370	543	7,021	7,310
乾物	個	17,765	19,041	17,421	20,904	20,991	17,408	12,307	13,123	—	—
雜品	同	64,623	102,496	84,761	38,999	31,772	23,048	14,324	18,053	54,358	48,479

貸金預金利息	
定期預金利息	年賦貸付利息
年八分三厘	年八分
同	同
同	同
同	同
定期貸金利息	一萬圓以上
年六分	一千圓以上
同	百圓以上
同	一ヶ年以上
同	六ヶ月上
同	三ヶ月上

株式會社福岡銀行長崎支店

(長崎市西濱町)

本店資本總額五百萬圓、內拂込濟二百四十七萬五千圓、法定積立金十一萬二千圓、別段積立金十九萬五千圓、福岡に三ヶ所(中島支所、官内支店、吳服町支店)、箱崎、八幡、直方、飯塚、甘木、長崎、東京、戸畑、折尾各地に支店を有す、長崎支店の設立登記は大正三年十月なり。夜間營業す。

香港上海銀行長崎支店

(長崎市大浦下り松町)

本店(香港)總資本額二千萬弗(拂込額千五百萬弗)積立金三千四百五十萬弗、長崎支店の設置は明治二十九年なり。

第二節 倉庫

長崎市内主要倉庫業としては左の七種を數ふべし。

名 稱	棟數	營業所	營業者
中村倉庫	九	長崎市浦五島町	中村雄太郎
永見倉庫	二〇	同 入江町二丁目	永見徳太郎
松本倉庫	一四	同 浦五島町	松本莊一郎
平松倉庫	九	同 浦五島町	平松喜三郎
高見倉庫	四	同 浦五島町	高見松太郎
肥塚倉庫	八	同 樺島町	合資會社肥塚商店
長崎自由倉庫	四	同出島内(税關假置場内)	長崎自由倉庫株式會社

右の内長崎自由倉庫を除く六種を長崎同盟倉庫と稱す。

尙官設のものには税關保税倉庫二棟、收容倉庫一棟、假置場倉庫三棟、上屋倉庫三棟あり。

長崎同盟倉庫現行保管料規定左の如し。(大正六年十一月改定)

一、保管料ハ從價率ト從量率トニ依リ算出合計シ月ノ十五日前後ニ依リ全月分又ハ半月分ヲ申受クルモノトス

一、從價率ハ保險價格又ハ申込價格ヲ標準トシ一ヶ月ニ付左ノ通りトス

一 普通貨物 千分ノ一、一

一 第二種貨物 千分ノ一、八

一 第三種貨物 千分ノ二、〇

一 消費稅未納ノ貨物ハ消費稅ヲ加算シタルモノノ 千分ノ一、二

一、水揚受渡及荷造改造ハ從量率ノ半額ヲ申受クルモノトス

一、入庫米ヲ取引所ノ審査ヲ得ル爲メ假ニ藏出シタル場合ハ一個ニ付五厘ヲ寄託主ヨリ申受ク可シ

一、一枚ノ證券ニ對スル保管料一ヶ月金壹圓ニ充タザルトキハ證券料ヲ申受ク可シ

一、證券ノ分割書替及再渡ハ證券一枚ニ付一枚證券ハ金拾錢二枚證券ハ金貳拾錢ヲ申受クベシ

一、從量率ハ左表ニ掲グ

但シ本表ニ記載ナキ貨物ハ表中類似品ニ準據ス

從量率

普通貨物

品目	單量	單位	從量率	品目	單量	單位	從量率
內國米	三斗俵	一個	一錢二厘	精製糖	百斤	一個	五厘
臺灣米、外國米	四斗俵	同	一錢四厘	粗製糖	同	同	八厘
內地雜穀	五斗俵	同	一錢六厘	黑糖	百四十斤	一樽	四錢
外國雜穀	內五十斤	一石	一錢八厘	麥粉	內五十斤	一袋	五厘
數ノ子	百斤	一袋	二錢二厘	雜粉	五十斤	一箱	七厘
棒	廿四貫	同	四錢	切干芋	八十斤	同	七厘
錫	廿五貫	同	二錢	硫酸アンモニヤ	五十斤	一個	一錢五厘
揚	百斤	同	四錢	人造肥料	百七十斤	一個	三錢
干海草	內百五十斤	同	四錢	大豆粕	同	同	一錢二厘
天	同	同	五錢	種粕	四十六斤	同	六厘
昆布三ツ石利尻	同	同	四錢	種粕製粉	百斤	同	一錢五厘
折昆布	同	同	二錢五厘	骨粉	同	同	一錢二厘
內五十斤	同	同	二錢五厘	粉	同	同	一二厘

第一種貨物		第二種貨物		第三種貨物	
和紙	一才	鐵帶卷棉花	一 百斤	袋入棉花	六十斤 一個
和紙	一才	鐵帶卷棉花	二 錢	袋入棉花	百廿斤 一個
和紙	一才	鐵帶卷棉花		袋入棉花	百八斤 一個
和紙	一才	鐵帶卷棉花		袋入棉花	十二錢
和紙	一才	鐵帶卷棉花		袋入棉花	蠟牛木
和紙	一才	鐵帶卷棉花		袋入棉花	蠟牛炭
和紙	一才	鐵帶卷棉花		袋入棉花	五十斤 一袋
和紙	一才	鐵帶卷棉花		袋入棉花	同 百斤 一袋
和紙	一才	鐵帶卷棉花		袋入棉花	同 四錢 一錢五厘
和紙	一才	鐵帶卷棉花		袋入棉花	三錢

第五章 金 融

明治二十六年

銀貨の下落は我國の貿易上輸入に不利、輸出に利ならしめ明治二十四年以來輸出常輸入に超過し、二十四五年に於ける出超の如きは實に三千六百餘萬圓に達し、二十六年亦其勢を低止せず。日本銀行の正貨準備は未曾有の豊富を告げたり。此時に常り政府は財政整理の結果として高利公債の償還を受引せしにより經濟界は茲に明治十九年以來の大緩漫を現出し、資本家は放資の途を求むるに汲々たるの結果、公債株式共に異常の高値を示し従て事業の擴張新設を喚起し、各地鐵道の計畫、紡績事業の増設、保險會社の新設等各種の企業續出するに至れり。然れども後半期に至りては米國に於ける銀貨及關稅に關する二問題は延いて其影響を我國に及ぼし、物價は騰貴して輸出入は反對の傾向を告げ、加ふるに九州中國地方風水害及蟲害の爲め米價騰貴し財界一變の暗流を胚胎せしも大勢は尙依然緩漫の状態を持續せり。

明治二十七年

八月對支宣戰の公布あり兩國の通商茲に杜絶し、朝鮮に於ける支那人も悉く退去したる結果、多年彼等に浸蝕せられたる對朝鮮貿易我手に歸し當港より供給する金巾洋紗等の輸出舊時

の状態に復し、日支貿易の凋衰は對朝鮮貿易の隆盛によりて補はれたり。

明治二十八年

前年來稀有の盛況を呈したる對朝鮮貿易は、今年に入りて其反動期として一時沈淪不振の景況を呈せしも、内地商業は平和克復と共に頗る活氣を呈し、各銀行著しく貸出金を増加せり。

明治二十九年

朝鮮に於ける暴民蜂起の爲め同國の貿易殆ど休止の姿に陥り、一時業務を擴張せし當業者は尠なからざる損失を受け、當港の金融界は甚だ不振の裡に經過したれども、一般經濟界は漸く戰後事業勃興の兆あり繁忙の時期此時に胚胎せり。

明治三十年

戰後經濟界膨脹の結果は果然物價の暴騰を惹起し、金融漸く繁忙を告げ年末に及び一層緊縮の度を強くし遂に日本銀行を始め各銀行金利引上を行へり。

明治三十一年

物價の騰貴、貿易の逆勢、資金の固定一として經濟界困弊の原因たらざるなし。殊に後半期に入りては是等の趨勢其頂上に達したるものゝ如く、公債株式の下落を生じ新事業の多くは中途挫折を餘儀なくせられたるのみならず既設の企業も中止の悲境に陥りたるものあるを以て

政府は之が救済の一端として勸業債券の募集に應じ日本銀行をして公債を買入れしむる等百方金融の緩和を圖りたる結果稍緩和の端を啓きたるも米價の下落餘りに急激にして加ふるに諸物價下向を呈したるを以て商況萎縮して振はず遂に二十三年に劣らざる大恐慌を惹起し、到るところ不景氣の歎聲を聞くに至れり。

當市の狀況を顧るに一月に於ては前年末來稀有なる逼迫の餘を受け新陽を迎へたるに拘らず猶舊節季の決算期に遭遇せるを以て金融一般に緩和する事能はず、二三月亦引續き此悲境にあり、四五月の頃に至りては、物價騰貴、輸入超過、正貨濫出等の一般的原因に加へて、諸會社拂込金及納税金額亦巨額に達したるが爲め只管資金の需要を増加したる折柄、日本銀行は前述の如く銳意資金の回收に努め貸出を躊躇したるより、各銀行亦従つて大いに警戒する處ありたり。然るに八月舊盆節季に際會し却て商況不振に陥り金融至極緩和し、年末多少緊縮の狀なきにあらざりしも一般商況不振の結果寧ろ平穩に經過せり。

明治三十二年

一月に於ては眼前舊節季を控へ且客年末に砂糖等の如き巨額の輸入ありし爲め外國銀行に於て資金の缺乏を訴ふる折柄、下半期に至り久しく下落の一方なりし米價は頓に上騰して商況多少活氣を添へ來りしかば金融漸く景況を呈し來りしが、大勢は依然沈靜にして活氣なく、平穩

の状態に越年せり。

明治三十三年

一月下旬舊節季に際し金融市場頗る繁忙を呈したりしも其後一般商況の沈静に伴ひ頗る閑散を極め以て二月を経過するに至りしが三月に入りては米價の低落と諸税金の徴收とにより、再び繁劇の状態に復し、金利亦漸次高調子を示したり。四月以降は米價を始め諸物價低落し、荷動き活潑ならず、六月中旬に至り早魃と北清事變とを氣構へ商界漸く色めき來れども未だ資金の需要起らず、沈静の姿なりしが奈何せん日本銀行に於て外國貿易の逆勢よりする正貨の流出を防ぐが爲め金利を引上げ各銀行亦之に倣うて警戒を加ふるに至れる折柄北清の騒亂起り、一層警戒を嚴にし、一時對支貿易を阻碍せられんとせしも、海産物其他の輸出品は却て好況を呈し、且上海地方恐慌の爲め金巾類の當港を経て朝鮮に仕向けらるゝもの増加し、秋季以來活氣を帯び來り、金融頗る繁忙の狀を現せしかば金利又々上進し貸付日歩に於て壹毛方、割引歩合に於て壹厘四毛を引締むるに至れり。

明治三十四年

一月末舊節季決算期に引續き二月にありては當地に於て未曾有の巨額に上れる定期米の受渡の爲めに資金の需要起り四月に至りて漸く其受渡を結了し得たる程なりしかば逐月貸出の増加するを免れざりしが之と同時に預金も漸次増進しつつありたるを以て視れば一月乃至三月の期間に於ける當市金融界は幸に順潮を追ひ來りたるも奈何せん客臘熊本に於て一二銀行の支拂停止をなすありて其餘波未だ靜穩に歸せざるの際又々同地に恐慌起り延いて福岡久留米に及ぼすに至りたる結果、當市方面に金融を求むること頻繁なると共に京阪地方金融の大勢は兎角平穩を缺き各銀行共頗る警戒を加へ、隨つて金利も逐月高率に赴きたり。

明治三十五年

新春來商界暫く鎮靜の景況を呈したりしが舊年末に際して金融の繁忙を見る。然れども爾後又商況不振金融沈滞し、四月中旬物價漸く騰貴の氣配を顯し商品の荷動き稍活氣を呈し來りたれども多くは停滯貨物の移動と季節品の出入に止り未だ市場一段の繁忙を添へて著しく資金の需要を喚起するに至らず、貸付日歩は各銀行共多少之を引下げたるに拘らず、貸付高は寧ろ減少せり。爾來商況は更に沈衰し、銀行は夥多の遊金を死藏して眠るが如く越年せり。

明治三十六年

金融緩慢金利低落は財界一般の大勢にして中央銀行は兌換券發行餘力多額に上り、各地銀行亦遊金を擁して放資の途に苦心したり、されば當地銀行も亦此大勢を免るゝ能はず屢々金利を引下げ需要を歓迎せり。

明治三十七年

商工業不振沈衰の状況は依然打開の途なく、日露開戦の結果一時金利暴騰の傾向を示したれども、商況彌々沈衰して資金の需要起り來らず、只當地にありては對朝鮮荷爲替稍活氣を呈せしかども之亦金融上格別の變化を與ふるに至らざりき。

明治三十八年

本年に入りて經濟界は一面戦後經營の氣運漸く動き、滿鮮地方に對する事業の計畫、對外貿易の盛況、物價騰貴等の原因により資金の需要を促したるも、他面戦時中放散せられたる軍費と外資の流入大なるあり。兩々調和して平穩の状態に經過せり。

明治三十九年

戦後資金横溢し銀行業者は徒に巨大の遊金を擁して其運用に苦みたるも日清戦後の大恐慌に鑑み慎重の態度を執り所謂戦後經營の急務なるを呼號するものあるも極めて冷靜を以て之を迎へ進んで新事業を企劃するものなかりしが、政府が南滿鐵道株を募集するに方りて應募額の多大ならんことを期圖し種々の手段を回らして頻りに投機熱を煽揚したる爲め遂に其額千七十八倍の多きに上る上同時に諸種の株式は冲天の勢ひを以て昂騰せしかば、事業熱は勃然として生じ、権利株の獲得に狂奔し投機熱は日一日と昂進して十二月に到りては新設會社の資本金十數

億圓を數ふるに至れり。但し當市に於ては左したる異動を見ず經過せり。

明治四十年

當年我經濟界は株式の暴落、銀行の破綻、銀塊、銅、綿絲等の市價に大變動ありて財界の波瀾起伏殆ど空前の觀を呈す。其最大原因は彼の戦時以來巨額の外債と他方に戦後財政の膨脹に伴ふ資金の民間に散布せらるゝ高非常の多額に達したると相俟ち内地通貨は不斷に夥しき膨脹を持続したるが爲めに外ならず。然れども此間長崎に於ける金融は常に一律の状態を持続し、一月某銀行が特殊の事情により當市の金融上には全く無關係なる一時的幻影高千三百萬圓を除外すれば例年と大同小異にして三月及八月の肥料出廻期節及米穀出廻時期に於て多少の繁忙を極めたる外大體に於て恐慌の餘波を蒙る事なしといふも不可なかりき。

明治四十一年

一月は月末が舊歲晚と同時に落合たることにて中央市場の金融界は非常の繁忙を告げ日本銀行本支店共其貸出高の多額なる事去る明治三十三年以來未だ見ざる巨額に達したりとて稍引締りの傾向ありしに拘らず當市金融界は昨年後半期沈靜の後を繼ぎ一般の商況依然として萎靡不振の裡に在りて閑散を持続し中旬後は舊歲末の現象として多少繁忙を呈し金利も強含みとなりしかども是とて何等特殊の材料ありしにあらず。

二月に入り生絲の停滯、綿絲の不況、銅鐵及綿絲商の破綻、銀行の取付休業等近來悲觀材料豊富にして財界の風雲險惡を告げ市場再び恐怖警戒に鎖され金利も一層強含みの傾向なりしに拘らず、昨年八九月の頃より漸次預金の減少あるは頗る銀行家の戒心に値する現象なりとて久しき宿題たりし預金金利引上説を生ずるに至れり。當市亦一般の大勢に伴ひ警戒を怠らざりしかども預金減少額の如きも洵に微々たるものにて只當月米穀及砂糖、石油等の荷動あり金融稍々繁忙を見、舊節季に放資せる資金の漸次回收せられ金利は一厘を引上げたるに過ぎず。

三月、一般財界は依然として沈衰の悲況にあり、當市に於ては商品擔保の貸出稍多忙ありしも別に緊縮を訴ふる程の事なく例月同様先づ平穩に經過せしも、彼の在留支那海產物貿易商振泰號外四五名が支拂を停止し續いて閉店をなすに至りし一事は直接間接營業者並に一般の警戒するところとなりたり。

四月、關東商人のボイコットは其勢力漸次猖獗を致し一時取引杜絶の姿に陥り、當港主要の仕向品たる海產物の停滯數十萬斤の巨額に上り、金融界にも少からざる打撃を與へ、加ふるに近來米價下落の爲め農家が持米を賣惜むと及び諸物價低落の傾向を示せることにより一般商品の買控をなすもの多く、從て銀行家は益緊縮を嚴にし努めて放資を澁るの状態にあり市況著しく不況を呈したり。

五月米穀肥料砂糖及煙草等の荷動き少からず、特に肥料は期節品として需要頻繁ならんとする折柄銀塊下落の爲め價額暴落を呈し、米價の下落に氣挫けて兎角買進ざる氣勢なりしにも拘らず相應に賣行あり、又關東地方ボイコット未だ解合はざるも上海經由の仕向頗る多きを加へ一時金融の逼迫を告げたるも、月末より六月に亘り資金の回收存外多きに達し稍小緩の状態となり金利累進の趨勢を調和し得たり。

斯くて上半期を案外無事に經過し七月各種肥料の停滯品も悉皆出拂たる爲め金融緩和せられたりしも一面豆粕、種子粕等の後物輸入あり、砂糖、麥粕の荷動き、外米の輸入、諸税の納付、冬物切入等資金の需要を惹起し金利一般に強含の氣配を示せり。

八月は上旬恰も舊盆節季に當り例に依り地方決済資金の需要、雜穀の出廻及朝鮮輸出金中の荷動頻繁を加へ一時金融の活況を呈したりと雖も其後漸次緩慢に趣き金利も一二厘方引下げたり。

九月は前月に引續線綿及朝鮮向金中の荷動あり且米穀の出廻りも多かりし爲め資金の該方面に吸収せらるゝもの頗る多かりしが一方に於て月初市公債利子の支拂あり一般に保合の姿に經過せり。

十月に入りては冬物仕入等も一段落を告げ酒造税を除く外特に資金需要の見るべきものな

く、一時砂糖の出廻り好況を呈したれども朝鮮向輸出金巾の荷動衰へたる爲め金利反て弱含みとなれり。

十一月は大節季前とて金融自然に活況を呈し金利も幾分小締を見る順序なりしに又しても例のボイコットの勃發あり對支貿易萎靡として振はず、且新米出廻季節なるに拘らず價額下落の結果引續き鈍狀を改むるに至らざりき。

十二月も亦ボイコットの影響を受け貿易不振を極め、米穀其他一般商品の出廻りも盛んならず金融寧ろ閑散なりしかども追々歳末に迫るに従ひ取引の決済に伴ふ送金爲替等著しく増加し市中各銀行共相當の活況を呈し中央市場の緊縮に連れ金利も一二厘方引締るに至れり。

明治四十二年

一月上旬は前年末商況活潑ならず金融界緩漫の後を承け放出資金は回収せられ預金漸次増加し引續き緩漫の狀勢なりしも中旬よりは舊節季に相當せることとて支那人及び地方の勘定決済の爲め幾分氣配引立しと雖も金利は依然日歩二錢五六厘唱にて尙ほ中央市場の引緩みに連れ弱含の内に越月せり。

二月前月に引き續き緩漫にして商工業不振の結果遊金増加の傾向を示し中旬に多少米、砂糖等の荷動有しも特に資金の需要を惹起するに至らず貸金は回収一方にて前月に比し著しく減少

し金利二厘方引下げ預金利子も亦低落せりと雖も預入額は益増加し同盟銀行は更に利子引下の模様を示しつつ経過せり。

三月 久しく緩漫の金融市場も本月に入り米穀、肥料、金巾、銅、鐵等の集散多額に上りし一方には來年度公金庫の検査及び酒造税其他の納期に依る資金の需要は地方銀行への貸出金を増加し預金も亦多少減じ來り近來珍しくも各銀行稍繁忙の氣勢を呈したるも後者の如きは性質素より一時的のものなれば回収も隨て速かに且つ商工業不振の際とて其後去月來の利子引下も直接の影響なく前途資金の需要見へざるより下旬に入り預金利子は一厘方低落を告げ更に國債償還等あるを以て前途益々緩漫の度を増すの狀態なりき。

四月 當月は藤公三百年祭を機とし偶々當市製産品評會其他各種展覽會等の催しあるや旅客非常に増加し市況爲めに活氣を呈せしと夏物仕入季節及肥料石油等の輸入多額に上り多少資金の需要を喚起し金融は敢て活潑と云ふに非らざるも稍小康の狀を現はし一部銀行の如き之を前月に比すれば預金の減少と共に貸出金著しく増加し早くも望みを前途に囑する者あるに至れりと云へとも貿易其他の事業不振の狀態より推する時は一時的の現象に過ぎずして金利の如き兎角持合の姿にて割引日歩最高二錢六厘最低二錢二厘を唱へ何等の變化なく越月せり。

五月 數月來金融の趨勢益々緩漫の度を加へ本月の如きは前月に比し預金五十餘萬圓増加せ

るに反し貸出は四十餘萬圓の減少を見たり是れ豆粕の入着白米出廻り等を除き特に資金の需要なく殊に海産物は時恰も端境期節に臨めることよて在荷極めて薄く市場兎角活氣を缺き市中各銀行は遊金の多きに苦み金利は又貸金割引共に二厘方低落したり。

六月 本月は肥料、砂糖、米穀の出廻り頗る多く殊に大豆粕は愈需要期節に迫るに従ひ賣行好況を呈し資金需要の主位を占め海産物も亦支那麥作良好なれば支那商等漸く買進み來り天候の適順は農作の好望となり殊に本月は盆節季前とて一般商況稍活氣を現はせりと雖も未だ財界に左程の影響なく金利は各銀行多少の上下をなせしも大體に於て持合金融は依然緩漫の内に経過したり。

七月 前月は上半期決算にて資金の移動多少頻繁を加へたるも越月後は大豆粕及種粕の荷動稍や増加せるのみにて一般の商勢は概して不振の域を脱せず殊に當月は盆節季に際會せるも左程の影響なく上半期決算資金は迅速に回收せられ預金は前月に比し八十六萬餘圓更に前年同月と對比すれば實に百餘萬圓の増加となり貸出は益々減少し金利は貸附割引共に日歩一厘方下落したり。

八月 本月は舊盆節季に當りたるも例年は商品の荷動多く市況活氣を呈するに反し本年は銀行共極めて閑散を告げたり然るに下旬に入り本市港灣公債償還抽籤執行ありたるに依り遽かに

色めき有價證券の賣買増進したると免に角舊盆節季の事とて例月に比すれば稍繁忙なりき。

九月 當月は前月に比し預金に於て百餘萬圓を減し貸附金に六十餘萬圓を増し金融界は多少活氣を帯びたるの觀を呈せり前者は主として諏訪神事前なると市公金の引出し及所得税の納附等に依り後者は冬物仕入朝鮮向金巾及洋鐵等の荷動き多かりしに因る然れとも大勢は依然緩漫なるを免れざりき。

十月 季節變りに依る各種仕入品も一段落を告げ米穀、肥料等多少の出廻りたる以來特に資金の需要起らず金融は引續き緩漫なるを以て金利は貸附、割引共に一厘方を下げたり。

十一月 歳末に迫れると所得税、營業税及其他租税の納税期にて例年金融市場は活況を呈し來るに本年は米價下落の結果地方の購買力を減退し惹て沈睡せる商況は益々甚しきを加ふるのみ新穀出廻季節なるにも拘はらず右の原因に依り農家は賣惜みて出荷抄々しからず加ふるに其他資金の需要喚起せず之れを彼のポイコトツ再發して頗る閑散なりし昨年同月の貸出高に比するも百四十三萬五千餘圓の減額を來せり。

十二月 當月は歳末大節季の事とて決済資金の需用を喚起したるのみならず今年末より今後舊曆の廢止に依り地方部落も漸次新曆取引に改むるの傾向あると農家の持米賣惜みの結果預金の引出多き爲め地方銀行より資金融通の申込存外嵩みたると下旬に至り米國海陸軍並に同國大